

工 事 名	令和7年度 富谷小学校校舎改修工事(繰越) 仕様書(参考)		
金 額	一金 円也 (内消費税額 円)		
構 造 規 模	鉄筋コンクリート造 地上3階 地下1階 延床面積: 4,746㎡		
仕 様 概 要	別紙のとおり		
項 目	摘 要	金 額	備 考
直 接 工 事 費			
共 通 仮 設 費			
純 工 事 費			
現 場 管 理 費			
工 事 原 価			
一 般 管 理 費			
工 事 価 格			
改 ム			
消 費 税			
総 合 計			

名 称		規 格・寸 法	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
	令和6年度富谷小学校校舎改修工事						
A	建築工事			1.0 式			
	直接工事費						

名 称	規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事					
	整理清掃後片付け	一般改修 RC 地上階	1,922	m ²		
	外部組み足場	くさび連結式足場 従来型 手すり先行型 幅600mm 存置6ヶ月 高さ20m未満	4,324	架m ²		
	ローリング足場	キャノピー下 幅1.5m 高さ2m未満以下 存置1ヶ月	1	台		
	内部階段仕上げ足場	存置1ヶ月	32.8	床m ²		
	単管一本足場	RF階 塔屋 高さ10m未満	163	m ²		
	脚立足場	バルコニー上部 軒天作業 高さ1.8m 存置1ヶ月	265	m ²		
	外部落下物養生	南及び北側入口上部 存置6ヶ月	34.0	m		
	シート養生	防災シート貼 建築面積2,000m ² 3階	4,552	m ²		
	小 計					

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	金属工事						
	(外部)						
	雨樋	縦樋 VP管 100Φ 3,650mm×3箇所	11.0	m			
	見切りアルミ形材/チャンネル材	凹-2.4×30×30(バルコニーキャノピー曲面部 水切り材)	266	m			
	見切りアルミ形材/不等辺アングル材	┘-2.0×20×25(笠木と外装補修材 見切り材)	342	m			
	防水押さえ金物	バルコニー/シート防水上端 水切りアングル材	263	m			
	ラス張り	メタルラス 平ラス F500	96.4	m ²			
	小 計						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(1)	外壁						
	外壁塗装	無機複合フッ素樹脂塗装	3,615	m ²			
	外部塗装	RF 腰壁 モルタル塗り面 EP-G 工程B種	96.4	m ²			
	素地ごしらえ	RF 腰壁 モルタル塗り面 工程B種	96.4	m ²			
	小 計						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(3)	鉄部 手摺り						
	手摺り	耐候性塗料塗りDP 細幅物/鉄面 50Φ	344	m			
	手摺り__支柱	耐候性塗料塗りDP 細幅物/鉄面 20Φ	115	m			
	プレート__支柱	耐候性塗料塗りDP 細幅100mm程度/鉄面	0.3	m ²			
	ケレン工	面RB種 3種ケレンB	60.0	m ²			
	素地ごしらえ	細幅物/鉄面(325m+84m)	459	m			
	錆び止め塗装	細幅物/鉄面鉛クロムフリー材(325m+84m)	459	m			
	小 計						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(4)	鉄部 外部階段						
	主要構造部	耐候性塗料DP	82.6	m ²			
	床面ほか	耐候性塗料DP	106	m ²			
	手摺り	耐候性塗料DP / 細幅物	780	m			
	ケレン工	面 RB3種ケレンB	188	m ²			
	素地ごしらえ	鉄面/改修仕様	188	m ²			
	錆び止め塗装	鉄面鉛クロムフリー材	188	m ²			
	素地ごしらえ	細幅物/鉄面	780	m			
	錆び止め塗装	細幅物/鉄面鉛クロムフリー材	780	m			
	小 計						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	防水工事						
	シーリング	シート防水上端/水切り材/シリコン2成分形15×10	267	m			
	シーリング	バルコニー軒/水切り材/シリコン2成分形30×10	241	m			
	シーリング	ピンネット仕上げ上端水切り金物 パラペット笠置下部/水切り材/シリコン2成分形15×10	343	m			
	(2及び3階 南側バルコニー改修)						
	防水シート	軽歩行 2.0mm圧 ルーフングシート防水 南側バルコニー及びキャノピー	409	m ²			
	既存防水層撤去	塗膜防水層	409	m ²			
	下地処理/2,3階バルコニー	ケレン・清掃	409	m ²			
	下地調整/2,3階バルコニー	ポリマーセメントペースト	409	m ²			
	小 計						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7	その他工事						
	高压洗浄	既存吹きつけタイル塗装除去	3,615	m ²			
	室外空調機	一時撤去、復旧工事		人工			
	避難器具(オリロー)	一時撤去、復旧工事		人工			
	(RF階 防水上部抑えモルタル部)						
	左官工事	RF 腰壁 モルタル塗り金ごて ラス下地 30mm	96.4	m ²			
	下地調整	B種	96.4	m ²			
	(アスベスト定性分析)						
	定性分析費用	指定場所	15.0	箇所			
	小 計						

名 称	規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
9	北面ダクトスペース解体工事					
	CB解体	150mm厚CB コンクリートブレーカー 集積共	7.7	m3		
	発生材積み込み	少量人力 コンクリート類	7.7	m3		
	コンクリートガラ/鉄筋くず共運搬	8.5km以下 人力積込 DID区間なし	7.7	m3		
	コンクリートガラ処分	有筋	18.1	t		
	有価物(スクラップ)	鉄類 H2	-58.5	kg		
	(DS内 既存ダクト撤去廃棄)					
	既存ダクト撤去処分(地階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 1,700×1,300×1.500	3.3	m ²		
	既存ダクト撤去処分(地階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 900×700×1.080	0.7	m ²		
	既存ダクト撤去処分(1階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 1,700×1,300×1.300	2.9	m ²		
	既存ダクト撤去処分(1階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 900×700×1.080	0.7	m ²		
	既存ダクト撤去処分(1階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 900×700×1.080	0.7	m ²		
	既存ダクト撤去処分(1階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 1,700×1,080×2,000	3.7	m ²		
	既存ダクト撤去処分(2階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 1,700×1,080×1,700	3.1	m ²		
	既存ダクト撤去処分(2階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 900×700×1.700	1.1	m ²		
	既存ダクト撤去処分(2階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 900×700×2,000	1.6	m ²		

名 称	規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
既存ダクト撤去処分(2階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 1,700×720×1,700	2.1	m ²			
既存ダクト撤去処分(3階)	亜鉛鉄板製 0.6mm 1,700×250×2,100	0.9	m ²			
長方形ダクト保温撤去	ロックウール・グラスウール屋内露出亜鉛鉄板	20.7	m ²			
搬出費	撤去ダクト	104	kg			
既存ガラリ撤去処分(2階)	1,000×1,240×35	1.0	箇所			
既存ガラリ撤去処分(3階)	1,000×1,530×35	1.0	箇所			
(DS 開口部 補修 1階床)						
コンクリート	21-18-20N	1.6	m ³			
配筋	D10 @ 200 ダブル	139	kg			
型枠	普通合板型枠	6.2	m ²			
シート防水	軽歩行 2.0mm圧 ルーフングシート防水	7.0	m ²			
防水押さえ金物	バルコニー防水上端 水切りアングル材	5.0	m			
(DS 開口部 補修 各階壁)						
コンクリート	21-18-20N	0.6	m ³			

名 称	規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配筋	D10 @ 200 シングル	28.0	kg			
型枠	普通合板型枠	3.9	m ²			
アンカー工事(床壁共通)		96.0	箇所			
鉄筋加工組立		167	kg			
鉄筋運搬費	4t車 30km程度	167	kg			
型枠運搬費	4t車 30km程度	10.1	m ²			
コンクリートポンプ圧送費	50m ³ 以下	1.0	回			
コンクリート打設手間	土間 50m ³ 一回程度	2.1	m ³			
シーリング	CB撤去後躯体との見切り/シリコン2成分形30×10	48	m			
小 計						

- 施工条件明示書 -

工事番号	項目	工事名	令和7年度 富谷小学校校舎改修工事（繰越）	事務所名	富谷市役所
条件		内 容		施工方法	備考
1 主任技術者又は監理技術者（以下配置技術者という。）の配置					
(1) 配置技術者の工事現場への専任を要しない期間	現場施工に着手する日の指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない	令和 年 月 日 上記現場施工に着手する日の前日までの期間において、工事準備を含め工事現場が不稼働であることが明確な場合は、配置技術者の工事現場への専任は要しない。		(出納局契約課ホームページ参照のこと： http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/keiyaku/kk50.html)
	工事現場が不稼働の期間		設計図書又は工事打合せ簿により配置技術者の工事現場への専任を要しない期間が明確になっている場合で、かつ、工事準備等の行為も含め工事現場が不稼働であることが明確である期間		
	完了検査後の期間		工事の完成検査が終了し、事務手続き、後片付けのみが残っている期間		
	工事中止の期間		工事を中止している場合その他これに類する期間		
	工場製作のみの期間		工場製作のみが稼働している期間		
2 特例監理技術者の配置					
		<input type="radio"/> 対象 <input checked="" type="radio"/> 対象外	建設業法第26条第3項ただし書の規程の適用を受ける監理技術者（特例監理技術者）の配置。 特例監理技術者を配置する場合は下記によるものとする。		
<p>1 特例監理技術者を配置する場合は以下の(ア)～(サ)の要件を全て満たさなければならない。</p> <p>(ア) 本工事の現場施工に着手する日までに、建設業法第26条第3項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。</p> <p>(イ) 監理技術者補佐は、一級施工管理技士補（令和3年4月1日施行予定）又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有するものであること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。</p> <p>(ロ) 監理技術者補佐は入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。</p> <p>(ニ) 同一の特例監理技術者が配置できる工事は、本工事を含め同時に2件までとする。（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事を一つの工事とみなす。）</p> <p>(ホ) 特例監理技術者が兼務できる工事は、本工事を所管する土木事務所（地域事務所）管内及び隣接土木事務所（地域事務所）管内の宮城県内で施行される工事に限らなければならない。</p> <p>(ヘ) 特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。</p> <p>(コ) 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。</p> <p>(ク) 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。</p> <p>(ケ) 専任補助者を配置しない工事とすること。</p> <p>(ニ) 維持管理業務同士は兼務できない。</p> <p>※24時間体制で応急処理工や緊急巡回等が必要な業務等</p> <p>(サ) 配置技術者の追加専任を必要としないものとする。</p> <p>2 本工事の監理技術者が特例監理技術者として兼務する場合、配置技術者届出書及び特例監理技術者の配置を予定している場合の確認事項を提出すること。</p> <p>3 本工事において、特例監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は適切にCORIINSへの登録を行うこと。</p>					
3 積算基準及び設計単価の適用期日					
(1) 積算基準及び設計単価の適用について		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> ない	積算基準及び設計単価は公告日の前月の基準及び単価とする。		
4 工程関係					
(1) 関連工事による施工時期の調整		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない		音出し作業については、夏休み期間(7/21～8/23)及び土日祝日の作業とし、その他詳細については、施設管理者との協議による。	
(2) 施工時期による制限		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> ない			
(3) 関係機関等との協議の未成立		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> ない			
(4) 関係機関等との協議結果、特定条件の付加		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない			
5 公害対策関係					
(1) 一般事項			工事の施工にあたり、別表に示す排出ガス対策型建設機械を使用しなければならない。 また、騒音規制法、振動規制法等の関係法令を遵守し、必要な措置を講ずること。		
(2) 施工方法、機械施設、作業時間等の制限		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> ない	作業時間は施設管理者との協議による。		
6 安全対策関係					
(1) 交通安全施設等の指定		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない			
(2) 占用埋設物との近接工事による施工方法、作業時間の制限		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない			
(3) 定期安全研修・訓練等の実施		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> ない	工事着手後、原則として作業員全員参加により、月当たり半日以上時間を割り当て安全に関する研修・訓練等を定期的実施する。		
7 排水工関係					
(1) 漏水、湧水処理のための特別な対策の必要性		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない			
(2) 排水設備確認申請等の手続き		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない	排水設備等の新設、増設又は改設を行う場合は、排水設備工事の確認（変更の確認を含む）を得てから工事に着手すること。		
8 建設副産物対策関係（建設発生土）					
(1) 建設発生土の処理・処分について		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない	本工事の残土は、下記に運搬する。なお、下記より難い場合が生じたときは、監督職員の指示によるものとし、設計変更の対象とする。		
(2) 建設発生土	処理・処分		特記仕様書による		
	現場外管理について		建設発生土現場管理者（複数可）を選任し、「施工計画書」に記載し、監督職員に提出すること。 「ダンプトラック等管理表」を工事着手前に監督職員に提出すること。 「建設発生土搬出等管理表」を搬出を行う日ごとに作成し、一週間毎の集計表を監督職員に提出すること。 建設発生土は受入地において、搬出先土量を管理するとともに、搬出先で土量を確認すること。		
9 建設副産物対策関係（建設発生土以外の建設副産物）					
(1) 建設発生土以外の建設副産物の処理・処分について		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> ない	特記仕様書による 下記の処理・処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、下記によらない場合は、監督職員と協議すること。また、処理・処分は先立ち処分場等の受入れの可否を確認すること。なお、廃棄物の処理に当たっては「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守すること（環境省または循環型社会推進課のHPを参照）。 工事現場内及び工事現場間で再利用する場合は、施工管理及び契約方法等について、施工計画打合せ時に監督職員と協議すること。		
(2) 建設発生土以外の建設副産物	処理・処分		特記仕様書による		
(3) 再生材の利用			特記仕様書による		
(4) 建設副産物情報交換システム(COBRIS)への登録について			受注者は、施工計画時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は、速やかに建設副産物情報交換システムにデータの入力を行うこと。入力した工事については、当該システムにより再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成し、施工計画書に含め、かつ建設副産物情報交換システム工事登録証明書を監督職員に提出しなければならない。		
(5) 建設リサイクル法について		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> ない	受注者は、分別解体等省令で定める様式第1号別表1～3のうち当該工事に該当する別表及び工程表を作成し、契約担当者等に説明書とともに提出するものとする。また、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条第3項に基づいて報告すること。		
10 工事現場のイメージアップ					
工事現場におけるイメージアップの推進のため、周辺環境などの現場条件及び労働者の作業環境などについて十分配慮すること。					
(1) 具体的協議事項		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない	具体的内容： イメージアップの具体的な実施内容、実施期間については、施工計画書に明記し、監督職員と協議すること。		
11 資材関係					
(1) 特定調達物品の利用促進			グリーン購入促進条例（平成18年3月23日宮城県条例第22号）第10条第2項の特定調達物品について、利用の促進に努めなければならない。		
①特に使用する特定調達物品		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない			
(2) 宮城県グリーン製品及び県産木材製品の活用			受注者は、使用資材の選定において、グリーン購入促進条例第14条第1項の宮城県グリーン製品（利用促進指針に基づく）及び県産木材製品の活用に努めなければならない。 なお、県産木材製品を使用する場合は、そのことを証明できる資料を添付し、監督職員に提出すること。 また、工事完了後に宮城県グリーン製品、県産木材製品の活用について、所定の様式により監督職員に報告（電子メール等）を行うこと。 循環型社会推進課HP参照（様式） https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/junkan/houkoku.html 受注者は、当該工事の施工において木材を使用する場合、原則として県産木材製品を1製品以上使用しなければならない。 木製工事名表示板（既製品）を使用する場合は、原則として宮城県グリーン製品を使用しなければならない。 県産木材製品を使用する場合は、「優良品やぎ材」の認証を受けた木材とする。		
①特に使用を指定する宮城県グリーン製品		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない			
②特に使用を指定する県産木材製品		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> ない			

(3) 県内産製品の使用	特記仕様書による
(4) 生コンクリート	生コンクリートの使用に当たっては、「宮城県生コンクリート品質管理監査会議」が交付する「品質管理監査合格証」を有する工場の製品、又は、同等以上の品質管理を行っていることが認められる工場の製品を使用すること。
(5) 購入土	購入土を使用する場合は、材料承諾時に「採石法第33条による採取計画認可書の写し」、又は「砂利採取法第16条の採取計画認可書の写し」を提出すること。
12 工事経過記録の報告	工事履行報告書を、毎月1回監督職員に提出する。 内容:日誌、天候、工事進捗状況、工事進捗状況写真、その他監督職員の指示する事項
13 その他	
(1)「学校施設におけるシックハウス症候群発症防止指針」の適用	<input type="radio"/> ある <input checked="" type="radio"/> ない
(2) 現場代理人の兼務の承認	「現場代理人の常駐義務の緩和措置について」(契約課ホームページ参照: http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/keiyaku/)に基づく条件に適合する工事で、工事現場の運営・安全管理等に支障がないと判断した場合、現場代理人の兼務を認める。
(3)「施工体制事前提出方式(オープンブック方式)」の適用	<input type="radio"/> ある <input checked="" type="radio"/> ない ①この工事の入札は、施工体制事前提出方式(オープンブック方式)を適用する。オープンブック方式とは、工事請負契約締結に先立ち、応札者が自ら積算内容及び工事の施工体制を明らかにする方式であり、入札時において宮城県の指定様式である「工事費内訳書」に必要事項を記載して、電子入札システム内の入札書提出時に添付ファイルとして提出するものとする。(紙入札においてはCD-R等により、提出するものとする。) ②この工事を請け負った者は、工事請負契約書第7条及び宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱第7条第2項に基づく一部下請負承認等の書類の記載内容等について、上記の「工事費内訳書」を使用して宮城県が行う調査に協力しなければならない。具体的調査内容を記載した「公正な元請下請関係を築くための施工体制確認調査については、宮城県のホームページまたは宮城県建設工事等電子入札システムの入札情報サービスシステムからダウンロードできる。 ③この工事を請け負った者は、発注者の指示があった場合には、下請負人の協力を得て、最終変更請負契約締結後に配布される最終工事費内訳書に積算額等の必要事項を記載して、CD-R等により提出するものとする。
(4) 法定外の労災保険の付保について	本工事では、法定外の労災保険加入にかかる保険料を予定価格に反映しているため、本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。なお、加入後受注者は、工事請負契約書に基づき、証券又はこれに代わるものを直ちに発注者に提示すること。

※ 条件欄に「ある」と記入した場合は、必要に応じて内容、施工方法を記入すること。
※ 2 公害対策 の別表は次ページ参照

別表 排出ガス対策型建設機械を使用する工種及びその機種

工種	建設機械名	備考
トンネル工事用排出ガス対策型建設機械(7機種)	・バックホウ ・大型ブレーカー ・トラクタショベル ・コンクリート吹付機	ディーゼルエンジン(出力30kw~260kw(40.8Ps~353Ps))を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている自動車の種別で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。
一般工事用建設機械	・バックホウ ・車輪式トラクタショベル ・ブルドーザ ・油圧ユニット 以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの: 油圧ハンマ、パイロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル 地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機 ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン(出力7.5kw~260kw)を搭載した建設機械に限る。

なお、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、又はこれと同等の開発目的で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械(平成16年9月1日まで装着したものに限り。)を使用することで、排出ガス対策型建設機械と同等と見なす。

特記事項

1 総合評価落札方式における「ICT施工・3次元化等の活用提案」の適用の有無			
(1)「ICT施工・3次元化等の活用提案」の適用工事	<input type="radio"/> 対象 <input checked="" type="radio"/> 対象外	1. 対象工事の場合、活用する技術については、「ICT施工・3次元化等の活用提案 工事計画書(一般土木工事の場合)」に基づき、該当する工種に関する提案を選択すること。 2. ICT施工・3次元化等の活用提案の適用の有無に係わらず、「ICT施工・3次元化等の活用提案 工事計画書」に記載の技術は、施工計画・技術提案等(いわゆる作文)の評価対象外とする(「簡易型(施工計画型)」、「標準型」、「高度型」の場合)。なお、「ICT施工・3次元化等の活用提案」の対象外工事の場合も、同様の取扱いとする。	
(2) 実施された技術についての費用計上(設計変更)	<input type="radio"/> 対象 <input checked="" type="radio"/> 対象外	設計変更の積算手法については、総合評価落札方式の手引きのとおりとする。なお、(1)が対象外の場合は、当該項目も対象外となる。	
2 週休2日工事等の適用の有無			
(1) 週休2日工事	対象	<input checked="" type="radio"/> 対象 <input type="radio"/> 対象外	種別または区分を変更する場合は受注者より工事着手前に監督職員と協議を行うこと。
	種別	<input checked="" type="radio"/> 現場閉所型 <input type="radio"/> 交替制	現場閉所型:巡回/パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場や現場事務所を閉所する。 交替制:現場閉所を行うことが困難な工事について、技術者及び技能労働者が交替しながら休日確保の取組を行う。
	区分	<input checked="" type="radio"/> 通月単 <input type="radio"/> 通月単位	通月単:対象期間全体で4週8休相当以上の休日を取得したと認められる状態 通月単位:対象期間全ての月で4週8休相当以上の休日を取得したと認められる状態 対象となる場合は、週休2日工事である旨のPR看板を設置すること
(2) 女性活躍推進モデル工事	<input type="radio"/> 対象 <input checked="" type="radio"/> 対象外	特記仕様書による。	
(3) 遠隔臨場の取組み	<input type="radio"/> 対象 <input checked="" type="radio"/> 対象外	特記仕様書による。	
(4) 情報共有システムの取組み	<input type="radio"/> 対象 <input checked="" type="radio"/> 対象外	特記仕様書による。	

令和7年度富谷小学校校舎改修工事(繰越)

番号	図面名	縮尺	番号	図面名	縮尺
特-01	特記仕様書(1)	NO SCALE	A-13	改修部分調査_北面(2)	A1=1/100 A3=1/200
特-02	特記仕様書(2)	NO SCALE	A-14	改修部分調査_北面ドライエリア	A1=1/50 A3=1/100
特-03	特記仕様書(3)	NO SCALE	A-15	改修部分調査_東西面	A1=1/100 A3=1/200
特-04	特記仕様書(4)	NO SCALE	A-16	改修部分調査_屋上塔屋_西側	A1=1/25 A3=1/50
特-05	特記仕様書(5)	NO SCALE	A-17	改修部分調査_屋上塔屋_東側	A1=1/25 A3=1/50
特-06	特記仕様書(6)	NO SCALE	A-18	改修部分調査_西側階段室	A1=1/50 A3=1/100
特-07	特記仕様書(7)	NO SCALE	A-19	断面図・部分詳細図	A1=1/35,1/10 A3=1/70,1/20
特-08	特記仕様書(8)	NO SCALE	A-20	仮設計画_足場平面図	A1=1/150 A3=1/300
特-09	特記仕様書(9)	NO SCALE	A-21	仮設計画_足場立面図_南面	A1=1/150 A3=1/300
特-10	特記仕様書(10)	NO SCALE	A-22	仮設計画_足場立面図_東西面	A1=1/100 A3=1/200
特-11	特記仕様書(11)	NO SCALE	A-23	仮設計画_足場立面図_北面	A1=1/150 A3=1/300
案-01	案内図	A1=1/10000 A3=1/5000	A-24	アスベスト調査位置(1)	A1=1/200 A3=1/400
仕-01	仕上表	NO SCALE	A-25	アスベスト調査位置(2)	A1=1/200 A3=1/400
A-01	改修計画図_平面図(1階・2階)	A1=1/200 A3=1/400	A-26	アスベスト調査位置(3)	A1=1/200 A3=1/400
A-02	改修計画図_平面図(3階・屋上)	A1=1/200 A3=1/400			
A-03	改修部分範囲_南面バルコニー(1)	A1=1/100 A3=1/200			
A-04	改修部分範囲_南面バルコニー(2)	A1=1/100 A3=1/200			
A-05	改修部分範囲_北面(1)	A1=1/100 A3=1/200			
A-06	改修部分範囲_北面(2)	A1=1/100 A3=1/200			
A-07	改修部分範囲_東西面	A1=1/100 A3=1/200			
A-08	改修部分調査_南面躯体(1)	A1=1/100 A3=1/200			
A-09	改修部分調査_南面躯体(2)	A1=1/100 A3=1/200			
A-10	改修部分調査_南面バルコニー(1)	A1=1/100 A3=1/200			
A-11	改修部分調査_南面バルコニー(2)	A1=1/100 A3=1/200			
A-12	改修部分調査_北面(1)	A1=1/100 A3=1/200			

建築改修工事特記仕様書【令和7年4月版】																															
I 工事概要																															
1 工事番号・名称	一 号 令和7年度富谷小学校校舎改修工事(繰越)																														
2 工事場所	宮城県富谷市富谷屋敷85																														
3 用途地域等	都市計画区域()内()外)用途地域(第一種住居地域) 防火地域等(防火・準防火)指定なし(2.2条) その他の地域・地区() () ()																														
4 主要用途	学校																														
5 敷地面積	18,018.86 m ² (延床面積: 4,746 m ²)																														
6 工事の概要	校舎の老朽化による内外壁のクラックや外装仕上げ材の劣化等に対する調査及び改修工事																														
7 別途工事																															
8 その他																															
9 特記仕様書の範囲																															
特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印のもので構成する。 ・ 構造特記仕様書 ・ 外構工事特記仕様書 ・ 植栽工事特記仕様書 ・ 解体工事特記仕様書 ・ 電気設備工事特記仕様書 ・ 機械設備工事特記仕様書																															
II 建築工事仕様																															
1. 共通仕様																															
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書(令和4年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。)による。ただし、「改修標準仕様書」に記載されていない事項は、「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)」(以下「標準仕様書」という。)及び「建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)」(以下「解体共通仕様書」という。)による。建築改修工事監理指針(上・下巻)(令和4年度版)に準ずる。なお、施工条件明示書は特記仕様書に含める。																															
2. 特記仕様																															
1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。 2) 特記事項は、①のついたものを適用する。○印のつかない場合は※印のついたものを適用する。②と③印のついた場合は、共に適用する。 3) 特記事項に記載の<>、()及び[]内の表示番号は、それぞれ「改修標準仕様書」、「標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。																															
章	項	目	特記事項																												
1 一般共通事項	① 一般事項	○ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督職員に報告の上、指示に従うこと。																													
		○ 受注者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。																													
		○ 施工体系図を現場に掲示すること。 ・ 工事着手前及び完成時に、以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況(地盤、擁壁、内外壁、床、建具等)を調査・記録し、報告書を監督職員に提出すること。 ※工事に伴う環境調査要領(平成28年4月(東京都建設局編集)による)※調査に先立って調査計画書を作成し監督職員の確認を受けること 調査範囲 ※ 図示																													
	② 適用基準等	○ 建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号)																													
		○ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱 ○ 建築工事標準詳細図(国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修 令和4年版) ○ 営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官庁官庁営繕部 令和5年版)及び工事写真撮影ガイドブック(国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修 令和5年版)																													
3 概成工期	工事工期より	日前	<1.2.1>																												
	④ 工事実績情報(CORINS)の登録	※ 適用する(請負積算額が500万円以上の場合)	<1.1.4>																												
⑤ 発生材の処理等	発生材の処理	<1.3.12>																													
	○ 引渡しを要するもの() ・ 特別管理産業廃棄物() ・ 受入れ施設名・所在地(km) ・ 現場において再利用を図るもの() ・ 再生资源化を図るもの																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>受入施設名</th> <th>所在地(Km)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ コンクリート塊</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ アスファルト</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート塊</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 建設発生木材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリートか ら成る建設資材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				種類	受入施設名	所在地(Km)	備考	・ コンクリート塊				・ アスファルト				・ コンクリート塊				・ 建設発生木材				・ コンクリートか ら成る建設資材				・			
種類	受入施設名	所在地(Km)	備考																												
・ コンクリート塊																															
・ アスファルト																															
・ コンクリート塊																															
・ 建設発生木材																															
・ コンクリートか ら成る建設資材																															
・																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>受入施設名</th> <th>所在地(Km)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				種類	受入施設名	所在地(Km)	備考	・				・				・				・											
種類	受入施設名	所在地(Km)	備考																												
・																															
・																															
・																															
・																															

6. 電気保安	・ 適用する ※ 適用しない	<1.3.3>																				
	7. 事故報告	<1.3.10>																				
	8. 建築材料等	<1.4.2>																				
	9. 室内の空気中の化学物質濃度の測定	(1.5.9)<1.7.9>																				
	10. 特別な材料の工法																					
・ その他の廃棄物(管理型) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>受入施設名</th> <th>所在地(Km)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			種類	受入施設名	所在地(Km)	備考	・				・				・				・			
種類	受入施設名	所在地(Km)	備考																			
・																						
・																						
・																						
・																						
上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。 また、処理、処分は先立ち処分場の受入の可否を確認すること																						
PCB(ポリ塩化ビフェニール)含有機器	・ 有(数量は図示)	[5.4.1]																				
	・ 無																					
PCB含有シーリング材	・ 有(施工範囲は図示)	[5.4.1]																				
・ 無																						
PCBを含有する機器等については、飛散、流失等がないように適切な容器に納め、適切な場所に保管し、工事完了後、監督職員に引き渡す。																						
アスベストの処理																						
吹き付けアスベスト除去工事	・ 有(図示)	・ 無																				
受け入れ施設名・所在地(km)																						
アスベスト含有保温材除去工事	・ 有(図示)	・ 無																				
受け入れ施設名・所在地(km)																						
アスベスト成形板除去工事	・ 有(図示)	・ 無																				
受け入れ施設名・所在地(km)																						
ヒ素又はカドミウム含有石膏ボードの処理																						
ヒ素又はカドミウムボード	・ 有(図示)	・ 無																				
次に該当する場合は、指定する場所に処分すること。 <対象となる石膏ボード>																						
小名浜吉野石膏(株) いわき工場 昭和48年10月～平成9年4月の間に製造されたもの																						
日東石膏ボード(株) 八戸工場 平成4年10月～平成9年4月の間に製造されたもの																						
指定する処分場 【名称: 所在地(km)】																						
環境への配慮	<1.4.1>																					
※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては、「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。																						
※ ホルムアルデヒド仕様 使用する材料のホルムアルデヒド仕様は以下のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量 規制対象外 の場合の建築材料 1) JIS及びJASのF☆☆☆☆品 2) 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 3) 次の表示のあるJAS適合品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用																						
※ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定 1.5.9)<1.7.9> 試料採取及び測定は、厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法及び測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか、拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。 測定対象物質 ※ 3MA7M7E1D (濃度計針値 100 µg/m ³ ・ 0.08ppm) ※ 3MA7M7E2D (濃度計針値 260 µg/m ³ ・ 0.07ppm) ※ 3MA7M7E3D (濃度計針値 200 µg/m ³ ・ 0.05ppm) ※ 3MA7M7E4D (濃度計針値 240 µg/m ³ ・ 0.04ppm) ※ 3MA7M7E5D (濃度計針値 3,800 µg/m ³ ・ 0.88ppm) ※ 3MA7M7E6D (濃度計針値 220 µg/m ³ ・ 0.05ppm) 測定する室等: ()																						
採取方法: 吸引方式又は拡散方式とし、拡散方式では8時間採取する。																						
測定結果等報告書の提出 次の事項を記載した報告書を1部提出する。 a 測定結果 b 試料採取時の状況(気温・湿度(室外・室内)、天候、風の状況、日射進入状況、測定年月日・時間、窓の開閉状況、機械換気量、工事完成時から測定日までの日数) c 試料採取方法、測定方法、使用した測定機器 測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は、引渡しを受けない。																						
※ 室内VOC濃度の測定結果に関する書面の当該施設への提示については、施設管理者に依頼する。																						
総揮発性有機化合物の測定は「11章 総揮発性有機化合物(TVOC)測定」参照																						
「改修標準仕様書」及び「標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。																						

11. 建築基準法による風圧力等の指定	<3.5.4><3.9.3><5.11~13.2><5.14.5>(13.2.3)(13.3.3)																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>適用工事</th> <th>建築基準法の指定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 合成高分子系ルーフィングシート</td> <td>風速(V0) ※3.0</td> </tr> <tr> <td>・ アルミニウム笠木</td> <td>・ 金属板屋根葺</td> </tr> <tr> <td>・ 折板屋根葺</td> <td>・ ガラスブロック</td> </tr> <tr> <td>・ 重量シャッター</td> <td>・ 軽量シャッター</td> </tr> <tr> <td>・ オーバーヘッドドア</td> <td>・ 屋上緑化</td> </tr> </tbody> </table>	適用工事	建築基準法の指定	・ 合成高分子系ルーフィングシート	風速(V0) ※3.0	・ アルミニウム笠木	・ 金属板屋根葺	・ 折板屋根葺	・ ガラスブロック	・ 重量シャッター	・ 軽量シャッター	・ オーバーヘッドドア	・ 屋上緑化																	
適用工事	建築基準法の指定																													
・ 合成高分子系ルーフィングシート	風速(V0) ※3.0																													
・ アルミニウム笠木	・ 金属板屋根葺																													
・ 折板屋根葺	・ ガラスブロック																													
・ 重量シャッター	・ 軽量シャッター																													
・ オーバーヘッドドア	・ 屋上緑化																													
12. 設計GL	※ 図示 ・ 現状平均地盤高																													
13. 施工調査	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">施工数量調査 <1.6.2></th> </tr> <tr> <th>調査項目</th> <th>調査範囲</th> <th>調査方法</th> <th>成果品</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工数量調査 <1.6.2>				調査項目	調査範囲	調査方法	成果品																					
施工数量調査 <1.6.2>																														
調査項目	調査範囲	調査方法	成果品																											
⑭ 技能士	・ 既存部分の破壊を行った場合の補修方法は、図示による。 <1.6.3> ・ 下表で技能士を適用することとした職種に、1級又は単一級技能士を配置する。 <1.7.2> ※ 下表で技能士を適用することとした職種に、1級、2級又は単一級技能士を配置する。 ※ 下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工事種目</th> <th>技能検定職種(技能検定作業)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>以下の該当工事</td> <td>・ 該当する作業がある以下の職種(作業)の全て</td> </tr> <tr> <td>仮設工事</td> <td>・ とび(とび作業)</td> </tr> <tr> <td>防水改修工事</td> <td> ・ 防水施工 ・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質7A7Bシート防水工事作業 ・ FRP防水工事作業 </td> </tr> <tr> <td>外壁改修工事</td> <td> ・ 左官(左官作業) ・ タイル張り(タイル張り作業) ・ 樹脂接着剤注入施工(樹脂接着剤注入工事作業) ・ 塗装(建築塗装作業) </td> </tr> <tr> <td>建具改修工事</td> <td> ・ サッシ施工(ビル用サッシ施工作業) ・ ガラス施工(ガラス工事作業) ・ 自動ドア施工(自動ドア施工作業) </td> </tr> <tr> <td>内装改修工事</td> <td> ・ 内装仕上施工 ・ フラスチック系床仕上げ工事作業 ・ 木質系床仕上げ工事作業 ・ ボード仕上げ工事作業 ・ 鋼製下地工事作業 ・ 塗装(壁装作業) ・ 建築大工(大工工事作業) </td> </tr> <tr> <td>塗装改修工事</td> <td>・ 塗装(建築塗装作業)</td> </tr> <tr> <td>耐震改修工事</td> <td> ・ 鉄筋施工(鉄筋組立作業) ・ 型枠施工(型枠工事作業) ・ とび(とび作業) ・ コンクリート圧注施工(コンクリート圧注工事作業) </td> </tr> <tr> <td>コンクリートブロック・ALCパネル施工</td> <td> ・ ALCパネル施工(ALCパネル工事作業) ・ 押出成形セメント板工事 </td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>・ 石材施工(石張り作業)</td> </tr> <tr> <td>排水工事</td> <td>・ 配管(建築配管作業)</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td> ・ 路面標示施工 ・ 溶融・インソールマーカ工事作業 ・ 加熱・インソールマーカ作業 </td> </tr> <tr> <td>植栽工事</td> <td>・ 造園(造園工事作業)</td> </tr> <tr> <td>屋根及びとび工事</td> <td>・ 建築板金(内外装板金作業)</td> </tr> </tbody> </table>	工事種目	技能検定職種(技能検定作業)	以下の該当工事	・ 該当する作業がある以下の職種(作業)の全て	仮設工事	・ とび(とび作業)	防水改修工事	・ 防水施工 ・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質7A7Bシート防水工事作業 ・ FRP防水工事作業	外壁改修工事	・ 左官(左官作業) ・ タイル張り(タイル張り作業) ・ 樹脂接着剤注入施工(樹脂接着剤注入工事作業) ・ 塗装(建築塗装作業)	建具改修工事	・ サッシ施工(ビル用サッシ施工作業) ・ ガラス施工(ガラス工事作業) ・ 自動ドア施工(自動ドア施工作業)	内装改修工事	・ 内装仕上施工 ・ フラスチック系床仕上げ工事作業 ・ 木質系床仕上げ工事作業 ・ ボード仕上げ工事作業 ・ 鋼製下地工事作業 ・ 塗装(壁装作業) ・ 建築大工(大工工事作業)	塗装改修工事	・ 塗装(建築塗装作業)	耐震改修工事	・ 鉄筋施工(鉄筋組立作業) ・ 型枠施工(型枠工事作業) ・ とび(とび作業) ・ コンクリート圧注施工(コンクリート圧注工事作業)	コンクリートブロック・ALCパネル施工	・ ALCパネル施工(ALCパネル工事作業) ・ 押出成形セメント板工事	石工事	・ 石材施工(石張り作業)	排水工事	・ 配管(建築配管作業)	舗装工事	・ 路面標示施工 ・ 溶融・インソールマーカ工事作業 ・ 加熱・インソールマーカ作業	植栽工事	・ 造園(造園工事作業)	屋根及びとび工事
工事種目	技能検定職種(技能検定作業)																													
以下の該当工事	・ 該当する作業がある以下の職種(作業)の全て																													
仮設工事	・ とび(とび作業)																													
防水改修工事	・ 防水施工 ・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質7A7Bシート防水工事作業 ・ FRP防水工事作業																													
外壁改修工事	・ 左官(左官作業) ・ タイル張り(タイル張り作業) ・ 樹脂接着剤注入施工(樹脂接着剤注入工事作業) ・ 塗装(建築塗装作業)																													
建具改修工事	・ サッシ施工(ビル用サッシ施工作業) ・ ガラス施工(ガラス工事作業) ・ 自動ドア施工(自動ドア施工作業)																													
内装改修工事	・ 内装仕上施工 ・ フラスチック系床仕上げ工事作業 ・ 木質系床仕上げ工事作業 ・ ボード仕上げ工事作業 ・ 鋼製下地工事作業 ・ 塗装(壁装作業) ・ 建築大工(大工工事作業)																													
塗装改修工事	・ 塗装(建築塗装作業)																													
耐震改修工事	・ 鉄筋施工(鉄筋組立作業) ・ 型枠施工(型枠工事作業) ・ とび(とび作業) ・ コンクリート圧注施工(コンクリート圧注工事作業)																													
コンクリートブロック・ALCパネル施工	・ ALCパネル施工(ALCパネル工事作業) ・ 押出成形セメント板工事																													
石工事	・ 石材施工(石張り作業)																													
排水工事	・ 配管(建築配管作業)																													
舗装工事	・ 路面標示施工 ・ 溶融・インソールマーカ工事作業 ・ 加熱・インソールマーカ作業																													
植栽工事	・ 造園(造園工事作業)																													
屋根及びとび工事	・ 建築板金(内外装板金作業)																													
⑮ 完成写真	<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>サイズ</th> <th>撮影箇所数</th> <th>部数</th> <th>提出様式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※カラー</td> <td>※L</td> <td>※営繕工事写真</td> <td>※1部</td> <td>※工事用アルバムA4版</td> </tr> <tr> <td>・ 白黒</td> <td>・ 2L</td> <td>撮影要領の完成写真程度</td> <td>・ 1部</td> <td>ポケット式程度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 六切り</td> <td>・ 箇所 枚</td> <td></td> <td>・ フリーアルバム(台紙寸法323×270程度)</td> </tr> </tbody> </table>	分類	サイズ	撮影箇所数	部数	提出様式	※カラー	※L	※営繕工事写真	※1部	※工事用アルバムA4版	・ 白黒	・ 2L	撮影要領の完成写真程度	・ 1部	ポケット式程度		・ 六切り	・ 箇所 枚		・ フリーアルバム(台紙寸法323×270程度)									
分類	サイズ	撮影箇所数	部数	提出様式																										
※カラー	※L	※営繕工事写真	※1部	※工事用アルバムA4版																										
・ 白黒	・ 2L	撮影要領の完成写真程度	・ 1部	ポケット式程度																										
	・ 六切り	・ 箇所 枚		・ フリーアルバム(台紙寸法323×270程度)																										
⑯ 設備工事との取合い	アルバムは、監督職員との協議により紙媒体又は電子媒体とする。 施工範囲 各工事の区分表による。 施工図 設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。																													
⑰ 火災保険等	工事目的物及び工事材料等について、次により保険に付す。 保険の種類 ※ 火災保険 ※ 建設工事保険 保険期間 ※ 工事着手から工事目的物引き渡しまで																													
2 仮設工事	※ 設ける ・ 設けない 仮囲いの位置及び延長は図示による。 ・ キャスターゲート(H=、W=) × 箇所 ・ シートゲート(H=、W=) × 箇所																													
2. 交通誘導員	・ 配置する(日 × 人 = 人日) ※ 配置しない ・ トラッククレーン(t吊り) × 日 ・ (t吊り) × 日																													
⑳ 掃雪機械器具																														

4. 工事表示板	※ 設置する ・ 設置しない 営繕工事における工事及びコスト表示要領(令和6年4月1日宮城県土木部 営繕課・設備課制定)による。																																												
	⑤ 足場等	外部足場 ○ 設置する (設置範囲 ・ 工事に必要な範囲) <2.2.1> ・ 設置しない (設置範囲 ・ 工事に必要な範囲) <表2.2.1> 防護シート ○ 設置する (設置範囲 ・ 工事に必要な範囲) () ・ 設置しない (設置範囲 ・ 工事に必要な範囲) () 内部足場 ・ 設置する (・ ※ 自立、足場板等) ・ 設置しない ・ 材料、撤去材等の運搬方法 種別(・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種) C種: 利用可能なエレベーター () D種: 利用可能な階段 () 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月策定)」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。																																											
6. 養生	家具及び設備の移動 ・ 行う(図示) ・ 行わない <2.3.1> 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ・ 行う ・ 行わない																																												
7. 仮設間仕切り	養生の方法 養生場所 ・ 設ける(図示) ・ A種 ・ B種 ※ C種 <2.3.2><表2.3.1>																																												
⑧ 監督職員事務所	※ 設けない(請負者事務所と打合せ会議室を確保する) <2.4.1> ・ 設ける(規模 m程度 請負者事務所と同様 ・ 可 ・ 否) 備品(
⑨ 工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できる(※有償・無償) ※ 利用できない																																												
⑩ 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できる(※有償・無償) ※ 利用できない ※ 溶接などの消費電力の大きな機器を除く																																												
⑪ 工事用通路	※ 指定しない ○ 指定する(図示)																																												
3 防水改修工事	1. 降雨等に対する養生(と共生) <3.1.3> ・ ※改修標準仕様書3.1.3(5)(7)~(9)による ・ 2. 既存防水の処理 <3.2.3~4><3.2.6> 既存保護層の撤去 ・ 行う(範囲・図示による) () ・ 行わない 既存防水層の撤去 ・ 行う(範囲・図示による) () ・ 行わない 露出防水層表面の仕上げ塗装除去 ・ 行う(・ M4AS ・ M4AS1 ・ M4C ・ M4D1 ・ L4X) ・ 行わない																																												
3. 既存下地の処理	補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示による <3.2.6>																																												
4. アスファルト防水	POS工法及びPOS1工法(機械的固定方法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の設置 ※改修標準仕様書3.2.6(4)(7)(g)①~③による																																												
	設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ※監督職員と協議する ・ 図示による																																												
改修工法	屋根保護防水(既存) <3.1.4><3.3.2~5><表3.1.1><表3.3.3~10> 新設防水層の種類																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>改修工法</th> <th>新設種別</th> <th>施工箇所</th> <th>絶縁用シート</th> <th>断熱材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・ P2A</td> <td>・ A-1</td> <td></td> <td>※*1/E12/F14/F16</td> <td rowspan="3">※JISA9521に基づく押出法 *1/E12/F14/F16断熱材3種A (*は層付き) 厚さ・</td> </tr> <tr> <td>・ A-2</td> <td></td> <td>厚さ0.15mm以上 又はフラットタイプ</td> </tr> <tr> <td>・ A-3</td> <td></td> <td>70g/m²程度</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ P1B</td> <td>・ B-1</td> <td></td> <td>・</td> <td rowspan="2">・</td> </tr> <tr> <td>・ B-2</td> <td></td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ P2A1</td> <td>・ A1-1</td> <td></td> <td>※フラットタイプ</td> <td rowspan="3">※JISA9521に基づく押出法 *1/E12/F14/F16断熱材3種A (*は層付き) 厚さ・</td> </tr> <tr> <td>・ A1-2</td> <td></td> <td>70g/m²程度</td> </tr> <tr> <td>・ A1-3</td> <td></td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ P1B1</td> <td>・ B1-1</td> <td></td> <td>・</td> <td rowspan="2">・</td> </tr> <tr> <td>・ B1-2</td> <td></td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>	改修工法	新設種別	施工箇所	絶縁用シート	断熱材	・ P2A	・ A-1		※*1/E12/F14/F16	※JISA9521に基づく押出法 *1/E12/F14/F16断熱材3種A (*は層付き) 厚さ・	・ A-2		厚さ0.15mm以上 又はフラットタイプ	・ A-3		70g/m ² 程度	・ P1B	・ B-1		・	・	・ B-2		・	・ P2A1	・ A1-1		※フラットタイプ	※JISA9521に基づく押出法 *1/E12/F14/F16断熱材3種A (*は層付き) 厚さ・	・ A1-2		70g/m ² 程度	・ A1-3		・	・ P1B1	・ B1-1		・	・	・ B1-2		・	
改修工法	新設種別	施工箇所	絶縁用シート	断熱材																																									
・ P2A	・ A-1		※*1/E12/F14/F16	※JISA9521に基づく押出法 *1/E12/F14/F16断熱材3種A (*は層付き) 厚さ・																																									
	・ A-2		厚さ0.15mm以上 又はフラットタイプ																																										
	・ A-3		70g/m ² 程度																																										
・ P1B	・ B-1		・	・																																									
	・ B-2		・																																										
・ P2A1	・ A1-1		※フラットタイプ	※JISA9521に基づく押出法 *1/E12/F14/F16断熱材3種A (*は層付き) 厚さ・																																									
	・ A1-2		70g/m ² 程度																																										
	・ A1-3		・																																										
・ P1B1	・ B1-1		・	・																																									
	・ B1-2		・																																										
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ	※改修標準仕様書表3.3.3及び表3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※R種 厚さ ()mm以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3.3.3及び表3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ・ 材料による区分 ※R種 厚さ ()mm以上 平場の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm以上 床タイル張り ※水下 60mm以上																																												
立上り部の保護方法	・ 乾式保護材(品質・性能、試験方法は別表による) ・ 窯業系パネルI類(厚さ (mm) 幅 (mm)) ・ れんが押え(※JIS R 1250 ()) ・ コンクリート押え ・ モルタル押え(屋内)																																												

屋根露出防水 (既存) 新設防水層の種類

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料		断熱材	備考
			種類	使用量		
・M4C	・C-1 ・C-2 ・C-3 ・C-4		・製造所の仕様	※製造所の仕様		
・M3D ・POD	・D-1 ・D-2 ・D-3 ・D-4		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有・無 改修用ドレン ・有・無
・POD1 ・M3D1 ・M4D1	・D1-1 ・D1-2		・製造所の仕様	※製造所の仕様	※3.3.2(9)種類 ・厚さ	脱気装置 ・有・無 改修用ドレン ・有・無

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.8及び表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

絶縁断熱工法のルーフトレンドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示による

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 (個)

屋根防水
防水層の種類

改修工法	種別	施工箇所
・PIE	・E-1	
・P2E	・E-2	

保護層 ・設ける (※図示による) ・
・設けない

E-1の工程3を行う部位
※貯水槽、浴室等常時水に接する部位

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

屋上排水溝
※図示による

⑥ 合成高分子系ルーフィングシート防水

絶縁断熱工法の防湿用シート
・設置する ・設置しない

新設防水層の種類 <3.5.2~4>表3.5.1~3>

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料		断熱材	備考
			種類	使用量		
	・S-F1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有・無 改修用ドレン ・有・無
・POS ・S4S	・S-F2 ・S-M1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		
	・S-M2		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有・無
・S3S	・S-F1 ・S-F2	・プレキャストコンクリート下地	・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有・無
・M4S	・S-M1 ・S-M2		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有・無
・POS1 ・S3S1 ・S4S1 ・M4S1	・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2	・プレキャストコンクリート下地	・製造所の仕様	※製造所の仕様	3.5.2(3)(a)(b)種類 ・厚さ(mm) ・25 ・50	脱気装置 ・有・無 改修用ドレン ・有・無
	・S-M1 ・S-M2		・製造所の仕様	※製造所の仕様	3.5.2(3)(a)種類 ・厚さ(mm) ・25 ・50	

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
※非歩行仕様
○軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム
・設置する ・設置しない

屋内防水
防水層の種類

種別	種別	施工箇所	保護層	
			平場の保護モルタル塗厚	立上り部の保護モルタル塗厚
・PIS	・S-C1		・	※7mm以下

平場の保護モルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類
目地割
※目地割2m程度、最大目地間隔3m程度
目地の種類
※押し目地

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類 ・塩化ビニル樹脂系
厚さ ・2.0 mm以上

絶縁用シート材質
※発泡ポリエチレンシート

固定金具の材質、形状及び寸法
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ルーフィングシートの製造所の仕様
設置数量 ※ルーフィングシートの製造所の仕様 (個)

接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う (・図示による)

プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り (種別S-F1、SI-F1の場合)
・行う (・図示による) ・行わない

⑧ シーリング

⑨ とい

新設防水層の種類

改修工法	新設種別	施工箇所	工程数及び各工程の使用量	保護層
・PIY	※Y-2		※主材料の製造所の仕様	・設ける ・設けない
・P2Y	※Y-2		※主材料の製造所の仕様	・設ける ・設けない

シーリング改修工法の種類 <3.1.4><3.7.2、3.7.8>

- シーリング充填工法
- シーリング再充填工法
- 拡幅シーリング再充填工法
- ブリッジ工法
- ボンドブレード張り
- 適用する ・適用しない
- エッジング材張り
- 適用する ・適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)

仕上げを行わない施工箇所
・図示による
シーリング材の目地寸法
※改修標準仕様書表3.7.3(1)による
・図示による

接着性試験
※簡易接着性試験
・引張接着性試験

その他の材質 <3.8.2、3>

- 配管用鋼管
- 硬質ポリ塩化ビニル管
- ルーフトレンドレン

※既存ルーフトレンドレン金物については、シート防水施工時に一度取り外し、防水シート工事完了後再取り付けとする
・表面処理鋼板 (表面及び裏面の塗膜の種類)

とい受金物
材質
※改修標準仕様書3.8.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)
形状
※市販品 (とい径100以下)
※25×4.5以上 (とい径100を超えるもの)
取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による

足金物
材質
※改修標準仕様書3.8.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)
形状
※市販品
取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による

多雪地域
・適用する ・適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法
※図示による
鋼管製といの防露巻き
※改修標準仕様書表3.8.4による

ルーフトレンドレンの種類及び呼び

種別	呼び			施工箇所	
・ろく屋根用たて形1型	※ねじ込み式	・80	・100	・125	・150
・ろく屋根用横形1型	※ねじ込み式	・80	・100	・125	・150
・バルコニー中継用	※ねじ込み式	・50	・80	・100	
	・差し込み式	・50	・75	・100	
・バルコニー用	※ねじ込み式	・50	・80	・100	
	・差し込み式	・50	・75	・100	

たてとい受金物の取付け
※図示による
ルーフトレンドレンの取付け
※水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する

種類 <3.9.2、3>

- オープン形式 (・押出250形 ・押出300形 ・押出350形)
- 板材折曲げ形 (・オープン形式 ・シール形式)
- 本体幅 () mm 板厚 (※2.0mm)

表面処理
種別 () 種
色合等 ・標準色 () ・特注色 ()
既存塗料等の撤去
・行う (範囲 ・図示による) ・行わない

下地補修の工法
※図示による
板材折曲げ形の塗料の取付方法
※図示による

10. アルミニウム製笠木

4-1 外壁改修工事
コンクリート打放し仕上げ外壁

4-2 外壁改修工事
モルタル塗り仕上げ外壁

4-2 外壁改修工事
モルタル塗り仕上げ外壁

4-2 外壁改修工事
モルタル塗り仕上げ外壁

11. 防水保証

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡しの日から10年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提出する。
塗膜防水及びケイ酸系系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

① ひび割れ部改修工法 <4.1.4><4.3.5、6、7、8>

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	延べ長さ (m)
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	・50~100	・40	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	・100~200	・70	
	0.5以上~1.0未満	・150~250	・130	

注入状況の確認方法
※コアの抜き取りを行う
抜き取り箇所
※長さ500mmごと及びその端数につき1個
抜き取り部の補修方法
※図示による

○カットシール材充填工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)
・シーリング材	1.0超過~1.5 未過 1.5以上~2.0 未過 以上~未過	

・シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う ・行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章 防水改修工事による。
○可とう性エポキシ樹脂

○シール工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)
・可とう性エポキシ樹脂		

○充填工法 <4.1.4><4.2.4.8>

材料	平均深さ (mm)	平均広さ (m)	延べ箇所数
○エポキシ樹脂モルタル	30~35未過 35~40未過		

1. ひび割れ部改修工法 <4.1.4><4.3.5、6、7、8>

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	延べ長さ (m)
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3 未満	・50~100	・40	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5 未満	・100~200	・70	
	0.5以上~1.0 未満	・150~250	・130	

注入状況の確認方法
※コアの抜き取りを行う
抜き取り箇所
※長さ500mmごと及びその端数につき1個
抜き取り部の補修方法
※図示による

○カットシール材充填工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)
・シーリング材	1.0超過~1.5 未過 1.5以上~2.0 未過 以上~未過	

4-2 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁

Table with 4 main sections: 2. 欠損部改修工法, 3. 浮き部改修工法 (ピンネット工法等), 4. 浮き部改修工法, 4-3 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁. Includes material specifications, application methods, and performance standards.

Table with 2 main sections: 2. ひび割れ部改修工法, 3. 欠損部改修工法. Details repair methods for cracks and damaged areas, including resin injection and tile replacement.

Table with 5 main sections: 5. 目地改修工法, 4-4 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁, 2. 下地調整塗材, 3. 仕上塗材仕上げ, 5. 厚付け仕上塗材. Covers joint repair, exterior wall finishing, and substrate preparation.

Table with 4 main sections: 4. マスチック塗材塗り, 5. 外壁用塗膜防水材塗り, 5. 1. 改修工法, 2. 防火戸. Details application of mastic and waterproofing, and specifications for renovation and fire doors.

5	アルミニウム製建具	性能値等 耐風圧性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 気密性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 水密性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 外部に面する建具の種類 ・ A種 (建具符号 ・ 建具表による) ・ B種 (建具符号 ・ 建具表による) ・ C種 (建具符号 ・ 建具表による) 枠の見込み寸法 (建具表による) 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)	<5. 2. 2~5><表 5. 2. 2>	9. 鋼製軽量建具	材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書表5. 4. 2)による ・ mm 使用箇所 () 標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による ・	<5. 2. 2><5. 5. 2~4>	15. 自閉式上吊り引戸装置	・特殊加工 化粧合板 化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類)	15. 自閉式上吊り引戸装置	性能値等 ※改修標準仕様書表5. 10. 1 ・以下による 手動開き力 () 手動閉じ力 () 閉じ速度の調整 () 制動区間 () 開閉繰返し () 耐衝撃性 ()	<5. 10. 3>					
		材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面処理 外部に面する建具 種類 ※BB-1 ・ BB-2 (改修標準仕様書表5. 2. 2) 着色 ・ 標準色 ・ 特注色 屋内の建具 種類 ※BC-1 ・ BC-2 (改修標準仕様書表5. 2. 2) 着色 ・ 標準色 ・ 特注色 結露水の処理方法 ・ 水貯め式 ・ 排水式 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による	性能値等 簡易気密型ドアセット ※適用する (建具符号 ・ 建具表による) ・ 適用しない 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)		<5. 2. 2><5. 5. 2~4>	・ MDF		16. 重量シャッター		シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 () Pa 開閉方式の種類 ※電動式 (手動併用) ・ 手動式 安全装置 電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置 (設置箇所 ・ 建具表による) 電動式シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による) 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置 (設置箇所 ・ 建具表による) 管理用シャッターのシャッターケース ※設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ※JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12 ・ ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1	<5. 11. 2. 3>					
6	網戸等	種類	材質	線径	網目	<5. 2. 3. 5. 3. 3>	12. 建具用金物	金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書表5. 8. 1)により適用は建具表による ・ 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5. 8. 2)による ・ 建具表による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5. 8. 3)による ・ 建具表による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5. 8. 4)による ・ 建具表による 木製建具に使用する戸車及びレール ※改修標準仕様書表5. 8. 5)による ・ 建具表による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ・ 建具表による	<5. 8. 1~3>	17. 軽量シャッター	開閉方式の種類 ※手動式 ・ 電動式 (手動併用) 耐風圧強度 () Pa 安全装置 電動シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による) スラットの材質の種類 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 (※Z06又はF06) ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 (※AZ90) スラットの形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形	<5. 12. 2~4>				
		・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※0. 25mm以上	※16~18メッシュ	・ 防鳥網		ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm		網目寸法15mm	13. 鍵	マスターキー ・ 製作する ・ 製作しない ・ 既存のマスターキーに合わせる その他の鍵の製作本数 ※各室3本1組 (署名札付き) ・ 鍵箱 ・ 無し ・ 有り	<5. 8. 4>	18. オーバーヘッドドア	セクション材料 による区分 ※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ
7	樹脂製建具	性能値等 耐風圧性の等級 () 気密性の等級 () 水密性の等級 () 外部に面する建具の種類 ・ A種 (建具符号 ・ 建具表による) ・ B種 (建具符号 ・ 建具表による) ・ C種 (建具符号 ・ 建具表による) 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・ T-1 ・ T-2) (建具符号 ・ 建具表による) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 (・ H-4 ・ H-5 ・ H-6 ・ H-7 ・ H-8) (建具符号 ・ 建具表による) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 ・ 枠の見込み寸法 ・ 建具表による ・ 材料 ガラス ※複層ガラス ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面色 ・ 標準色 ・ 特注色 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による	<5. 2. 2><5. 3. 2~5>	10. ステンレス製建具	性能値等 簡易気密型ドアセット ・ 適用する (建具符号 ・ 建具表による) ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による	<5. 2. 2><5. 4. 2><5. 6. 2~5>	14. 自動ドア開閉装置	戸の開閉方式 ・ 建具表による ・ 引き戸用駆動装置 性能値 ※改修標準仕様書表5. 9. 1)による (防錆 ・ 適用する ・ 適用しない) ・以下による 種類・開閉方式 () 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 電源 () ・ 車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置 性能値 ※改修標準仕様書表5. 9. 2)による (防錆 ・ 適用する ・ 適用しない) ・以下による 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 防滴 () 電源 ()	<5. 9. 2. 3>	19. ガラス	フロント板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ ・ 型板ガラスの厚さによる種類 ※建具表による ・ ・ 網入板又は線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ 合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ ※建具表による ・ ・ 落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類 ・ I類 ・ II-1類 ・ II-2類 ・ III類 ・ 強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 ※建具表による ・ ・ 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類 ・ I類 ・ III類 ・ 熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類 ※建具表による ・ 性能による種類 ・ 1種 ・ 2種	<3. 7><5. 14. 2~4>				
		材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面仕上げ ※HL ・ 鏡面仕上げ 工法 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ	性能値等 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による		<5. 2. 2><5. 4. 2~4><表 5. 4. 2>	引き戸用検出装置 性能値 ※改修標準仕様書表5. 9. 3)による (防錆 ・ 適用する ・ 適用しない) ・以下による 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 防滴 () 電源 ()		<5. 9. 2. 3>	19. ガラス		フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ ・ 型板ガラスの厚さによる種類 ※建具表による ・ ・ 網入板又は線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ 合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ ※建具表による ・ ・ 落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類 ・ I類 ・ II-1類 ・ II-2類 ・ III類 ・ 強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 ※建具表による ・ ・ 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類 ・ I類 ・ III類 ・ 熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類 ※建具表による ・ 性能による種類 ・ 1種 ・ 2種	<3. 7><5. 14. 2~4>				
8	鋼製建具	性能値等 簡易気密型ドアセット ※適用する (建具符号 ・ 建具表による) ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)	<5. 2. 2><5. 4. 2~4><表 5. 4. 2>	11. 木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ※A種 ・ 建物内部の木製建具に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ ・ フラッシュ戸 表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※改修標準仕様書5. 7. 2(2) (4) (a) による	<5. 7. 2~4>	16. 建具用金物	金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書表5. 8. 1)により適用は建具表による ・ 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5. 8. 2)による ・ 建具表による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5. 8. 3)による ・ 建具表による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5. 8. 4)による ・ 建具表による 木製建具に使用する戸車及びレール ※改修標準仕様書表5. 8. 5)による ・ 建具表による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ・ 建具表による	<5. 8. 1~3>	17. 軽量シャッター	開閉方式の種類 ※手動式 ・ 電動式 (手動併用) 耐風圧強度 () Pa 安全装置 電動シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による) スラットの材質の種類 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 (※Z06又はF06) ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 (※AZ90) スラットの形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形	<5. 12. 2~4>				
		材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面仕上げ ※HL ・ 鏡面仕上げ 工法 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ	性能値等 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による		<5. 2. 2><5. 4. 2~4><表 5. 4. 2>	引き戸用検出装置 性能値 ※改修標準仕様書表5. 9. 3)による (防錆 ・ 適用する ・ 適用しない) ・以下による 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 防滴 () 電源 ()		<5. 9. 2. 3>	19. ガラス		フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ ・ 型板ガラスの厚さによる種類 ※建具表による ・ ・ 網入板又は線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ 合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ ※建具表による ・ ・ 落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類 ・ I類 ・ II-1類 ・ II-2類 ・ III類 ・ 強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 ※建具表による ・ ・ 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類 ・ I類 ・ III類 ・ 熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類 ※建具表による ・ 性能による種類 ・ 1種 ・ 2種	<3. 7><5. 14. 2~4>				

・複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さ並びに複層ガラスの厚さ
・ 建築表による
・ 断熱性による区分
・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・ G ・ S
乾燥気体の種類
・ 空気 ・ アルゴン
・ 熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・ 建築表による
・ 日射熱遮へい性による区分
・ 1種 ・ 2種 ・ 3種
耐久性による区分 (日射熱遮へい性が2種の場合)
・ A類 ・ B類
・ 倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・ 建築表による

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建築の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	・ シーリング材 ・ グレージングチャンネル	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示による
銅製及び銅製軽量	・ シーリング材	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示による
ステンレス製	・ シーリング材	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示による
樹脂製	・ グレージングガセット	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示による

<5.14.5>

呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	目地幅 (mm)	伸縮調整目地位置 (mm)	防火性能
・ 160x160	・ 95				
・ 200x200	・ 95				

壁用金属枠及び補強材
●図示による
力骨
材質
●ステンレス鋼(SUS304)
寸法
●径5.5mm
形状
●はしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色 (・白 ・グレー)
シーリングの種類 (・SR-1 ・PS-1)
金属製化粧カバー
材質
・ ステンレス製
・ アルミニウム製
寸法
●図示による
形状
●図示による
目地部の横力骨の納まり
●ガラスブロック製造所の仕様による
・ 図示による

種類	記号	その他性能等
・ 日射調整フィルム	・ SC-1 ・ SC-2	
・ 低放射フィルム	・ LE	
・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ GI-1 ・ GI-2	
・ 相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ GD-1 ・ GD-1	
・ ガラス貫通防止フィルム	・ SF	

品質は、JIS A 5759による。

6 内装改修工事

1. 改修範囲

<6.1.3>
既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井 壁及び床の改修範囲
●壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・ 図示による
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
●壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・ 図示による
既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
●既存のまま
・ 図示による

2. 既存床の撤去及び下地補修

<6.2.2>
ビニル床シート等の除去
●仕上材のみ (接着剤とも)
・ 下地モルタルとも (・ 図示による ・ 除去範囲全て)
合成樹脂塗床材の除去工法
・ 機械的除去工法
・ 目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外装改修工事による。

3. 既存壁の撤去及び下地補修

<6.3.2>
間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
●改修標準仕様書43.10によるモルタル塗り (全塗厚が25mmを超える場合の処理 ●図示による)

4. 施工一般

<6.5.2>
材料のホルムアルデヒド放散量
●F☆☆☆☆又は改修標準仕様書65.2(1)(ウ)(b)による

5. 製材

<6.5.2>

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
●2級		●A種 ・ B種		
●2級		●A種 ・ B種		

6. 造作用集材

<6.5.2>

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
見え掛り面	●上小節	●A種 ・ B種		
見え掛り面以外	●小節以上	●A種 ・ B種		

<6.5.2>

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
●7等		●10%以下 ・ A種 ・ B種		
●1等		●10%以下 ・ A種 ・ B種		

<6.5.2>

施工箇所	寸法 (mm)	材面の品質	防火処理	含水率
		() ・ 造作材の場合 (●A種 ・ B種)	・ 適用する ・ 適用しない	●A種 ・ B種
		() ・ 造作材の場合 (●A種 ・ B種)	・ 適用する ・ 適用しない	●A種 ・ B種

<6.8.2>

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面	見付け材面の品質
					●1等 ・ 2等 ●1等 ・ 2等

<6.8.2>

施工箇所	品名	材種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	見付け材面の品質
		化粧薄板: 芯材:			●1等 ・ 2等	
		化粧薄板: 芯材:			●1等 ・ 2等	

<6.8.2>

施工箇所	材種名	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率
				●15%以下 ●15%以下

<6.8.2>

施工箇所	材種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率
					●15%以下 ●15%以下

<6.8.2>

施工箇所	材種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率
					●15%以下 ●15%以下

7. 造作用単板覆層材

<6.5.2>

施工箇所	品名	寸法 (mm)	表面の品質	防火処理
				・ 適用する ・ 適用しない ・ 適用する ・ 適用しない

<6.5.2>

施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質	含水率	防火処理
			●14%以下 ●14%以下	・ 適用する ・ 適用しない ・ 適用する ・ 適用しない

<6.5.2>

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)

<6.5.2>

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防火処理
	●5.5		●1類 ・ 2類	広葉樹 ●2等以上 ・ 1等 針葉樹 ●C-D以上	・ 適用する ・ 適用しない

<6.5.2>

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ (mm)	防火処理	強度等級
	●2級以上 ・ 1級	●1類 ・ 特類	●C-D以上		●12	・ 適用する ・ 適用しない	・ 適用する () ・ 適用しない

<6.5.2>

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防火処理
			・ 1類 ・ 特類	・ 適用する ・ 適用しない

<6.5.2>

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	防火処理
			・ 1類 ・ 2類	・ 適用する ・ 適用しない

<6.5.2>

施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防火処理
			・ 1類 ・ 2類		・ 適用する ・ 適用しない

<6.8.2. 3>

種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考
●FS(複層ビニルシート)	●無地 ・ マーブル柄 ・ 柄物	●2.0	

<6.8.2>

種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考
●KT(クボ ジョウゴ ビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物	●300x300 ・ 450x450	●2.0 ・ 3.0	
・ TT(単層ビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物	・ 300x300 ・ 450x450	・ 2.0 ・ 3.0	
・ FT(複層ビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物	・ 300x300 ・ 450x450	・ 2.0 ・ 2.5 ・ 3.0	
・ FOA(厚敷きビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物	・ 500x500	・ 4.0	
・ FOB(薄型厚敷きビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物			

<6.5.3>

施工箇所	厚さ (mm)	表面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
			●13タイプ	●P又はM	●15

<6.5.3>

施工箇所	寸法 (mm)

<6.5.3. 4>

施工箇所	厚さ (mm)	表面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

<6.5.5>

適用部材	保存処理性能区分
・ K2	・ K3
・ K2	・ K3
・ K2	・ K3

12. 内部間仕切組及び床組み

<6.5.6>

種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考
●KS(複層ビニルシート)	●無地 ・ マーブル柄 ・ 柄物	●2.0	

13. 窓、出入口その他

<6.5.7>
窓、出入口その他に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
●杉又は松
床組みに用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
●杉又は松

14. 軽量鉄骨天井下地

<6.6.2~4>
野縁等の種類
屋外
●25形 ・ 19形
屋内
●19形 ・ 25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔
・ 図示による
周辺部の端からの間隔
・ 図示による
野縁の間隔
・ 図示による

15. 軽量鉄骨壁下地

<6.7.3. 4>表6.7.1
●改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・ 図示による
スタッドの高さが5.0mを超える場合
●図示による
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
●改修標準仕様書表6.7.4(5)による

16. ビニル床シート

<6.8.2. 3>

種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考
●FS(複層ビニルシート)	●無地 ・ マーブル柄 ・ 柄物	●2.0	

17. ビニル床タイル

<6.8.2>

種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考
●KT(クボ ジョウゴ ビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物	●300x300 ・ 450x450	●2.0 ・ 3.0	
・ TT(単層ビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物	・ 300x300 ・ 450x450	・ 2.0 ・ 3.0	
・ FT(複層ビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物	・ 300x300 ・ 450x450	・ 2.0 ・ 2.5 ・ 3.0	
・ FOA(厚敷きビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物	・ 500x500	・ 4.0	
・ FOB(薄型厚敷きビニルシート)	・ 無地 ・ 柄物			

18. 特殊機能床材

<6.8.2>
帯電防止床シート
種類 ()
性能 ()
厚さ(mm) ()
帯電防止床タイル
種類 ()
性能 ()
寸法(mm) () x ()
厚さ(mm) ()
視覚障害者用床タイル
ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による。
形状 ()
種類 ()
耐動荷重性床シート
種類 ()
厚さ(mm) ()

20. ガラスブロック積み

21. ガラス用フィルム

6	防汚性床シート 種類 () 厚さ(mm) () 防汚性床タイル 種類 () 寸法(mm) () × () 厚さ(mm) ()				
19.	ビニル幅木 材質の種類 ※軟質 ・硬質 高さ(mm) ※60 ・75 ・100 厚さ(mm) ※1.5以上	<6.8.2>			
20.	ゴム床タイル 種類 ・単層品 ・積層品 色柄 () 厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法(mm) () × ()	<6.8.2>			
21.	カーペット敷き ・織じゅうたん 織り方 ・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	<6.9.2.3>表6.9.1	パイル形状 ・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル	備考	
	色柄 ※模様のない無地 パイル糸の繊維種等 ※無地の織りじゅうたんの種別 (A種 ・ B種 ・ C種) 帯電性 ・適用する ・適用しない 織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・つづり縫い 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種1号 呼び厚さ 8mm タフテッドカーペット パイル形状 ・カットパイル ・ループパイル ・カット・ループ併用				
	下敷き材(グリッパー工法の場合) ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第212号 呼び厚さ 8mm タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆				
	・タイルカーペット パイルの形状 ※ループパイル ・第一種 ・第二種 ・カットパイル ・第一種 ・第二種 ・カット・ループ併用 ・第一種 ・第二種	種類	施工箇所	寸法 (mm)	総厚さ (mm)
	タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し 階段部分 ※模様流し ・市松敷き 見切り、押え金物 材質 () 種類 () 形状等 ※図示による				
22.	合成樹脂塗床 種類 ・厚膜型塗床材 弾性かつ樹脂系塗床 ・厚膜型塗床材 1) 樹脂系塗床 ・薄膜型塗床材	<6.10.2.3>	施工箇所	工法	仕上げの種類
	塗床材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆				

23.	フローリング張り フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 ※改修標準仕様書6.11.2(2)による 各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・単層フローリング (フローリングボード1等) 工法 ・釘留め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法 樹種 ※なら ・単層フローリング (フローリングブロック1等) 樹種 ・厚さ (mm) ・大きさ ・複合フローリング 工法 ・釘留め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法 樹種 ※なら 種類 ・A種 ・B種 ・C種 接着工法の場合の不陸緩和材 ※合成樹脂発泡シート ・現場塗装仕上げ ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ワックス塗り ・生地そのままワックス塗り	<6.11.2~6>			
24.	畳敷き 種類 ・A種 ・B種 ※C種 ・D種 (畳床) ・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N) 下地の種類 ・標準仕様書表12.6.11による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン) 畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 衝撃緩和型畳 (畳表: ・C1 ・C2)	<6.12.2>			
25.	せつこうボード その他のボード及び合板張り MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 合板のホルムアルデヒド放散量 ※改修標準仕様書6.13.2(4)の(a)~(d)のいずれか 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 表面への化粧張り等の加工 ※図示による	<6.13.2.3>	種類等	厚さ(mm)、規格等	
	木質系セメント板 ・木質セメント板 ・硬質(HH) ・中質(MH) ・普通(NH) ・木片セメント板 ・硬質(HF) ・普通(NF) 繊維強化セメント板 ・けい酸カルシウム板(タイプ2) 普通ボード 0.8FX 火山性ガラス繊維層板 ・火山性ガラス繊維層板 種類 ※図示による				
	繊維板 ・ミディアムファイバーボード (MDF) ・ハードボード ・ラッカーボード (無処理) ・素地ハードボード ・未研磨板 (RN) ・研磨板 (RS) ・内装化粧ハードボード (DI) ・ソリッドボード (処理) ・素地ハードボード ・未研磨板 (RN) ・研磨板 (RS) ・外装化粧ハードボード (DE) ・インサレーションボード ・A級インサレーションボード (A-1B) ・天井上げ材 ・内装仕上げ材				
	パーティクルボード ・単板張りパーティクルボード ・無研磨板 (VN) ・研磨板 (VS) ・化粧パーティクルボード ・単板パーティクルボード (DV) ・パーティクルボード (DO) ・塗装 (DC)				
	吸音材料 ・ロックウール吸音板 (DR) ・フラットイブ ・凹凸イブ ・ロックウール吸音ボード (1号) ・グラスウール吸音ボード (32K)				

26.	壁紙張り せつこうボード ・せつこうボード (GB-R) ・セービングせつこうボード (GB-S) ・強化せつこうボード (GB-F) ・せつこうボード (GB-L) ・不燃積層せつこうボード (GB-NC) ・化粧無し (下地張り用) ・化粧有り (5層・7層仕様) ※12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・12.5 (不燃) ・準不燃) ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・9.5 ・9.5 (不燃)	<6.14.2.3>	合板類 ・普通合板 表板の樹種名: 板面品質: 防虫処理 ・行う ・行わない ・天然木化粧合板 化粧板の樹種名: 防虫処理 ・行う ・行わない ・特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 ・オパールイ ・プリント ・塗装 表面性能 ・防虫処理 ・行う ・行わない	※図示による							
27.	モルタル塗り モルタル及びせつこうプaster面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種 コンクリート面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種 せつこうボード面及びその他のボード面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種 モルタル ・現場調合材料 ・既調合材料 既製目地材 ・設ける 施工箇所 () 形状 (※図示による) ・設けない 床の目地 ・設ける 目地割り ※2階程度 (最大目地間隔3m程度) 目地の種類 ※押し目地 ・設けない 壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の地下処理 ・図示による ・ラスメタル下地	<6.15.3.5.6>	施工箇所	紙	繊維	塩化ビニル	ガラス繊維	無機繊維	その他	防火性能	備考
28.	タイル張り 伸縮目地の位置 床タイル ※縦、横とも4m以内ごと ・図示による 床タイル以外 ・図示による 伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による 見本抜き ・行う (施工箇所:) ・行わない 試験張り ・行う (範囲、仕様等は図示による) ・行わない ・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り タイルの形状、寸法等	<6.16.2~4>	形状/寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率	うわぐすり	役物	色	耐凍害性耐滑		
	標準的な曲がりの役物は一体成形とする										

29.	セービング材 張り 壁タイル張りの工法 内装タイル ・密着張り ・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り タイルの形状、寸法等	<6.17.2.3>	施工箇所	形状/寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率	うわぐすり	役物	色	耐凍害性耐滑	
7	① 材料 ② 下地調整 ③ 素地ごしらえ ④ 錆止め塗料塗り										
	屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・次の箇所を除き防火材料とする。(箇所:) 塗替えRB種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※劣化部分は除去し、活膜部分は残す ・図示による 既存錆止め塗料の鉛含有量調査 ・行う (箇所) ・行わない 下地調整 下地面の種類	<7.1.3> <7.2.1~7>	下地調整の種類別	塗替え	ひび割れ部の補修						
	木部	※不透明塗料塗りの場合はRB種									
	鉄鋼面 (DP以外)	※RB種									
	鉄鋼面 (DP)	※RB種									
	垂鉛めっき鋼面	※RB種									
	モルタル面及びせつこうプaster面	※RB種									
	コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面	※RB種									
	ALCパネル面	・RA種 ・RB種 ・RC種									
	押出成形セメント板面	・RB種 ・RC種									
	コンクリート面 (DP)	・RB種 ・RC種									
	せつこうボード面及びその他ボード面	※RB種									
	下地面等	種類									
	木部	不透明塗料塗りの場合 透明塗料塗りの場合	※A種 ・B種 ※B種 ・A種								
	鉄鋼面 (DP以外)	※C種 ・A種 ・B種									
	鉄鋼面 (DP)	※B種 ・A種 ・C種									
	垂鉛めっき鋼面	・A種 ・B種									
	モルタル面及びせつこうプaster面	※B種 ・A種									
	コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面	※B種 ・A種									
	押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP)	・A種 ・B種 ・C種									
	コンクリート面 (DPのみ)	※B種 ・A種									
	せつこうボード面及びその他ボード面	目地: 継目処理工法 目地: 継目処理工法以外	※A種 ・B種 ※B種 ・A種								
	錆止め塗料塗りの種類	塗装の種類	塗料の種類	工程の種類							
	鉄鋼面	SOP (工程の種類は表7.4.3)	塗替え A種 新規見え隠れ A種	※C種 ※A種 ※B種							
		EP-G (工程の種類は表7.4.3)	塗替え A種 新規見え隠れ A種	※B種 ・A種 ※B種 ・A種 ※B種							
		DP (工程の種類は表7.4.4)	塗替え 新規 7.4.2(1)(イ) (b)による 7.4.2(1)(イ) (a)による	・B種 (下地調整RB種) ・C種 (下地調整RC種) ・A種							
	垂鉛めっき鋼面	SOP (工程の種類は表7.4.5)	塗替え 新 鋼製建具等 規 其他	※A種 ・B種 ※A種 ・B種 ※B種							
		EP-G (工程の種類は表7.4.5)	塗替え 新 鋼製建具等 規 其他	C種 C種 ※A種 ※B種							
		DP (工程の種類は表7.4.6)	塗替え 新規	C種 B種							

Table with columns: 塗装の種類, 塗装面, 塗替え, 新規. Rows include 合成樹脂調合ペイント, 塗膜種類, アクリル樹脂系非水分散形塗料, 耐候性塗料, つや有合成樹脂, 合成樹脂, ウレタン樹脂, ステン, 木材保護塗料.

つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗料 (コラード面、モザイク面、せっこうアウター面、せっこうド面、その他ド面) の塗替えのしめ止め...
合成樹脂エマルジョンペイント塗料の塗替えのしめ止め...
クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用...
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用...
オイルステイン塗りの工程等

Table with columns: 鉄筋の種類等, 呼び径 (mm), 備考. Rows include SD295, SD345, 鉄筋の形状等, 鉄筋の継手の方法等, 鉄筋の定着, 鉄筋のかぶり, 圧接完了後の試験, 機械式継手.

H12報告第1463号に適合する性能...
鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網を含む)...
圧接完了後の試験...
機械式継手...
H12報告第1463号に適合する性能...
鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網を含む)...
圧接完了後の試験...
機械式継手...

Table with columns: 鉄筋のかぶり, 最小かぶり厚さ, 図示による, 軽量コンクリート, 耐久性上不利な箇所がある場合, あり適用箇所, 最小かぶり厚さに加える厚さ.

Table with columns: 超音波探傷試験, 図示による, H12報告第1463号に適合する性能, 種類, ねじ式鉄筋継手, 先端方式, 無機グラウト方式, 有機グラウト方式, 端部ねじ加工継手, モルタル充填式継手, 工法, 鉄筋相互のあき, 品質の確認, 検査, 施工完了後の継手部の試験, 試験対象, 試験項目, 試験方法, 超音波測定試験, 試験対象, 抜き取り, ロット, 試験の箇所数, 試験の箇所数, 試験の箇所数.

Table with columns: 1. 適用範囲, 2. 既存部分の処理等. 内容: 改修標準仕様書 8章 耐震改修工事, 改修標準仕様書において8章耐震改修工事以外の改修工事で8章を引用している部分, 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事, 鉄骨ブレースの設置工事, 柱補強工事, 柱補強工事, 連続繊維補強工事, 耐震スリット新設工事, 免震改修工事, 制振改修工事, 土工事及び地業工事, 既存構造体の撤去, 撤去範囲, はつり出した鉄筋及び鉄骨の処理, 既存構造体(コンクリート面)の目荒らしの程度, 既存柱、梁面, 打継ぎ面等の15~30%程度に、平均深さ 2~5mm (最大7mm) 程度の凹凸を、全体にわたってつける, 既存壁, 打継ぎ面の10~15%程度に、平均深さ 2~5mm (最大7mm) 程度の凹凸を、全体にわたってつける, 既存杭の撤去等, 撤去範囲及び撤去方法.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 不合格となった場合の措置, 適用箇所, 溶接継手の工法, 施工完了後の継手部の試験, 試験対象, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 不合格となった場合の措置, 試験の箇所数, 試験項目, 試験方法, 不合格となった場合の措置.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 不合格となった場合の措置, 試験の箇所数, 試験項目, 試験方法, 不合格となった場合の措置.

Table with columns: 形状, 種類の記号, 呼び径、曲げ直径、ピッチ, 試験項目, 試験方法, 不合格となった場合の措置.

Table with columns: 1. コンクリートの種類, 2. コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度, 3. セメント, 4. 骨材, 5. 混和材料, 6. 構造体用モルタル.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 不合格となった場合の措置, 試験の箇所数, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

Table with columns: 7. 暑中コンクリート, 8. マスコンクリート, 9. 無筋コンクリート, 10. 流動化コンクリート, 11. 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地, 12. 構造体コンクリートの仕上り, 13. 打増し厚さ (打放し仕上り), 14. 型枠, 15. 型枠の加工及び組立.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

Table with columns: 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法, 試験項目, 試験方法.

16. コンクリートの打込み工法等	コンクリートの打設工法の種類 (8.21.8)~(8.23.5~7)		7. アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2)		17. 耐火被覆 (8.18.2)~(8.18.8)		8-5 グラウト工事	① 柱底均しモルタル及びびグラウト材	・柱底均しモルタル ※無収縮モルタル ・グラウト材 無収縮グラウト材の材質等 混和材 セメント系 (酸化カルシウム及びカルシウム・サルファ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。 セメント JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合時に使用される砂の乾燥状態は、規定しない。 無収縮グラウト材の品質及び試験方法 コンシステンシー Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 : 8±2秒 プリージング 練混ぜ2時間後のプリージング率 : 2.0%以下 凝結時間 凝結開始時間 : 1時間以上 終結時間 : 10時間以内 無収縮性 材齢 7日 収縮しない 圧縮強度 材齢 3日 20.0 N/mm ² 以上 ² 材齢 28日 40.0 N/mm ² 以上 ² 塩化物量 0.30kg/m ³ 以下 試験方法 1) NEXCO試験方法 試験法312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。		
	鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 柱頭及び柱脚の隙間の寸法 ・ 図示による () 柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む 既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ ・ 図示による () 補強後の仕上げ ・ 図示による ()		溶接材料 (8.2.10) ・ 改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による		18. アンカーボルト等の設置等 (7.10.3) 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ・ 図示による () 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ・ 図示による () 建方用アンカーボルトの形状及び寸法 ・ 図示による () 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種類 ・ A種 ・ B種 柱底均しモルタル厚さ及び工法の種類 厚さ 種類 ※A種 ・ B種					8-6 連続繊維補強工事 1. 連続繊維シート (8.2.13)~(8.2.18) 連続繊維の材料 ・ 炭素繊維 ・ アラミド繊維 ・ 引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm ² ・ ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm ² ・ 下地処理 ・ ひび割れ部改修範囲 ・ 図示による () ・ 工法の種類 ・ 柱及び梁の隅角部の取りの大きさ ・ 図示による () 連続繊維補強材の強度試験 ・ 引張強度試験 ※JIS A 1191 (コンクリート用連続繊維シート)による ・ 試験数量 ・ 図示による () ・ 付着強度試験 ※JIS A 6909 (建築用仕上塗材)による ・ 試験数量 ・ 図示による ()	
	鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 柱頭及び柱脚の隙間の寸法 ・ 図示による () 柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む 既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ ・ 図示による () 補強後の仕上げ ・ 図示による ()		種類等 (8.2.11) 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 ・ 16 ・ 19 ・ 22		19. 鉄骨ブレース設置後の仕上げ (8.22.9) ・ 図示による ()					2. 仕上げ (8.24.7) 補強工事後の仕上げ ・ 図示による ()	
8-3 鉄骨工事	1. 鉄骨製作工場 (8.1.5) 鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 () グレード以上 ・ 監督職員の承諾する工場		11. 仮組 (8.13.10) 仮組を行う範囲 ・ 図示による ()		8-4 あと施工アンカー工事 (8.2.4) 1. あと施工アンカー (8.2.4) 材料等 ・ 金属系アンカー ・ 引張耐力 () kN ・ 図示による () ・ セン断耐力 () kN ・ 図示による () ・ アンカー本体の径及び埋込み長さ ・ 図示による () ・ セット方式 ※本体打込み式改良型 ・ 接合部の種類、径、長さ ・ 図示による () ・ 性能確認試験 試験方法及び試験数 ・ 図示による () ※接着系アンカー ・ 引張耐力 () kN ・ 図示による () ・ セン断耐力 () kN ・ 図示による () ・ アンカーの種類 ※カプセル方式回転打撃式 ・ 接着剤の品質 ※有機系 ・ 無機系 アンカー筋の径及び埋込み長さ ・ 図示による () アンカー筋の種類 アンカー筋の新設壁内への定着の長さ ・ 図示による () ・ 性能確認試験 試験方法及び試験数 ・ 図示による ()		2. 耐震スリットの新設工事 (8.25.2) 1. 耐震スリットの新設工事 (8.25.2) 方式 ・ 完全 ・ 部分 幅及び深さ ・ 図示による () 設置箇所 ・ 図示による () 2. 耐震スリットの施工前の埋込み配管等の探査 (8.12.4) 既存撤去部の埋込み配管等の探査方法 ・ 鉄筋探査機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しする ・ はつりだしによる 3. 耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等 (8.25.2) ・ 耐火材 使用箇所及び仕様 ・ 図示による () ・ 遮音材 使用箇所及び仕様 ・ 図示による () 撤去部の補修 ※撤去材と同一材で補修				
2. 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.6) ※配置する	3. 鋼材 (8.2.8) 種類等 種類の記号 適用箇所 (主要な部分) 規格 ・ JISによる ・ JISによる ・ JISによる ・ JISによる ・ JISによる ・ JISによる		12. 溶接作業を行う技能資格者技量付加試験 (8.15.3) 試験の要領 ・ 図示による ()		2. 穿孔 (8.12.4) 埋込み配管等の探査方法 ・ 鉄筋探知器 (金属探知器) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しする。 ・ はつり出しによる		3. 耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等 (8.25.2) 試験方法 ※引張試験機による引張試験 確認強度 ・ 図示による (耐震補強共通図)				
4. 高力ボルト (8.2.9)~(8.13.2)~(8.14.2) 高力ボルトの種類 ※トリア角高力ボルト ・ JIS高力ボルト ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による () 摩擦面の処理方法 ・ 改修標準仕様書8.14.2(1)による。 ・ すべり試験の実施 ・ すべり係数試験 ・ すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(f)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	13. 溶接接合 (8.15.4)~(8.15.7) 開先の形状 ・ 図示による () ・ 鋼製エンドタブの切断する部分 切断する箇所 ・ 図示による () 切断範囲 ・ 鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。 なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。 切断面の仕上げ ・ 改修標準仕様書8.15.7(1)(a)(b)による スカラップの形状 ・ 図示による ()		14. 入熱、バス温度の溶接条件 (8.15.7)~(8.15.10) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・ 図示による () 適用箇所 ・ 図示による () ・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部		3. 施工確認試験 (8.12.7) 試験方法 ※引張試験機による引張試験 確認強度 ・ 図示による (耐震補強共通図)		4. あと施工アンカー穿孔工法 (8.12.1) ※改修標準仕様書8.12.1(2)による。 ・ 耐震改修部位に使用するD13以上のあと施工アンカーは、ケーシング又はダイヤモンドビット等を用いた低騒音工法を採用する。				
5. 普通ボルト (8.13.2)~(7.2.3) ボルト及びナットの材料 ・ 標準仕様書 表7.2.3 (JIS附属書品) 又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180とする。 ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は金ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。 ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの最大方法は、ボルトの径の値以下とする。 ナットの規格は、JIS B 1181とする。 ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。 座金 ※JIS B 1256による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による () 摩擦又は鋼線の取付けに使用するボルトの孔径 ※ねじの呼び径+1.0mm	15. 溶接部の試験 (8.15.12) 平12報告第1464号第二号に関する外観試験方法等 [突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル]3.5.2 ・ 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 ・ 抜き取り検査① ※抜き取り検査② JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準] の付表3「溶接」に関する試験方法等 ・ JASS 6 10.4 [突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル]による。 ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り検査は、超音波探傷試験の抜き取り検査と同一とする。外観検査の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・ 工場溶接の場合 ※全数 ・ 工場現場溶接の場合 ※全数		4. あと施工アンカー穿孔工法 (8.12.1) ※改修標準仕様書8.12.1(2)による。 ・ 耐震改修部位に使用するD13以上のあと施工アンカーは、ケーシング又はダイヤモンドビット等を用いた低騒音工法を採用する。		5. 普通ボルト (8.13.2)~(7.2.3) ボルト及びナットの材料 ・ 標準仕様書 表7.2.3 (JIS附属書品) 又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180とする。 ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は金ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。 ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの最大方法は、ボルトの径の値以下とする。 ナットの規格は、JIS B 1181とする。 ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。 座金 ※JIS B 1256による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による () 摩擦又は鋼線の取付けに使用するボルトの孔径 ※ねじの呼び径+1.0mm						
6. 溶融亜鉛めっき高力ボルト (8.13.2)~(8.14.2)~(8.20.5) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による () 摩擦面の処理方法 ・ プラスト処理 (表面粗度50μm Rz以上) ・ りん酸塩処理 ・ すべり試験の実施 ・ すべり係数試験 ・ すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.20.5(1)(f)又は(f)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	16. 錆止め塗装 (7.3.3)~(8.17.2、4) 塗料の種類 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・ 図示による () 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※改修標準仕様書8.17.2(1)による ・ 図示による () 塗料の種類 ・ 下記以外の鉄鋼面は、7章 [塗装改修工事] による ・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・ 耐火被覆材が接着する面の塗料の種類										

8-8 土工事及び地盤土工事	1. 埋戻し及び盛土	材料及び工法 ・材料() 工法() ※改修標準仕様書表8.28.1による ・A種 適用場所() ・B種 適用場所() ・C種 適用場所() ・土質() 受渡場所() ・D種 適用場所() (品質 細粒分(75µm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする)	<8.28.3>
	2. 杭地業	支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端位置含む) ・図示による() 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 ・図示による() ・試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ・図示による() ・杭の継手の箇所数、材料、工法等 ・図示による() ・杭の溶接継手 技能資格者の技量 ・図示による() 溶接部の確認 ・図示による() ・杭頭の処理 ・処理しない ・処理する 処理方法(切断にともなう補強方法含む) ・図示による() ・杭頭の中詰め材料 ・基礎のコンクリートと同調合のもの 杭の精度 水平方法の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定等の評価内容による 建て込み時の杭の鉛直度 ・1/100以内 ・評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ・図示による()	<8.2.15><8.28.4>(4.3.8)
	3. 砂利地業	材料 ※再生クラッシュラン 切込砂利又は切込砕石	<8.2.15><8.28.4>
	4. 捨コンクリート地業	捨コンクリートの厚さ 厚さ 適用箇所 ※50mm ・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下 コンクリートの種類 ※普通コンクリート 設計基準強度 ※18N/mm ² スラブ ※15cm又は18cm	<8.2.15><8.28.4>

9 環境配慮改修工事	① 石綿含有建材の除去工事 施工調査 ※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及びび質与する設計図書等によって石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無を調査する。 調査範囲() 貸与資料() ○図示 定性分析	<9.1.3~6>																																																																						
<p>石綿粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定箇所数(各施工箇所ごと)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定 1</td> <td rowspan="4">処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>測定 2</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>・計 15 点</td> </tr> <tr> <td>測定 3</td> <td>処理作業室内</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>測定 4</td> <td>セキュリティゾーン入口</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>測定 5</td> <td rowspan="3">処理作業中</td> <td>業じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)</td> <td>出口吹出し風速1m/s以下の位置 ・計 点</td> </tr> <tr> <td>測定 6</td> <td>処理作業室内 ・施工区画周辺 ・敷地境界</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>測定 7</td> <td>処理作業室内 (シート養生中)</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>測定 8</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>測定 9</td> <td>処理作業後(シート撤去後1週間以降)</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>・計 点</td> </tr> </tbody> </table> <p>(検体取得箇所数)</p> <p>南側躯体 任意 3ヶ所 (1~3階 各階) 北側躯体 任意 3ヶ所 (1~3階 各階) 廊下側躯体 任意 3ヶ所 (1~3階 各階) 教室(南) 任意 3ヶ所 (1~3階 各階) 教室(北) 任意 3ヶ所 (1~3階 各階)</p> <p>測定方法 ○定性分析</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定 2</td> <td>定性的測定方法 検体取得の上分析</td> </tr> </tbody> </table> <p>JIS A1481-1に基づいた測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定 2</td> <td>定性的測定方法 検体取得の上分析</td> </tr> </tbody> </table> <p>JIS A1481-1に基づいた測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定 4</td> <td>粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定</td> </tr> </tbody> </table> <p>・自動測定器による測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定 4</td> <td>粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定</td> </tr> <tr> <td>測定 5</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> <p>・JIS K 3850-1に基づいた測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>メンブレンフィルタ</th> <th>試料の吸引流量(L/min)</th> <th>試料の吸引時間(min)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定 4</td> <td rowspan="2">25</td> <td rowspan="2">5</td> <td rowspan="2">30</td> </tr> <tr> <td>測定 5</td> </tr> <tr> <td>測定</td> <td>47</td> <td>10</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>測定</td> <td>47</td> <td>10</td> <td>240</td> </tr> </tbody> </table>			測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数(各施工箇所ごと)	測定 1	処理作業前	処理作業室内	・計 点	測定 2	調査対象室外部の付近	・計 15 点	測定 3	処理作業室内	・計 点	測定 4	セキュリティゾーン入口	・計 点	測定 5	処理作業中	業じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/s以下の位置 ・計 点	測定 6	処理作業室内 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計 点	測定 7	処理作業室内 (シート養生中)	・計 点	測定 8	処理作業後	処理作業室内	・計 点	測定 9	処理作業後(シート撤去後1週間以降)	調査対象室外部の付近	・計 点	測定名称	測定方法	測定 2	定性的測定方法 検体取得の上分析	測定名称	測定方法	測定 2	定性的測定方法 検体取得の上分析	測定名称	測定方法	測定 4	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定	測定名称	測定方法	測定 4	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定	測定 5	同上	測定名称	メンブレンフィルタ	試料の吸引流量(L/min)	試料の吸引時間(min)	測定 4	25	5	30	測定 5	測定	47	10	120	測定	47	10	240
測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数(各施工箇所ごと)																																																																					
測定 1	処理作業前	処理作業室内	・計 点																																																																					
測定 2		調査対象室外部の付近	・計 15 点																																																																					
測定 3		処理作業室内	・計 点																																																																					
測定 4		セキュリティゾーン入口	・計 点																																																																					
測定 5	処理作業中	業じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/s以下の位置 ・計 点																																																																					
測定 6		処理作業室内 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計 点																																																																					
測定 7		処理作業室内 (シート養生中)	・計 点																																																																					
測定 8	処理作業後	処理作業室内	・計 点																																																																					
測定 9	処理作業後(シート撤去後1週間以降)	調査対象室外部の付近	・計 点																																																																					
測定名称	測定方法																																																																							
測定 2	定性的測定方法 検体取得の上分析																																																																							
測定名称	測定方法																																																																							
測定 2	定性的測定方法 検体取得の上分析																																																																							
測定名称	測定方法																																																																							
測定 4	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定																																																																							
測定名称	測定方法																																																																							
測定 4	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定																																																																							
測定 5	同上																																																																							
測定名称	メンブレンフィルタ	試料の吸引流量(L/min)	試料の吸引時間(min)																																																																					
測定 4	25	5	30																																																																					
測定 5																																																																								
測定	47	10	120																																																																					
測定	47	10	240																																																																					
<p>石綿含有建材の処理</p> <p>・石綿含有吹き付け材の除去 除去対象範囲 ・図示による 除去工法 ※改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による 除去した石綿含有吹き付け材等の飛散防止措置 ※湿潤化 ・固化 除去した石綿含有吹き付け材等の処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) ・中間処理(熔融施設又は無害化処理施設)</p> <p>・石綿含有保温材等(石綿含有けい酸カルシウム板第二種含む)の除去 除去対象範囲 ・図示による 除去工法 ・破砕して除去 ・手ばらし 除去した石綿含有保温材等の飛散防止 ※湿潤化 ・固化 除去した石綿含有保温材等の処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) ・中間処理(熔融施設又は無害化処理施設)</p> <p>・石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種)の除去 除去対象範囲 ・図示による 隔離養生(負圧不要)方法 ・図示による 足場 ・図示による 除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の処分 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・中間処理(熔融施設又は無害化処理施設)</p> <p>・石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種以外)の除去 除去対象範囲 ・図示による 除去した石綿含有成形板の処分 ・石綿含有せっこうボード ※埋立処分(管理型最終処分場) ・石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・中間処理(熔融施設又は無害化処理施設)</p>																																																																								

2. 断熱7777 防水改修工事	・石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板(下地調整材)の除去 除去対象範囲 ・図示による 除去工法 養生方法 除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・埋立処分(管理型最終処分場) ・中間処理(熔融施設又は無害化処理施設)	<9.2.2~3>
	石綿含有建材除去後の仕上げ工事 ・図示による	<9.2.1~4>
	断熱材 断熱材の種類 断熱材の厚さ(mm) 施工箇所 ・図示による ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 外装材 種類 防火性能 備考	
3. 外断熱改修工事	鋼材 改修特記仕様書第8章 8-3 鉄骨工事 ・鋼材による 笠木 改修特記仕様書第3章 ・アルミニウム製笠木による 既存外壁の処置 既存外壁仕上材の撤去 ・行う ・行わない 下地面の清掃 ・行う ・行わない 欠損部の改修工法 ・改修特記仕様書第4章 外壁改修工事による 不陸等の下地調整 断熱材の施工 ・断熱材製造所の仕様による 外装材の施工 ・外装材製造所の仕様による 通気層の有無 ・有(mm) ・無 外装材の外壁への取付け ・図示による 笠木の施工 ・改修特記仕様書第3章 アルミニウム製笠木による	<9.3.2~4>
	フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 工法 ・断熱材打込み工法 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) 施工場所 ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ・A種I ・A種IH 吹付け厚さ(mm) ・25 ・30 施工箇所 ・図示による ・断熱材後張り工法 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) ・断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル 材質 厚さ (mm) ・張り付け工法 断熱材の張り付け工法 断熱材へのボードの張付け工法	

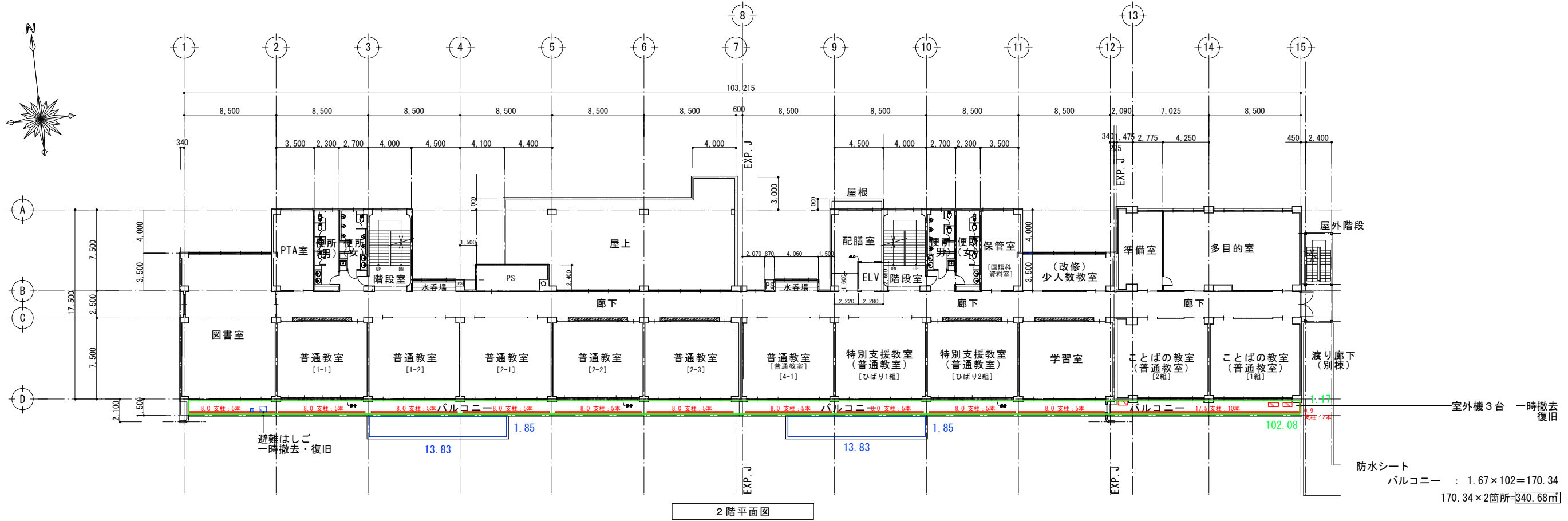
5. 屋上緑化改修工事	種載基盤及び材料 ・屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の種類等 ※図示による 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示による かん水装置 ・設置する(種類) 既存保護層の撤去 ・行う ・行わない 新植した芝及び地被類の枯補償の期間 ※引渡しの日から1年	<9.4.2~4>
	適用範囲: 歩道 既存舗装の撤去及び再利用 ※図示による 路床 路床の材料 種類 材料 厚さ(mm) ・盛土 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 ・凍上抑制層 ※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂 ・フィルター層 ※砂 ・図示による	<9.5.2~5, 9>
6. 透水性7777 舗装改修工事	(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験) ・行う ※行わない 路床安定処理 ・適用する ・適用しない 安定処理の方法 ・置き換え工法 ・安定処理工法 路床安定処理用添加材料 種類 ※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰(・特号 ・1号) ・消石灰(・特号 ・1号) 添加量 ・ kg/m ³ (目標CBR ・3以上) 目標CBRを満足する添加量の確認方法 ・安定処理土のCBR試験	
	・ジオテクスタイル 単位面積質量 ・60g/m ² 以上 厚さ(mm) ・0.5~1.0 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 ・1.5×10 cm/sec以上 試験 路床土の支持力比(CBR)試験 ・行う ※行わない 路床締め度の試験 ※行う ・行わない 現場CBR試験 ・行う ・行わない 路盤 路盤の厚さ ・図示による 路盤材料(改修標準仕様書表9.7.31による種別) ・クラッシュラン ・粒度調整砕石 ※再生クラッシュラン ・再生粒度調整砕石 ・クラッシュラン鉄鋼スラグ ・粒度調整鉄鋼スラグ ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ 舗装の構成 ※図示による 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ※行わない 舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの	

12 左面工事	1. モルタル塗り	モルタル ・現場調合材料 ・既調合材料 既製目地材 ・設ける ・設けない 床の目地 ・設ける 目地割り ※2m程度(最大目地間隔3m程度) ・目地の種類 ※押し目地 ・設けない 屋外のタイル張り下地及び屋内の吹抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗料塗りの接着力試験 ・適用する ・適用しない	(15.3.2、5)
	② ラス系下地	ラス系下地 ・二層下地通気構法 ・単層下地通気構法 換気口部の措置(※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3.(2)(g)・) 直張りラスモルタル下地 ・直張りラスシートモルタル下地 ラスの材料 種類及び記号() 単位面積当たりの質量() ラスシートの材料 ラス目による区分(※M・) 山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分 (・LS4(建築基準法に基づく耐力壁)・) ステープルの形状及び寸法() 直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシートの施工	(15.2.4)
	3. セッコウボード その他の ボード下地	セッコウボード及びセッコウラスボードの種類及び厚さ 種類(・GB-R・GB-L・) 厚さ(mm) 木質系セメント板の種類及び厚さ 種類(・) 厚さ(mm)	(15.2.5)
	4. こまい下地	建築基準法に基づく耐力壁の指定(・あり・なし)	(15.2.6)
	5. 木張り下地	木張り用小板の種類(※すぎ(心去り材)・)	(15.2.7)
	6. 仕上塗材 仕上げ	内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 仕上塗材の種類 ・薄付け仕上塗材	(15.6.2)

○厚付け仕上塗材				
種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
○外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する
	○平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	○こて塗り		
・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	○こて塗り ・ローラー 塗り		
・内装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	○こて塗り		
・内装厚塗材L	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	○こて塗り	・適用する	・適用する
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	○こて塗り		
・内装厚塗材G	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	○こて塗り		
・内装厚塗材Si ・内装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	○こて塗り ・ローラー 塗り		
・複層仕上塗材				
種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐火性
・複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材Si ※複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・外観 ・溶媒	・耐候形 1種 ・耐候形 2種 ・耐候形 3種
	※ゆず肌状	※ローラー 塗り		
・可とう形複層 塗材CE	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・外観 ・溶媒	・耐候形 1種 ・耐候形 2種 ・耐候形 3種
	・ゆず肌状	・ローラー 塗り		
・防水形複層 塗材CE ・防水形複層 塗材RE ・防水形複層 塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・外観 ・溶媒	・耐候形 1種 ・耐候形 2種 ・耐候形 3種
	・ゆず肌状	・ローラー 塗り		
・軽量骨材仕上塗材				
種類(呼び名)				
・吹付用軽量塗材				
・こて塗用軽量塗材				
7. マスチック 塗材塗り (15.7.2)				
8. ロックウール 吹付け (15.12.2、3)				
種類 ・A種 ・B種				
ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆				
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆				
仕上げ吹付け厚さ ※図示による ・25mm				
9. しっくい塗り (15.10.2~4)				
しっくい ・既調合材料 ・色しっくい ・現場調合材料				
下地 ・セッコウボード ・セッコウラスボード ・モルタル塗り ・木張り ・こまい ・下塗りをセッコウラスボードと上塗りに使用する場合				
既調合しっくいの調合 ・セッコウボード下地 ※標準仕様書15.10.1 ・モルタル塗り下地 ※標準仕様書15.10.2 ・セッコウラスボード下地 ※製造所の仕様による				
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚 ・木張り下地 ※標準仕様書15.10.3 ・セッコウラスボード下地、こまい下地 ※標準仕様書15.10.4				
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 ・なで切り仕上 ・パターン仕上げ				

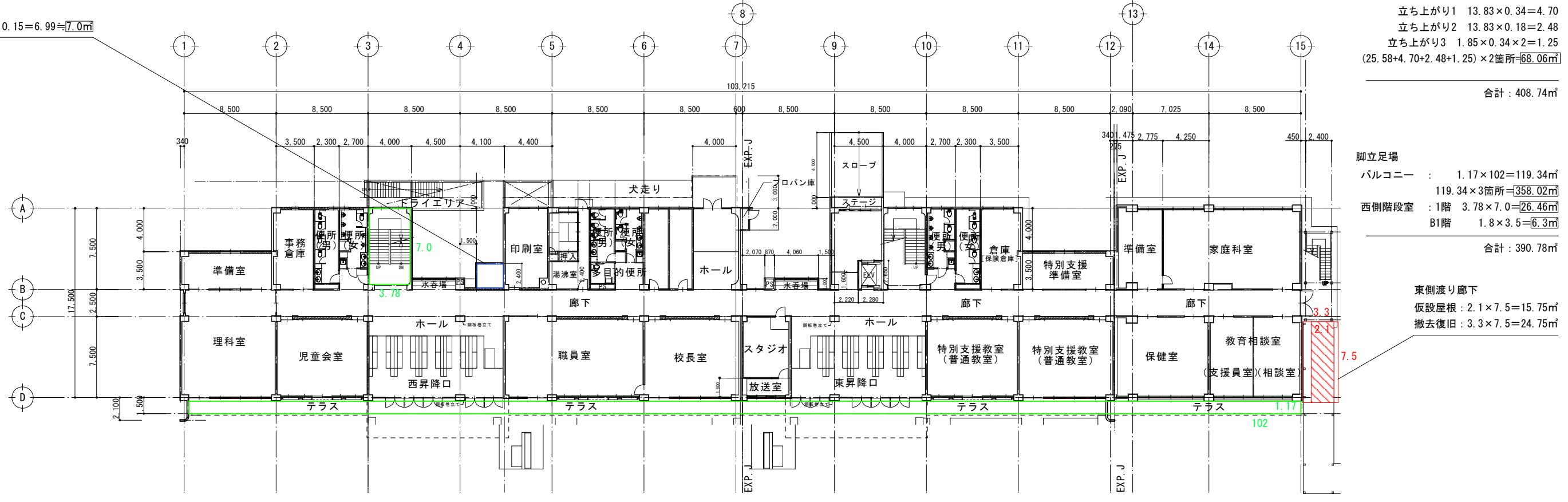
10. こまい壁塗り (15.11.2~5、7、8)	のり ・土壁用ののり ※つものた ・ふのり ・ぎんなんそう ・粉末海藻 ・ ・砂壁用ののり ※ふのり ・つものた ・こんにやくのり ・にかわ ・合成高分子系混和剤 ・ 色土 ・土物仕上げに用いる色土の種類() ・大津仕上げに用いる色土の種類() 色砂の種類 ・天然砂と岩石の砕砂 ・人工的に着色・製造したもの 下塗りの調合 ※標準仕様書表15.11.2 ・ 塗厚 ※標準仕様書表15.11.8による ・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合() ・ こまい壁の工程 ※A種 ・B種 こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類 ・土物仕上げ工法 ・水ごね土物1工法 ・水ごね土物2工法 ・のりさし土物工法 ・のりごね土物工法 ・砂壁仕上げ工法 ・切返し仕上げ工法 こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類 ・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき仕上げ工法 ちりぢり ・図示による						
	1. 長尺金属板葺 (13.2.2、3)						
13 屋根 及び とい 工事	② 折板葺 (13.2.2)(13.2.3)						
	施工箇所	板及び材の種類	塗膜の耐久性の種類 めっき付着量	厚さ (mm)	屋根葺形式 備考		
	※JIS G 3322の 屋根用 (着色・有)	・5類(AZ150)	※0.4 ・0.5	※心木なし 瓦葺葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺			
下葺材料 ・アスファルトルーフィング940 ・改質アスファルトルーフィング下葺材 (・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ) 積層の場合のならば納め ・つかみ込み納め ・けらば包み納め ・設置する(形状及び施工箇所・図示による) ・設置しない							
施工箇所	形式	山高、山ピッチ による区分	耐力に よる区分	材料に よる区分	厚さ (mm)	軒先 面戸板	耐火 性能
渡り廊下	○重ね形 ・はせ締り形 ・かな合形	150 500	()種	※鋼板製 ・7&8ミム 合金板製	・有り ・無し	○無し	・30分
材料 折板の材質の種類(※JIS G 3302の屋根用(着色・有)) 塗膜の耐久性の種類(めっき付着量(・5類(AZ150))) 断熱材張り ○行わない 断熱材の種類(厚さ(mm): 防火性能:) ○行わない 耐震性能に対応した工法の適用 ・適用する ○適用しない 折板のけらば納め ※けらば包みによる方法 ○設置する(形状及び施工箇所・図示による) ○設置しない							

3. 粘土瓦葺 (13.4.2、3)	種類 種類 種類 種類 種類 種類																									
	施工箇所	製法による区分	形状による区分	寸法による区分	産地	役物瓦の種類 止め瓦																				
屋根瓦の防災瓦の使用 JISA5208に基づく凍害試験等 ・行わない 瓦葺材 材質 ・杉 寸法 ※幅21x高さ15(mm)以上 横補強用芯材 材質 ・杉 寸法 ※幅40x高さ30(mm) 瓦葺結用釘及びねじ 種類() 径() 長さ() 横補強等に使用する金物等 材質 ・ステンレス製 ・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製 形状、寸法及び留付け方法 ※図示による 工法 風圧力又は地震力に対応した瓦の葺き方法等 ※図示による 瓦葺材の留付け工法 ※図示による 棟の工法 ・7寸伏せ棟又はF形用瓦伏せ棟 ・のし敷み棟 面戸、開口、葺土の露出する瓦葺合部に仕上げを施す場合 ・モルタル ・瓦葺き用しっくい (13.5.2、3)(表13.5.4)																										
4. とい	といその他の材料 ・配管用鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管 ・ルーフドレン ・表面処理鋼板(表面及び裏面の塗膜の種類) とい受金物 材質 ※標準仕様書表13.5.2による(溶融亜鉛めっきを行ったもの) 形状 ※市販品(とい径100以下) ・25x4.5(mm)以上(とい径100を超えるもの) 取付け間隔 ※標準仕様書表13.5.2による 足金物 材質 ※標準仕様書表13.5.2による(溶融亜鉛めっきを行ったもの) 形状 ※市販品 取付け間隔 ※標準仕様書表13.5.2による 多雪地域 ・適用する ・適用しない 防露材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 鋼管製といの防露巻き ※標準仕様書表13.5.4による ルーフドレンの種類及び呼び																									
	<table border="1"> <tr> <td>種類</td> <td>呼び</td> <td>施工箇所</td> </tr> <tr> <td>※ろく屋根用たて形型</td> <td>※ねじ込み式</td> <td>・80 ・100 ・125 ・150</td> </tr> <tr> <td>・ろく屋根用機形型</td> <td>※ねじ込み式</td> <td>・80 ・100 ・125 ・150</td> </tr> <tr> <td>・バルコニー中継用</td> <td>・ねじ込み式</td> <td>・50 ・80 ・100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・差し込み式</td> <td>・50 ・75 ・100</td> </tr> <tr> <td>・バルコニー用</td> <td>・ねじ込み式</td> <td>・50 ・80 ・100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・差し込み式</td> <td>・50 ・75 ・100</td> </tr> </table>						種類	呼び	施工箇所	※ろく屋根用たて形型	※ねじ込み式	・80 ・100 ・125 ・150	・ろく屋根用機形型	※ねじ込み式	・80 ・100 ・125 ・150	・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100		・差し込み式	・50 ・75 ・100	・バルコニー用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100		・差し込み式
種類	呼び	施工箇所																								
※ろく屋根用たて形型	※ねじ込み式	・80 ・100 ・125 ・150																								
・ろく屋根用機形型	※ねじ込み式	・80 ・100 ・125 ・150																								
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100																								
	・差し込み式	・50 ・75 ・100																								
・バルコニー用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100																								
	・差し込み式	・50 ・75 ・100																								



2階平面図

防水工事
 $2.6 \times 2.4 + 2.6 \times 2.4 \times 0.15 = 6.99 \approx 7.0m$

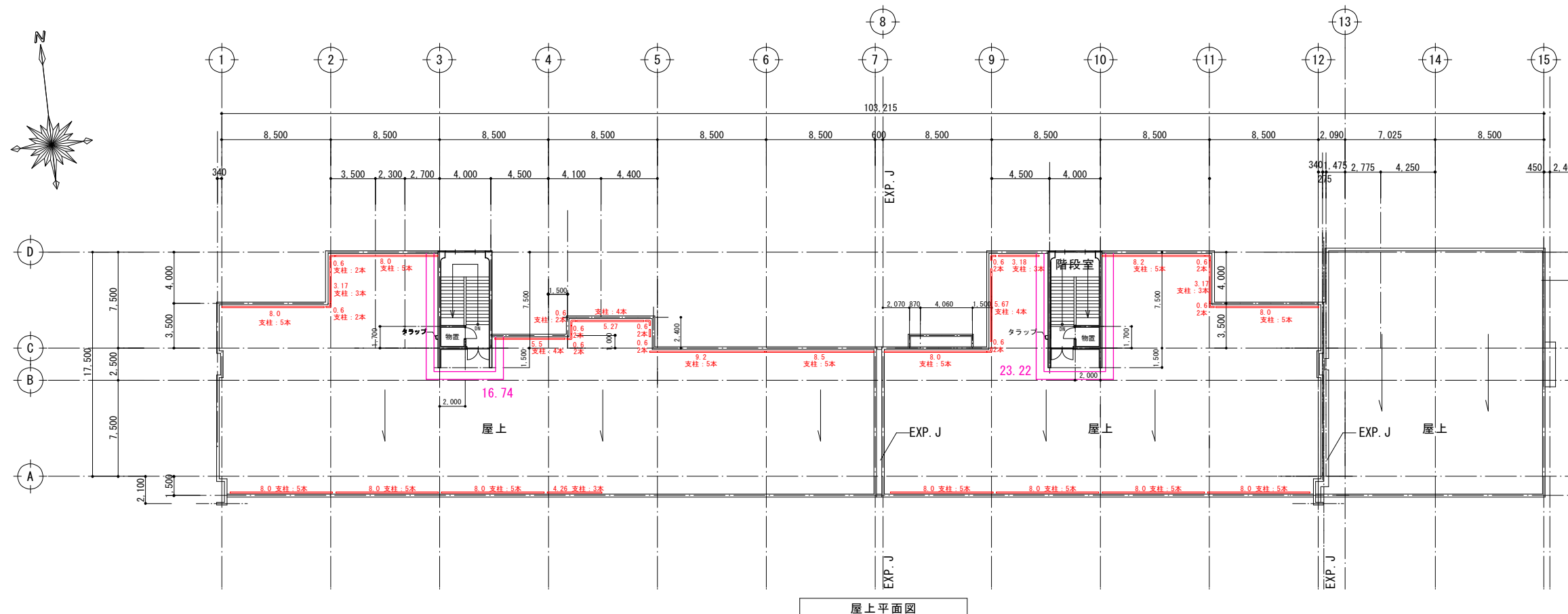


1階平面図

パラペット上部: $13.83 \times 1.83 = 25.58$
 立ち上がり1: $13.83 \times 0.34 = 4.70$
 立ち上がり2: $13.83 \times 0.18 = 2.48$
 立ち上がり3: $1.85 \times 0.34 \times 2 = 1.25$
 $(25.58 + 4.70 + 2.48 + 1.25) \times 2 \text{箇所} = 68.06m^2$
 合計: 408.74㎡

脚立足場
 バルコニー: $1.17 \times 102 = 119.34m^2$
 $119.34 \times 3 \text{箇所} = 358.02m^2$
 西側階段室: 1階 $3.78 \times 7.0 = 26.46m^2$
 B1階 $1.8 \times 3.5 = 6.3m^2$
 合計: 390.78㎡

東側渡り廊下
 仮設屋根: $2.1 \times 7.5 = 15.75m^2$
 撤去復旧: $3.3 \times 7.5 = 24.75m^2$



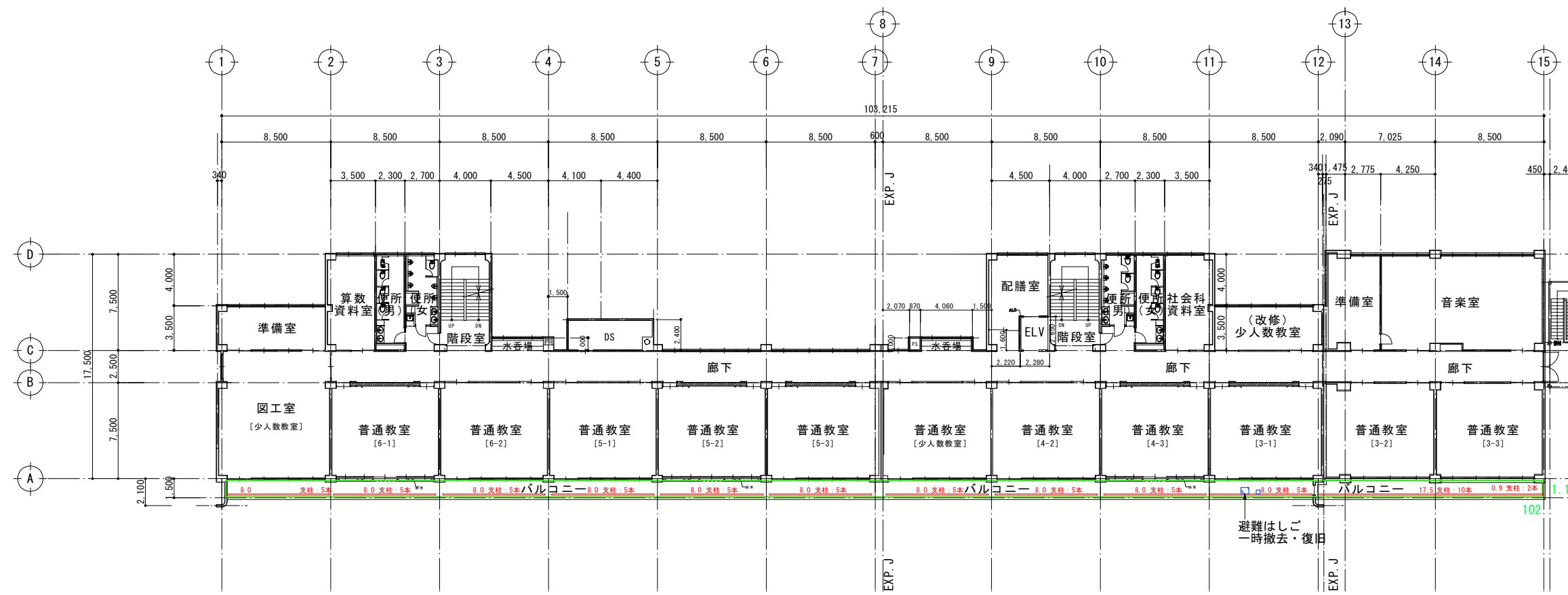
手摺長さ : 8.0m × 11
 + 0.6m × 2
 + 3.17m × 2
 + 5.5m
 + 5.27m
 + 9.2m
 + 8.5m
 + 5.67m
 + 4.26m
 + 0.6(L字)m × 9
 = 147.54m

手摺面積 : 147.54m × 0.15m = 22.13㎡

手摺支柱長さ : 1本 0.48m
 本数 :
 5+2+3+2+5+
 4+2+2+3+2+2+5+5+
 5+2+4+2+3+5+2+3+2+5+
 5+5+5+3+5+5+5+
 = 115本
 0.48m × 115本 = 55.2m
 手摺支柱面積 : 55.2m × 0.07 = 3.86㎡

パラペット内側モルタル
 高さ0.47m : 0.47 × 83.98m × 0.03m = 1.18
 高さ0.85m : 0.85 × 16.08m × 0.03m = 0.41
 高さ0.45m : 0.45 × 98.06m × 0.03m = 1.30
 合計 : 1.18 + 0.41 + 1.30 = 2.89㎡

屋上平面図

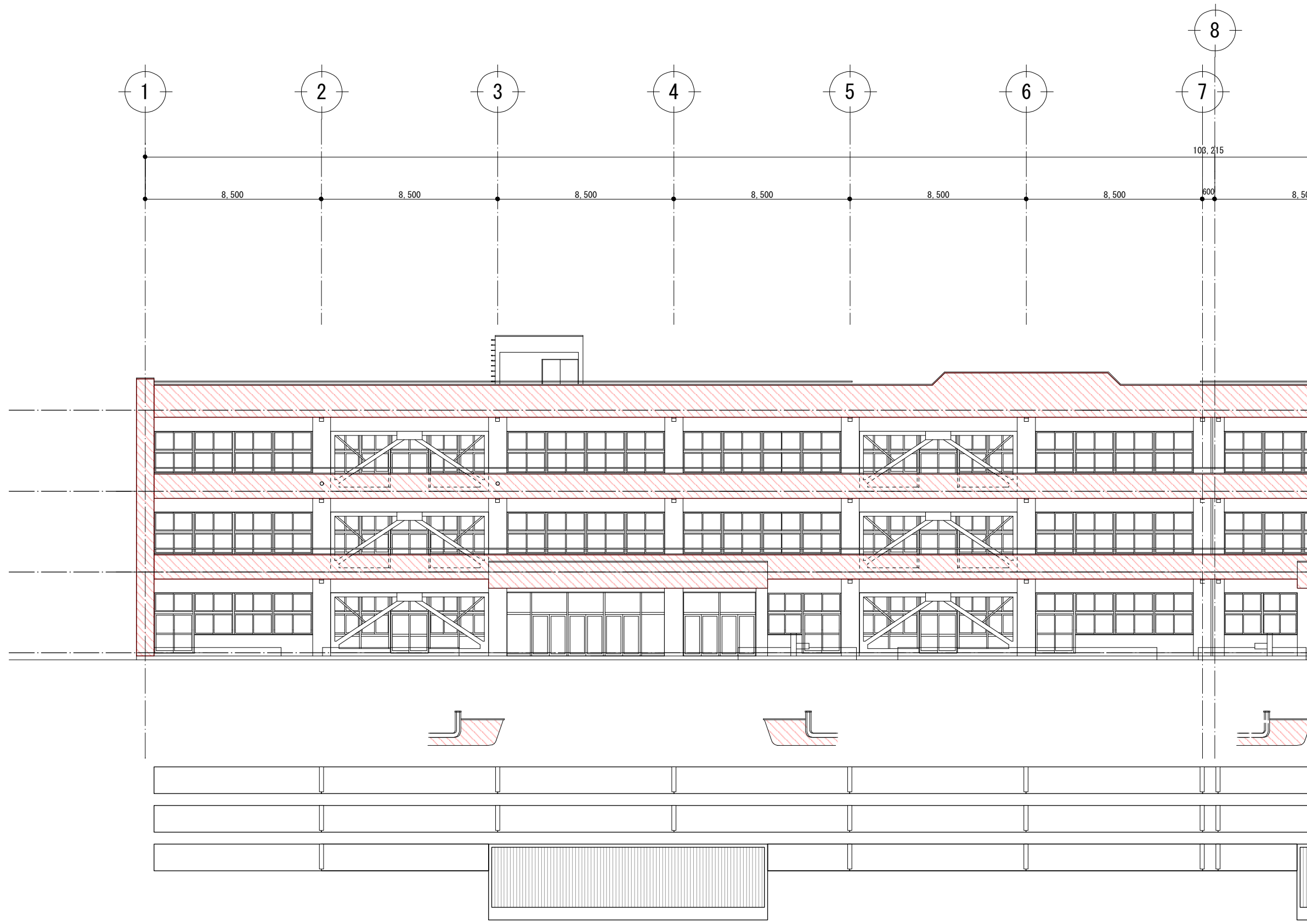


手摺長さ :
 8.0m × 10本 = 80m
 17.5m × 1本 = 17.5m
 0.9m
 80 + 17.5 + 0.9 = 98.4m

手摺支柱長さ : 1本 0.48m
 本数 : 5 × 10 + 10 + 2
 = 62本
 0.48 × 62 = 29.76m

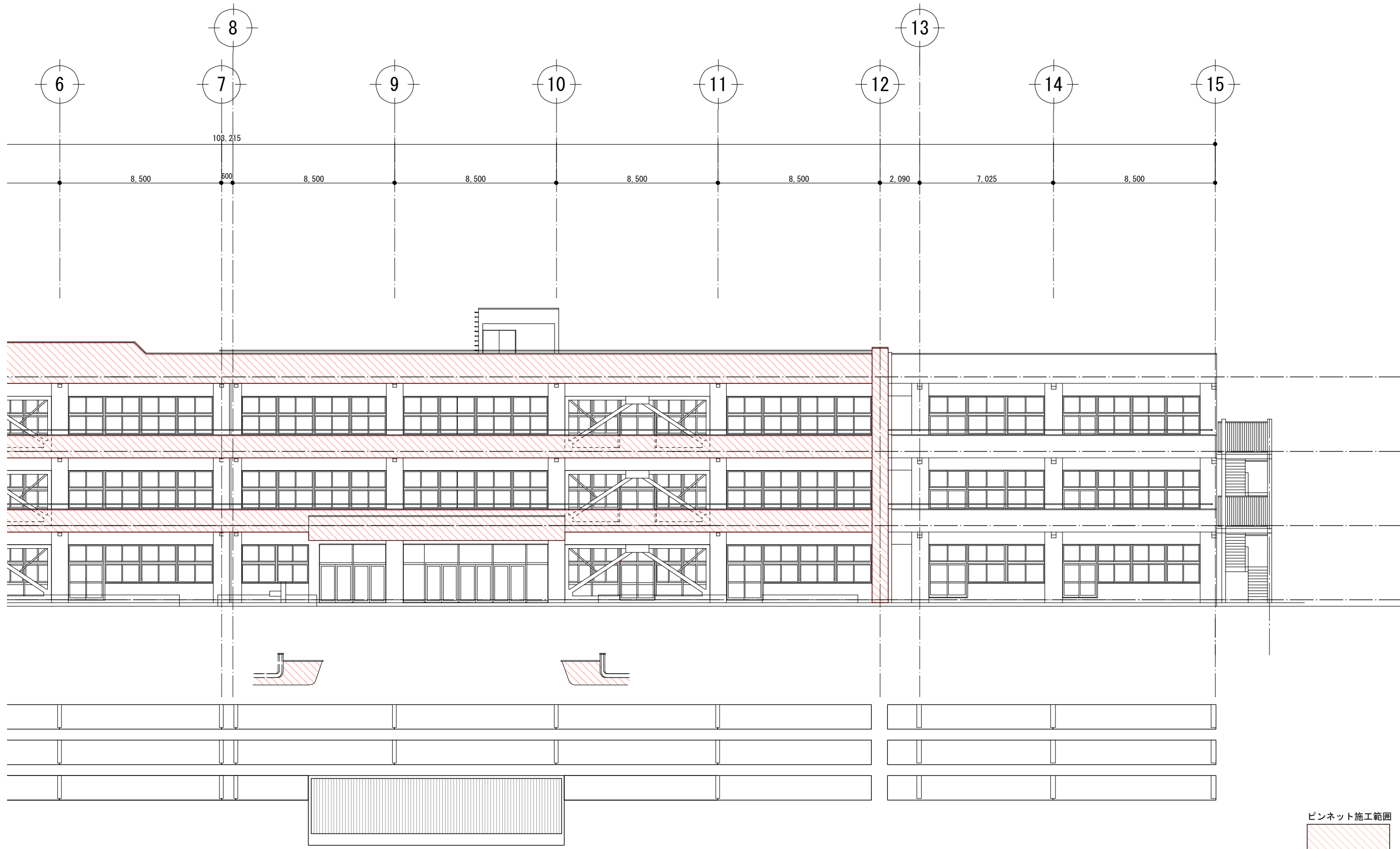
2階・3階合計
 手摺長さ : 98.4 × 2 = 196.8m
 手摺支柱長さ : 28.8 × 2 = 57.6m
 手摺面積 : 196.8m × 0.15 = 29.52㎡
 手摺支柱面積 : 57.6m × 0.07 = 4.03㎡

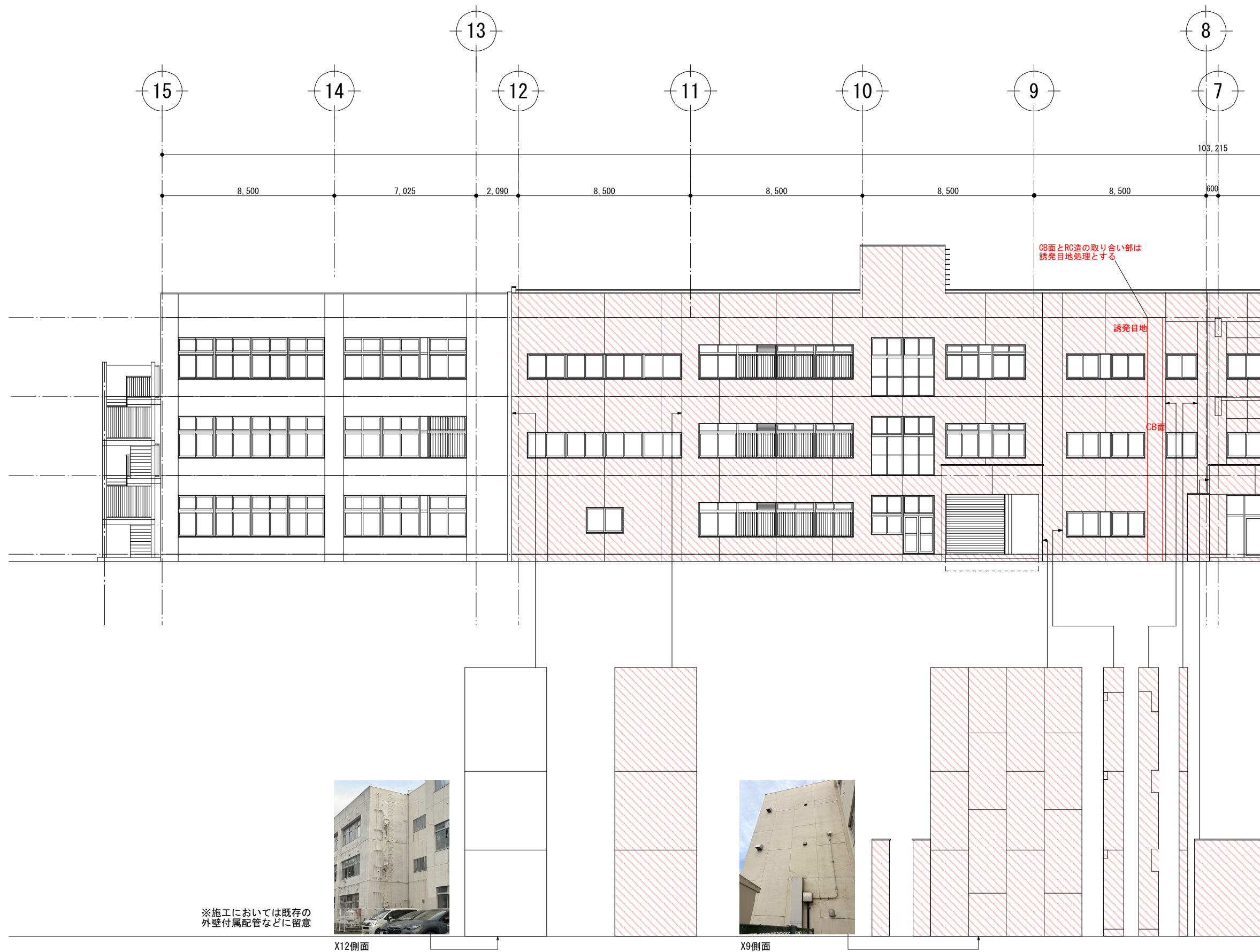
3階平面図



ピンネット施工範囲







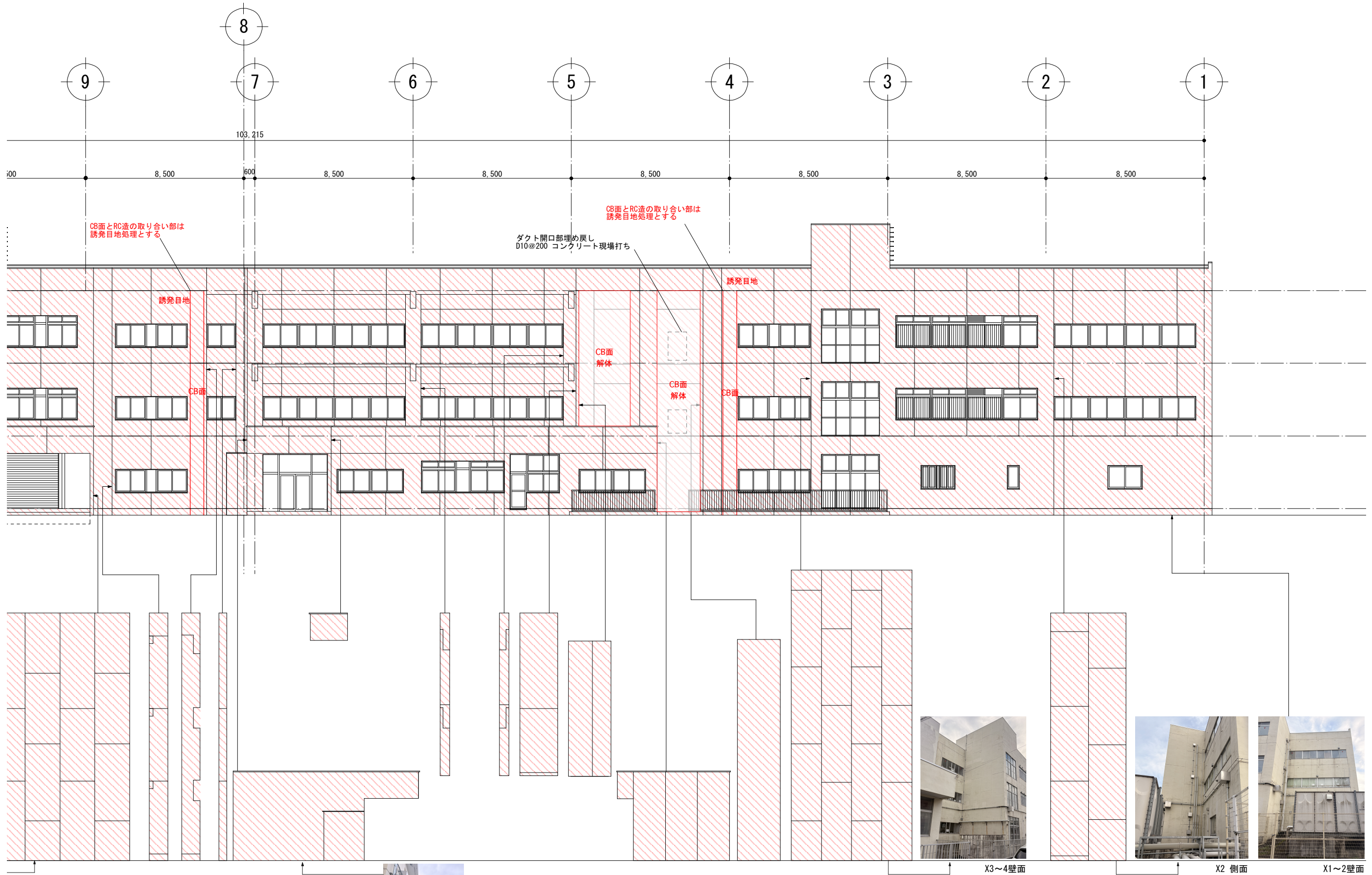
※施工においては既存の外壁付属配管などに留意

X12側面

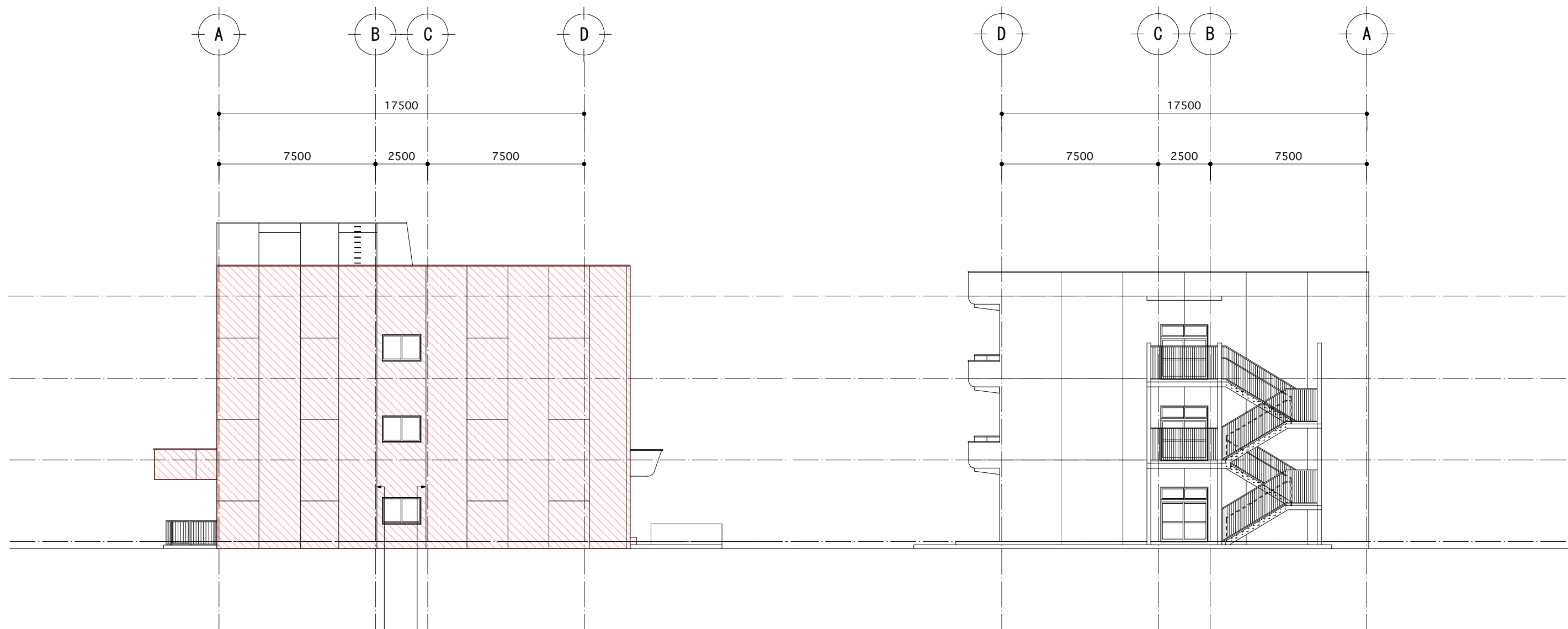
X9側面

ピンネット施工範囲





ピンネット施工範囲



西側立面図

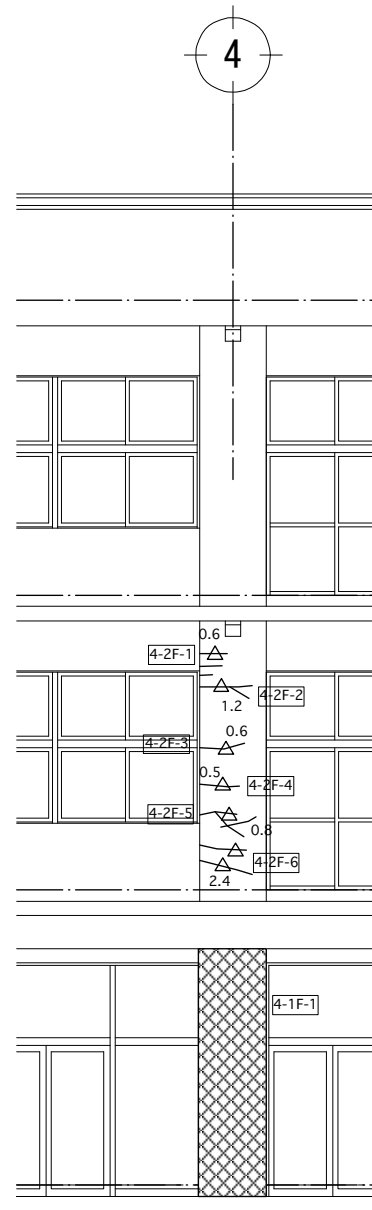
東側立面図



壁面下部

ピンネット施工範囲



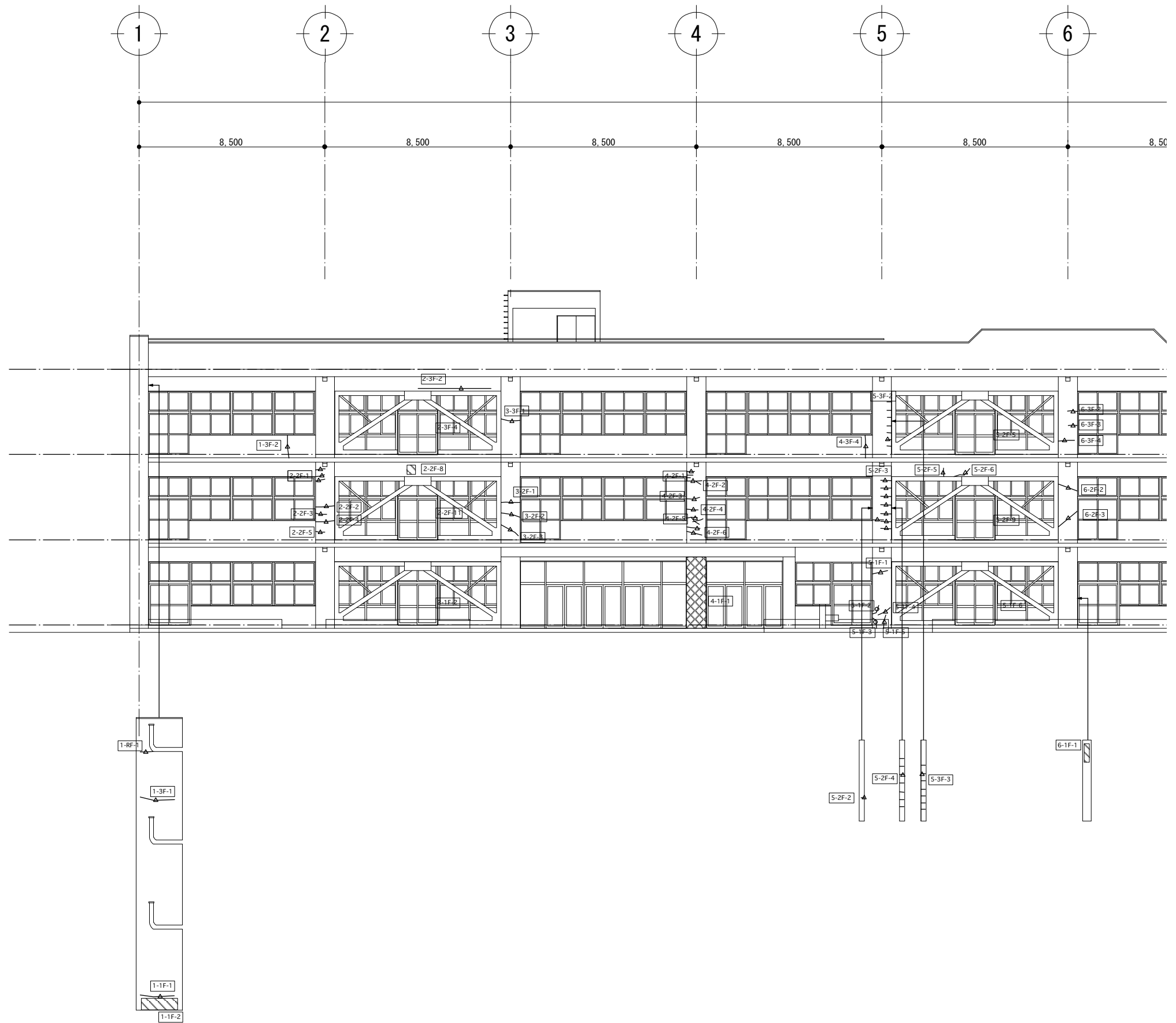


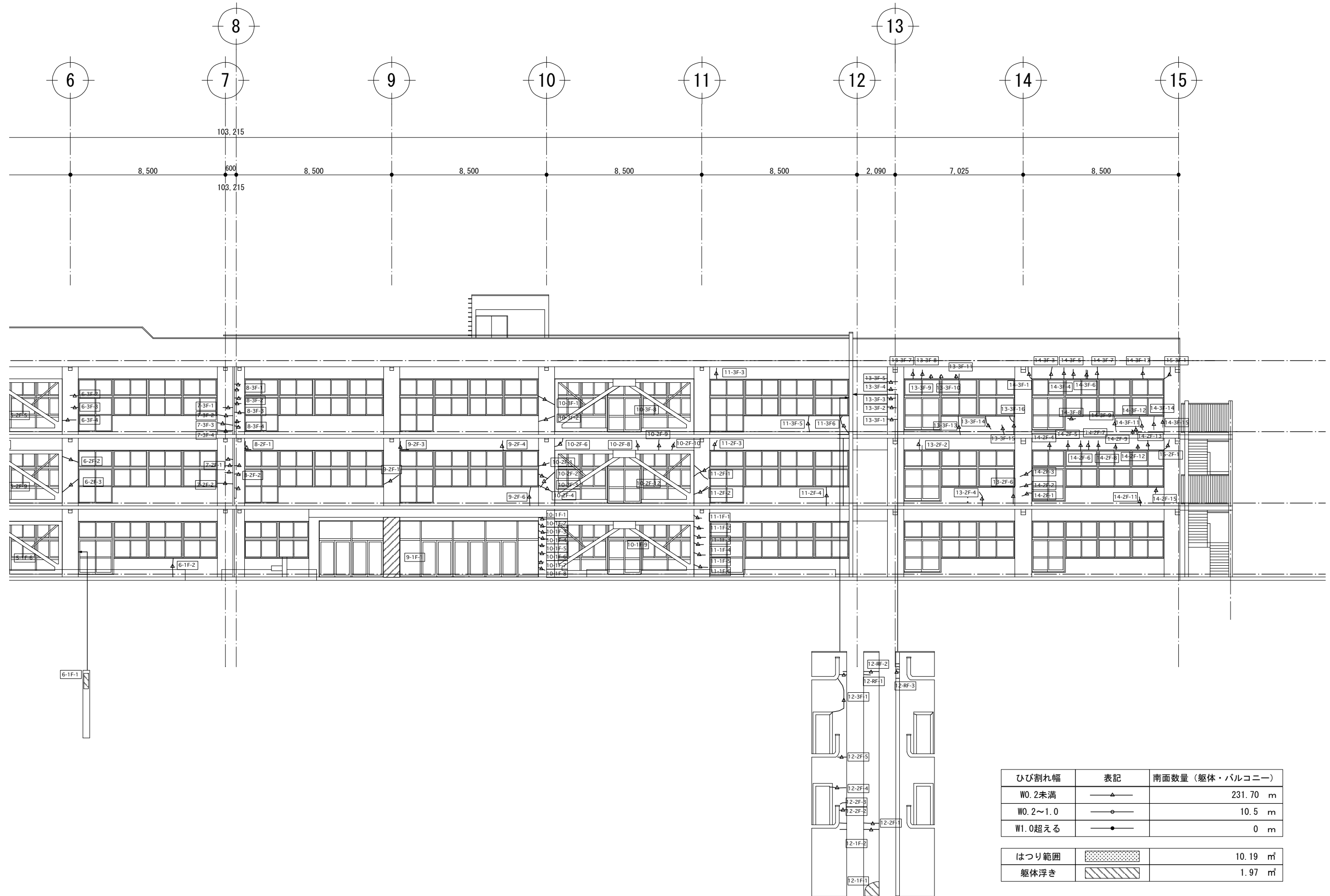
凡例

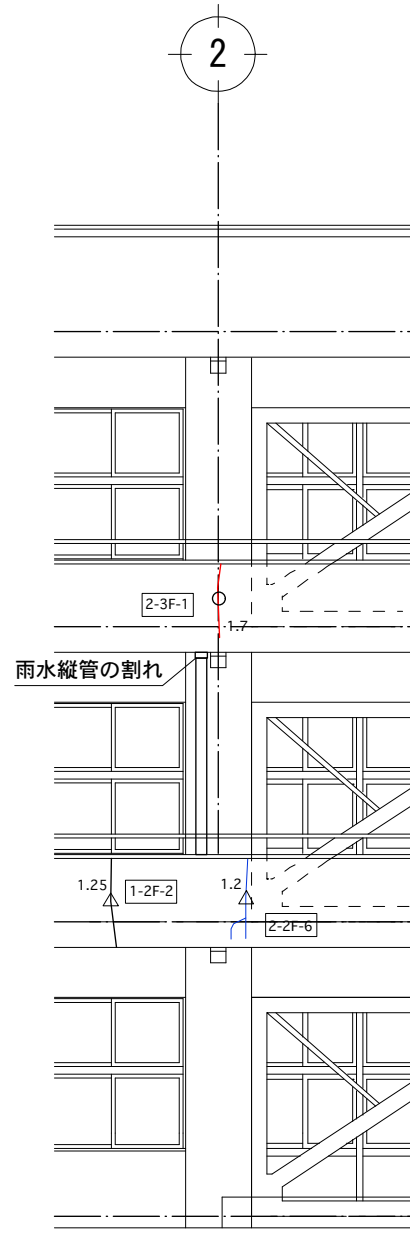
ひび割れ幅について

W0.2未満	—▲—
W0.2~1.0	—○—
W1.0を超える	—●—

はつり範囲	
躯体浮き	
塗装	







凡例

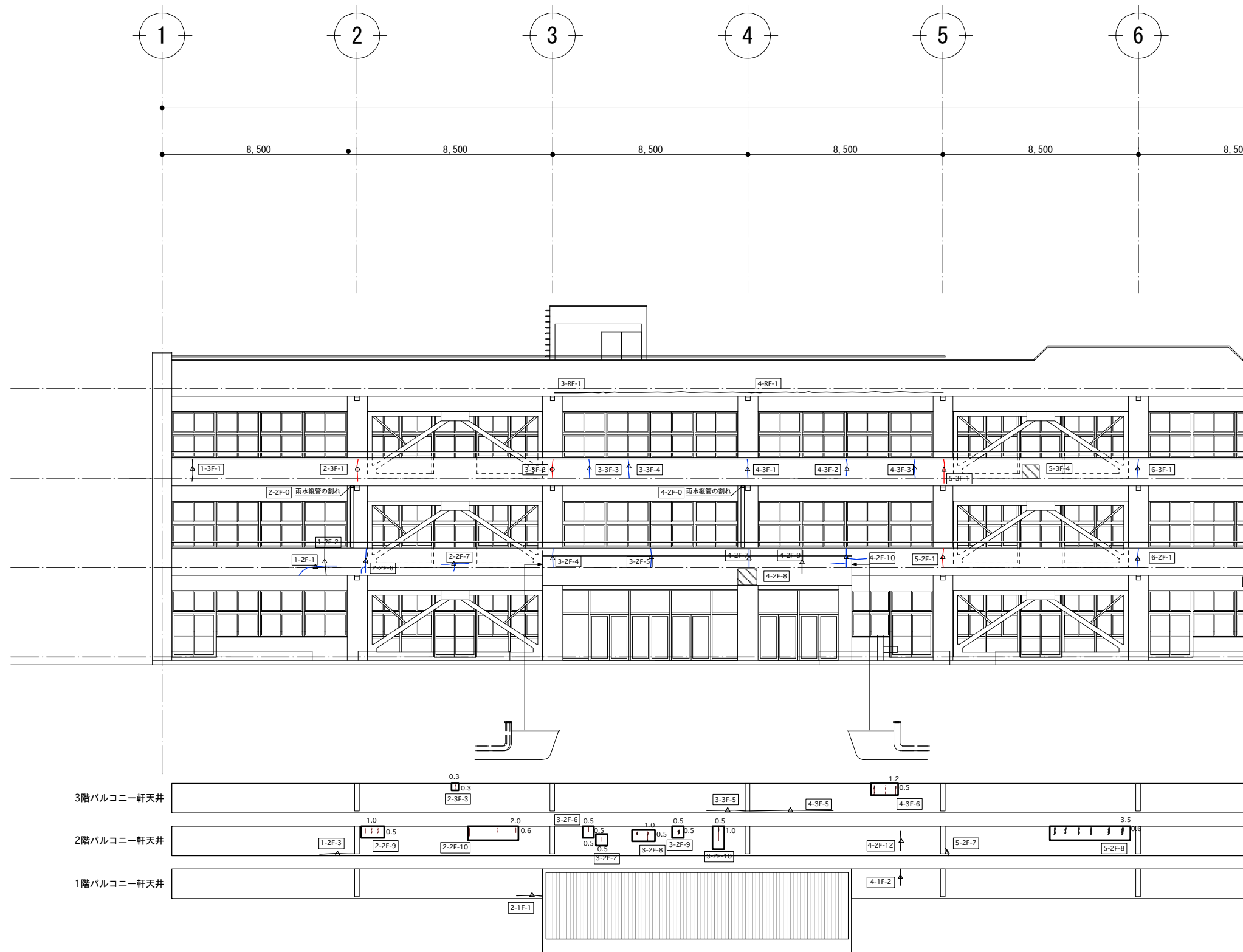
バルコニー立上クラックについて

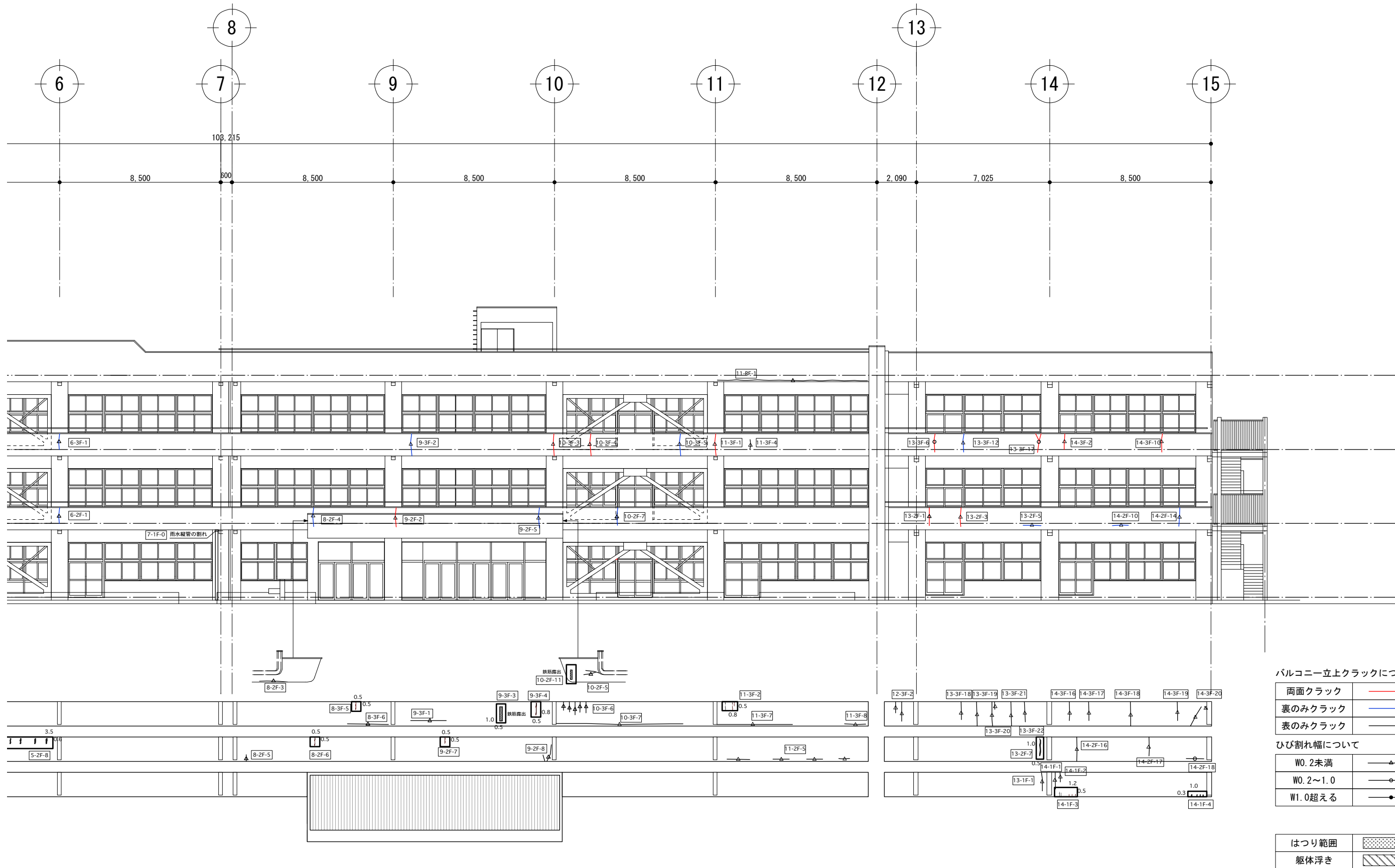
両面クラック	—
裏のみクラック	—
表のみクラック	—

ひび割れ幅について

W0.2未満	—▲—
W0.2~1.0	—○—
W1.0を超える	—●—

はつり範囲	▨
躯体浮き	▩





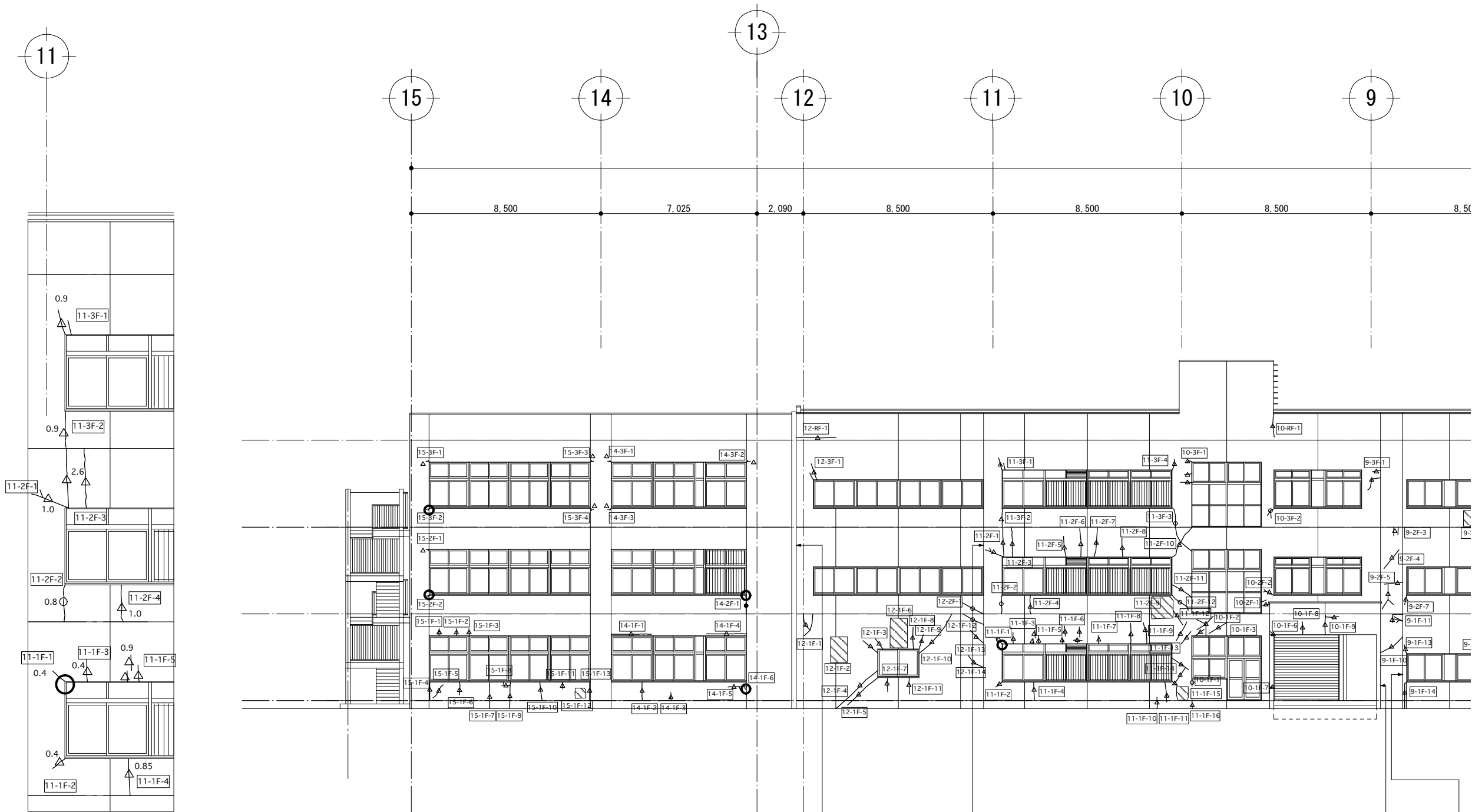
バルコニー立上クランクについて

両面クラック	—
裏のみクラック	—
表のみクラック	—

ひび割れ幅について

W0.2未満	—
W0.2~1.0	—
W1.0を超える	—

はつり範囲	▨
躯体浮き	▨

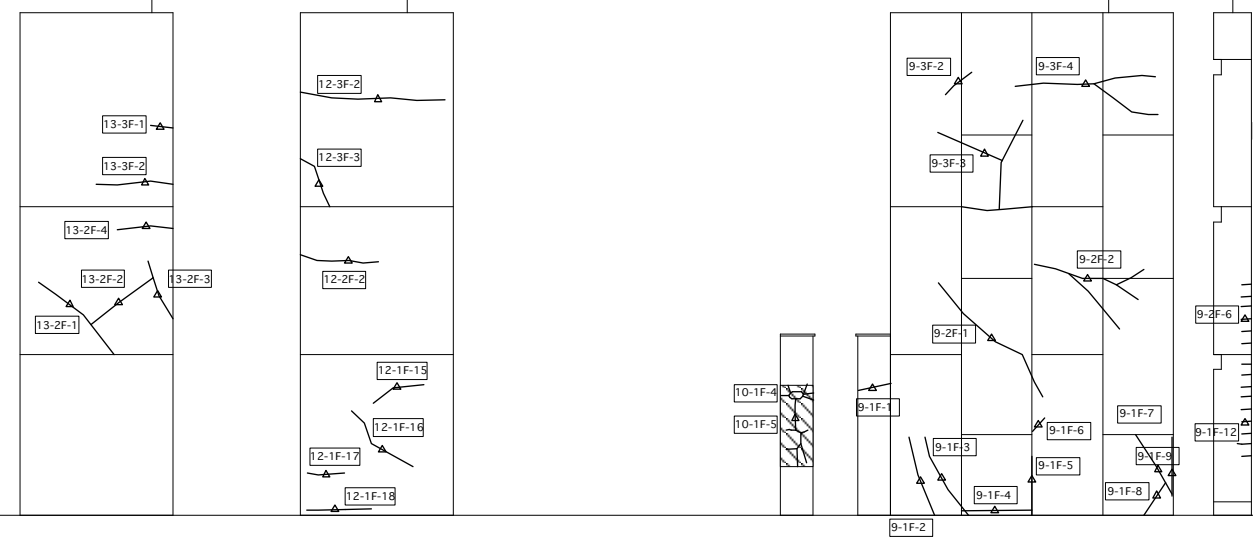


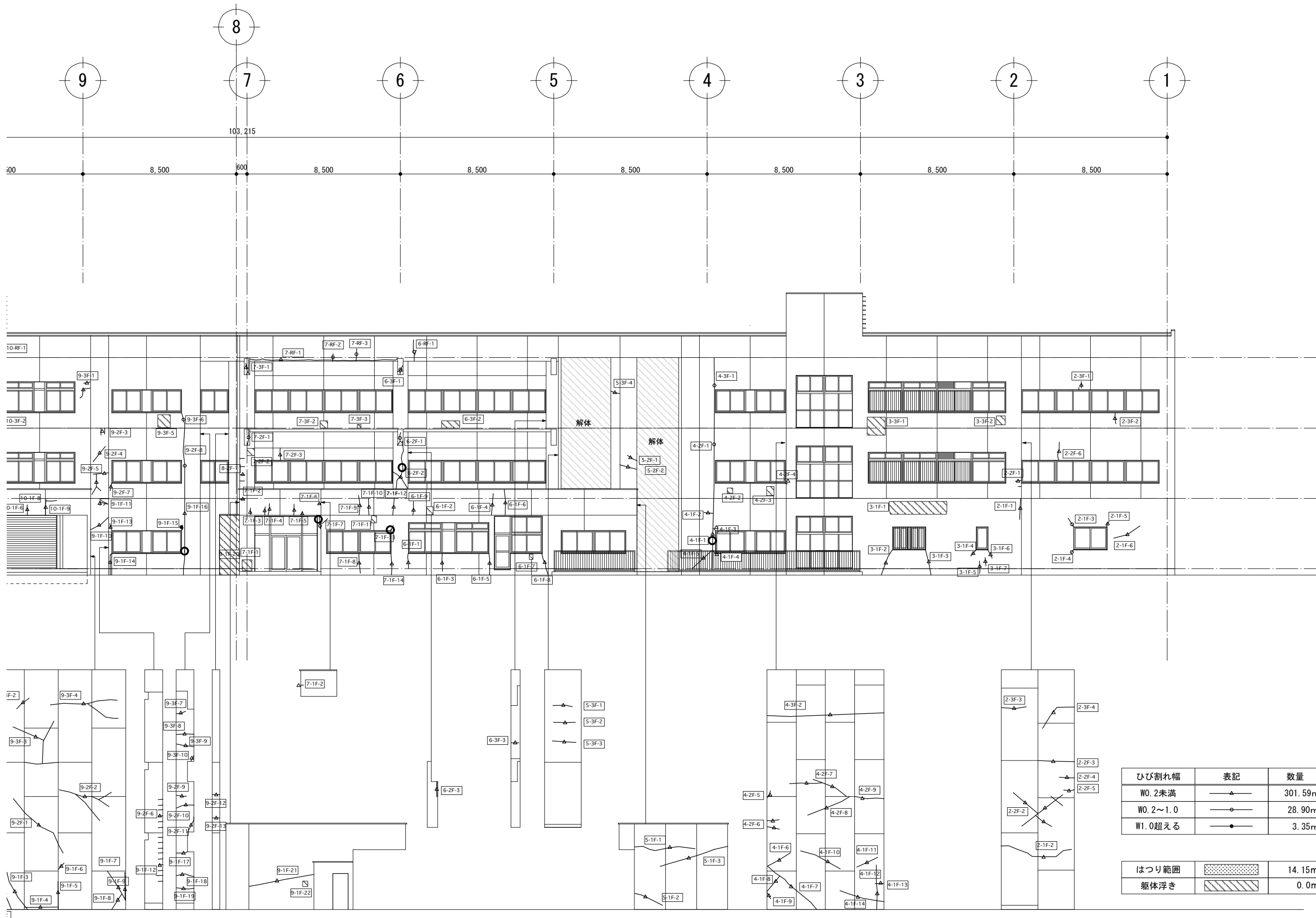
凡例

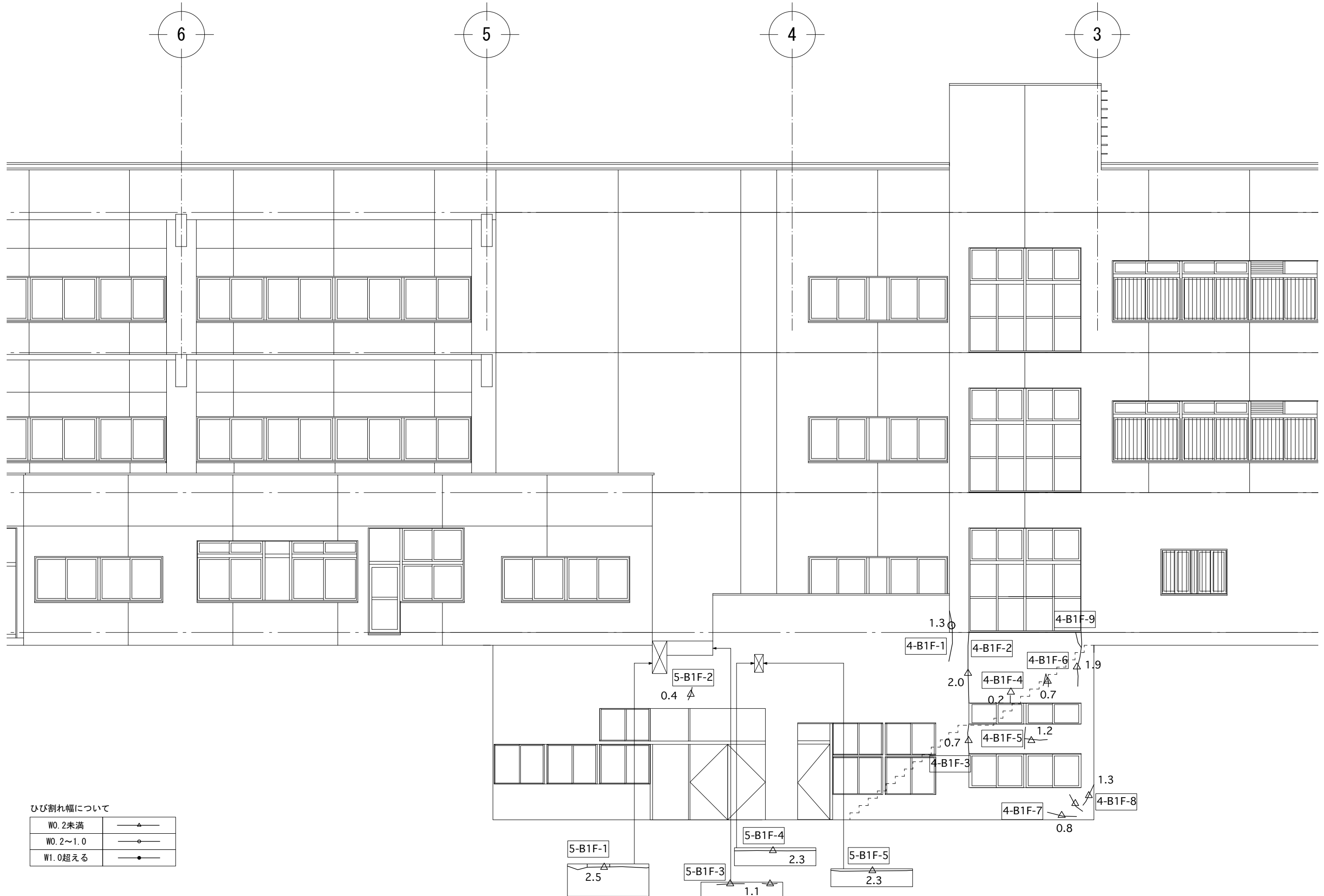
ひび割れ幅について

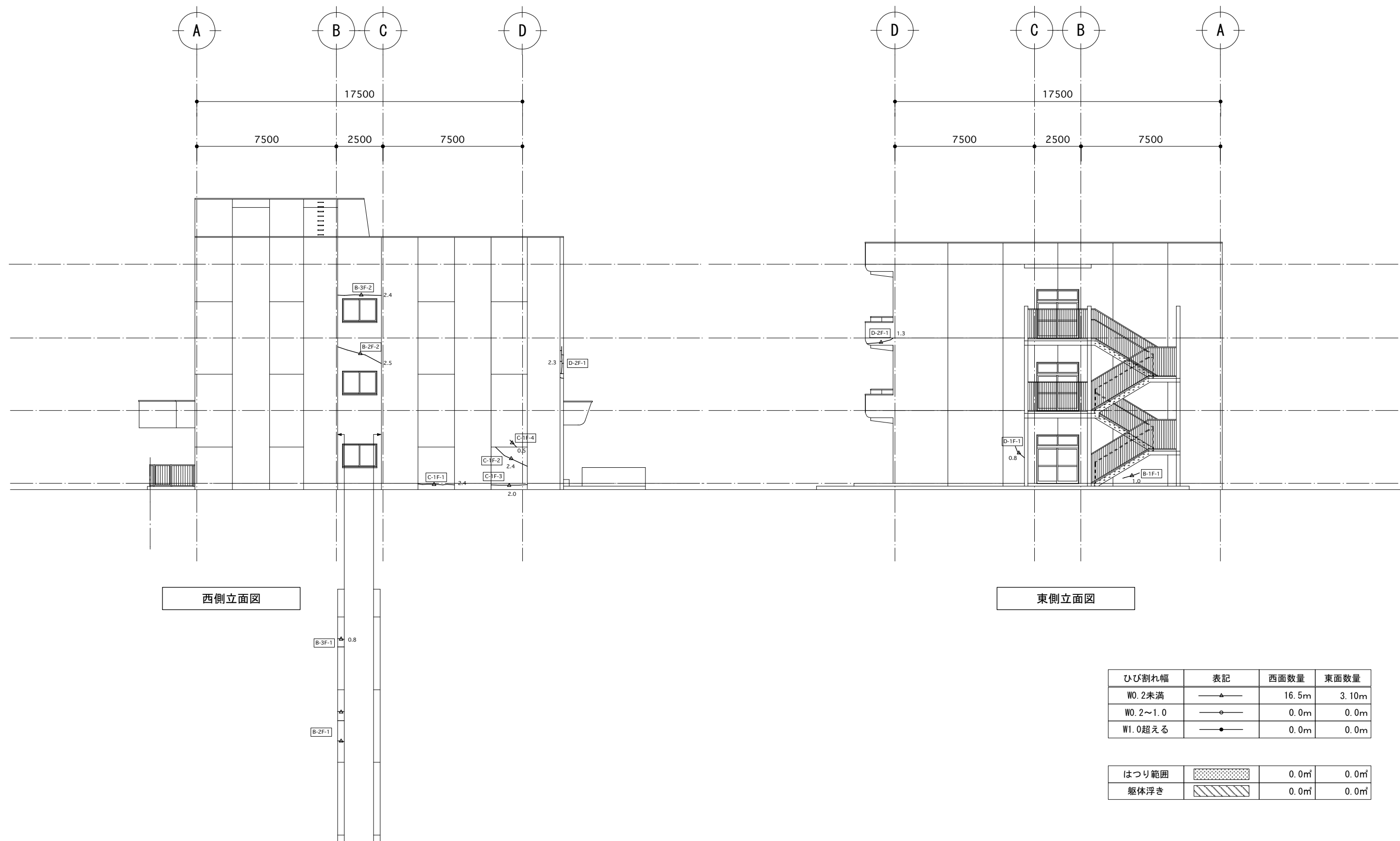
W0.2未満	—▲—
W0.2~1.0	—○—
W1.0を超える	—●—

はつり範囲	▨
躯体浮き	▩







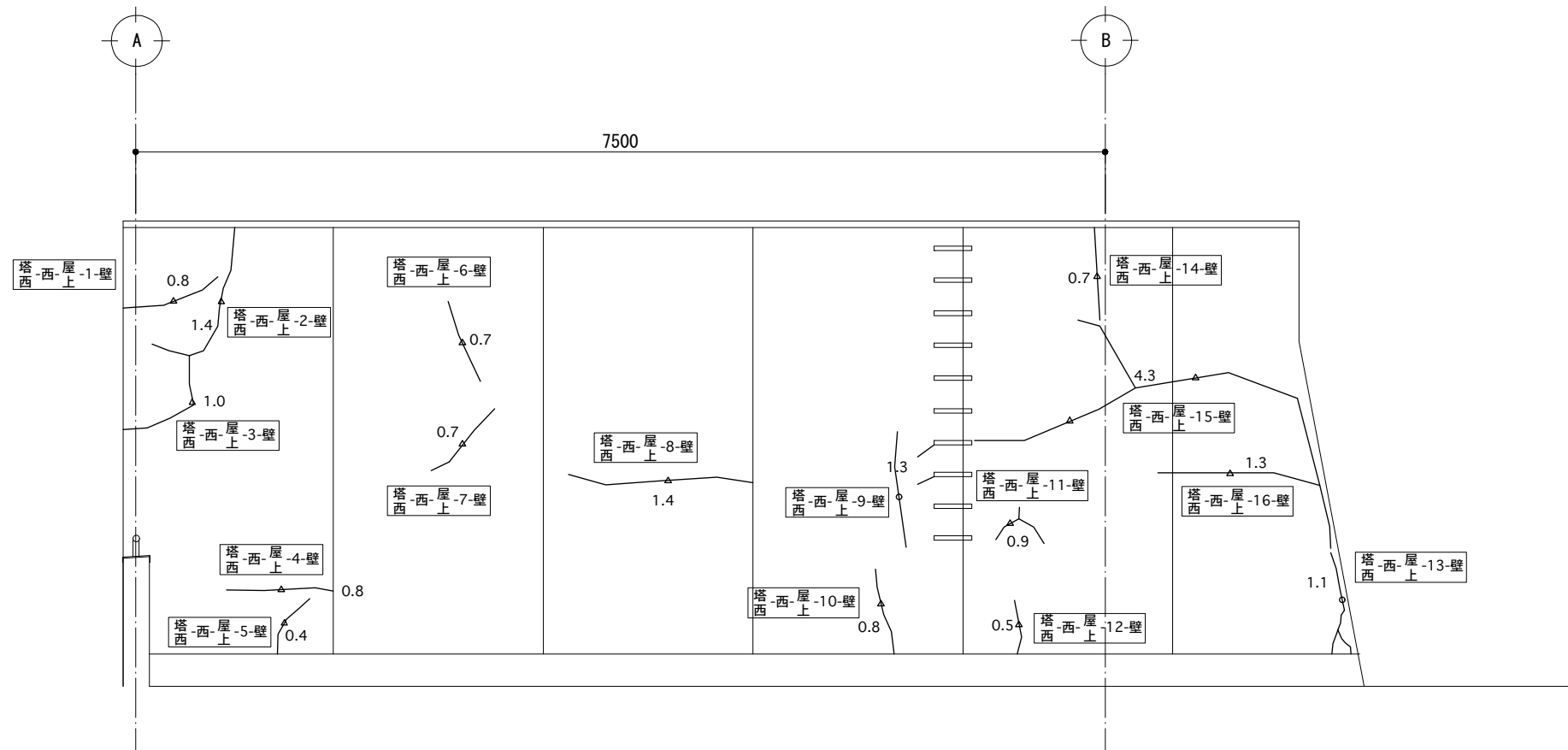


西側立面図

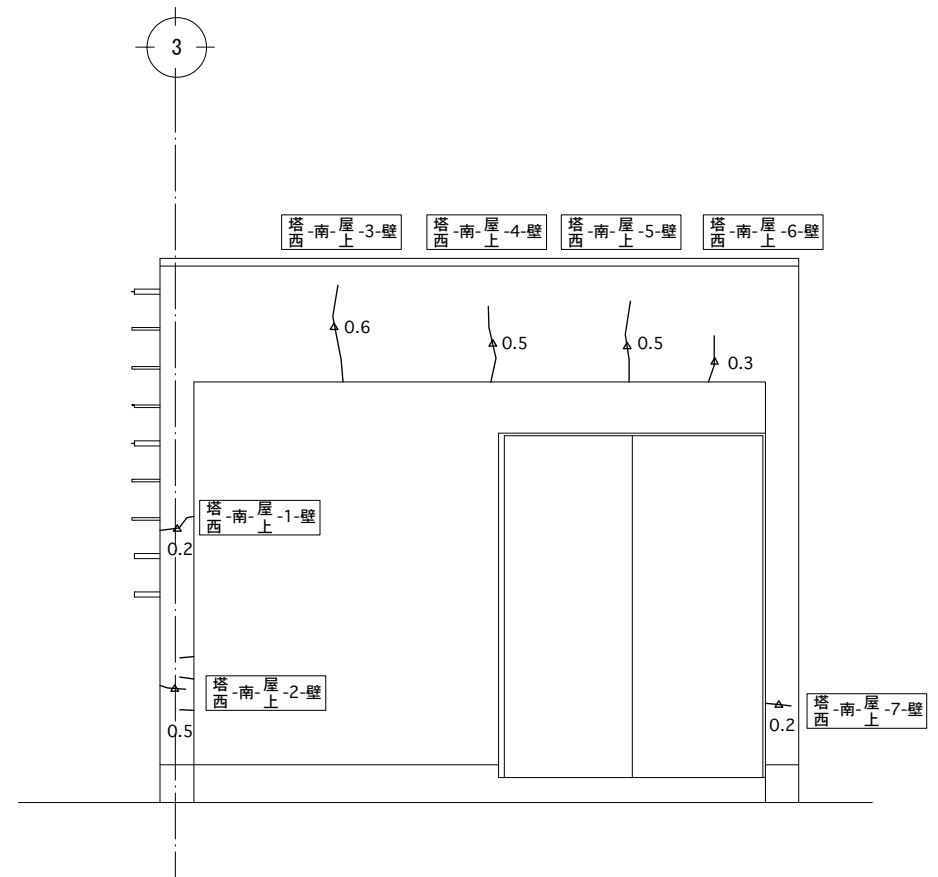
東側立面図

ひび割れ幅	表記	西面数量	東面数量
W0.2未満	—▲—	16.5m	3.10m
W0.2~1.0	—○—	0.0m	0.0m
W1.0を超える	—●—	0.0m	0.0m

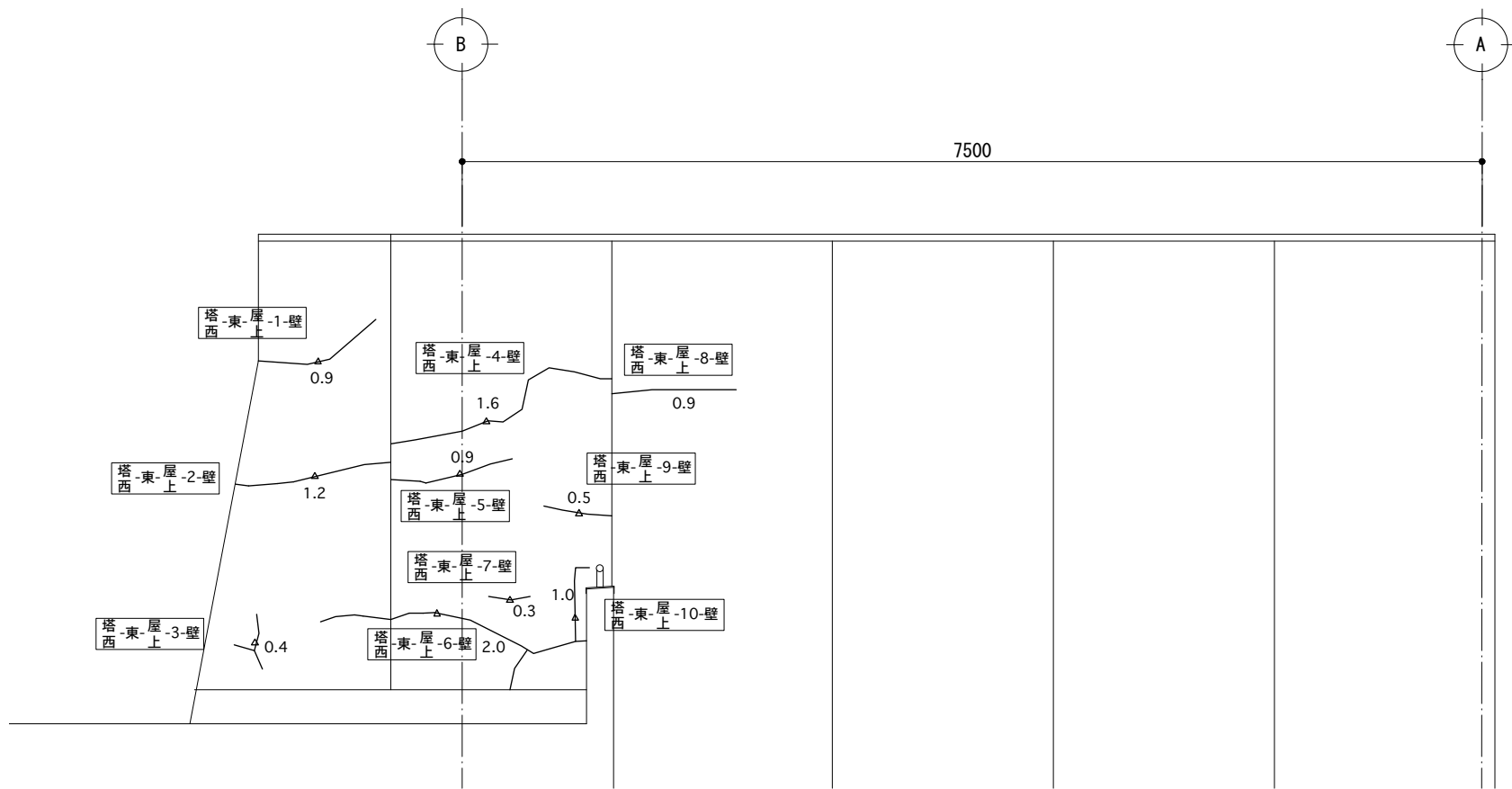
はつり範囲		0.0㎡	0.0㎡
躯体浮き		0.0㎡	0.0㎡



西側立面図

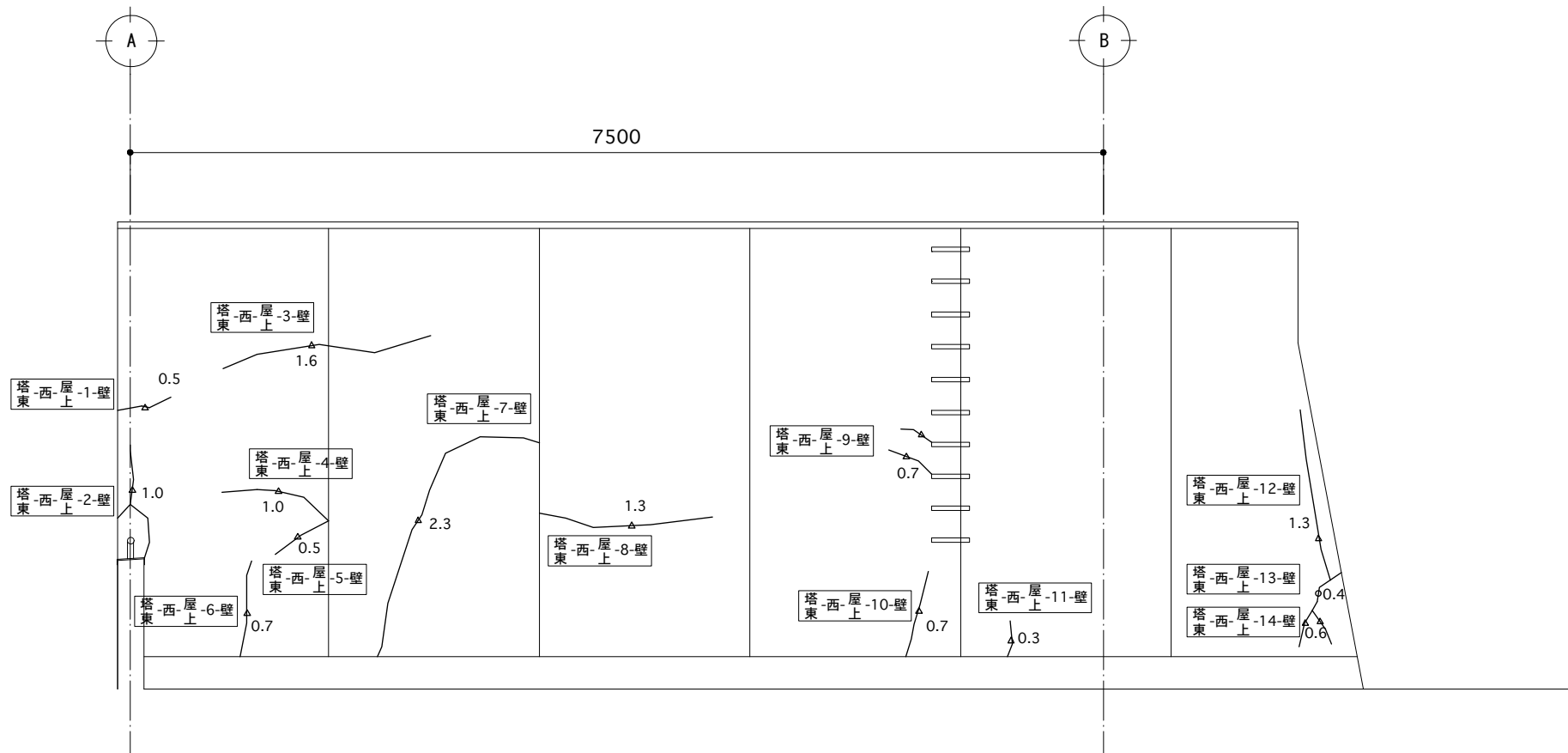


南側立面図

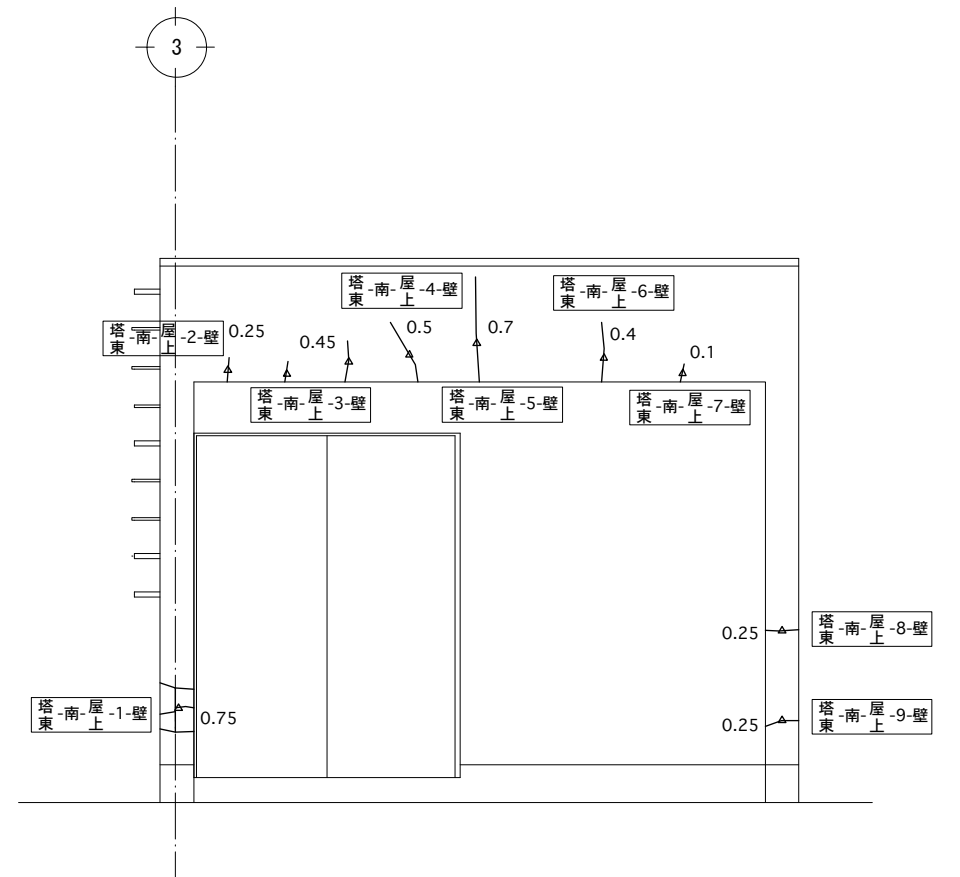


東側立面図

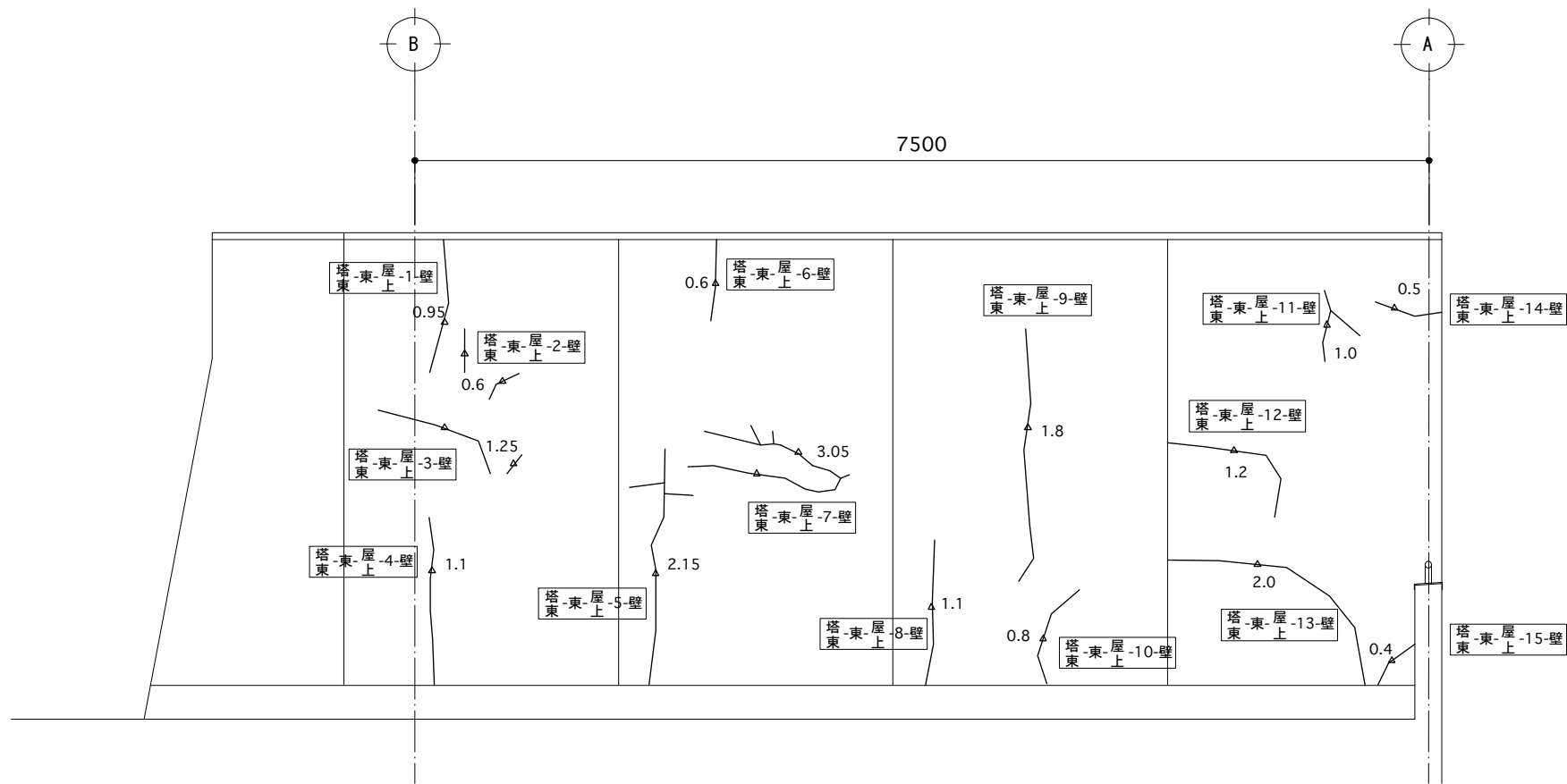
ひび割れ幅	表記	数量
W0.2未満	—▲—	28.20m
W0.2~1.0	—○—	2.40m
W1.0を超える	—●—	0.0m



西側立面図

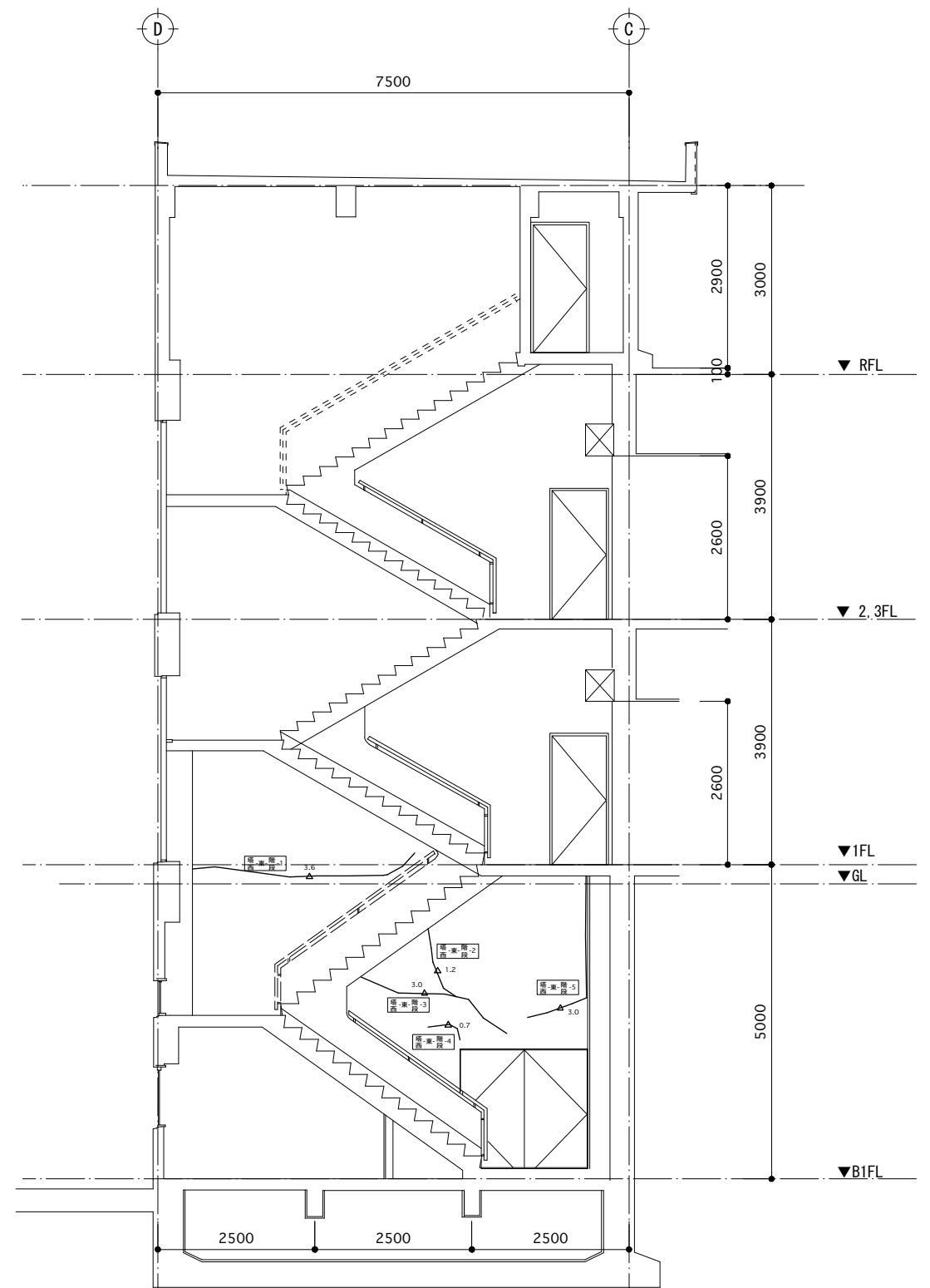
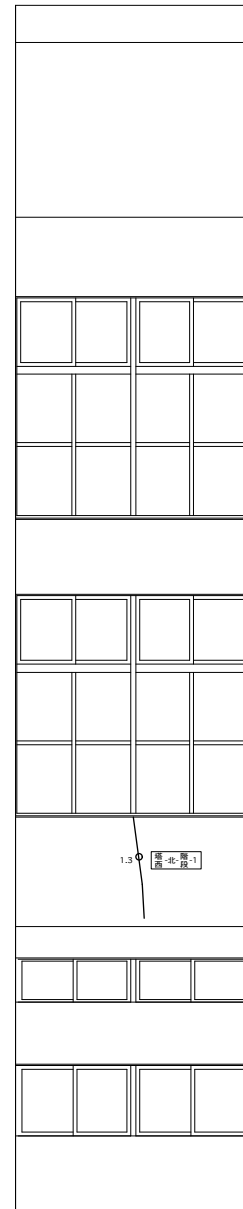
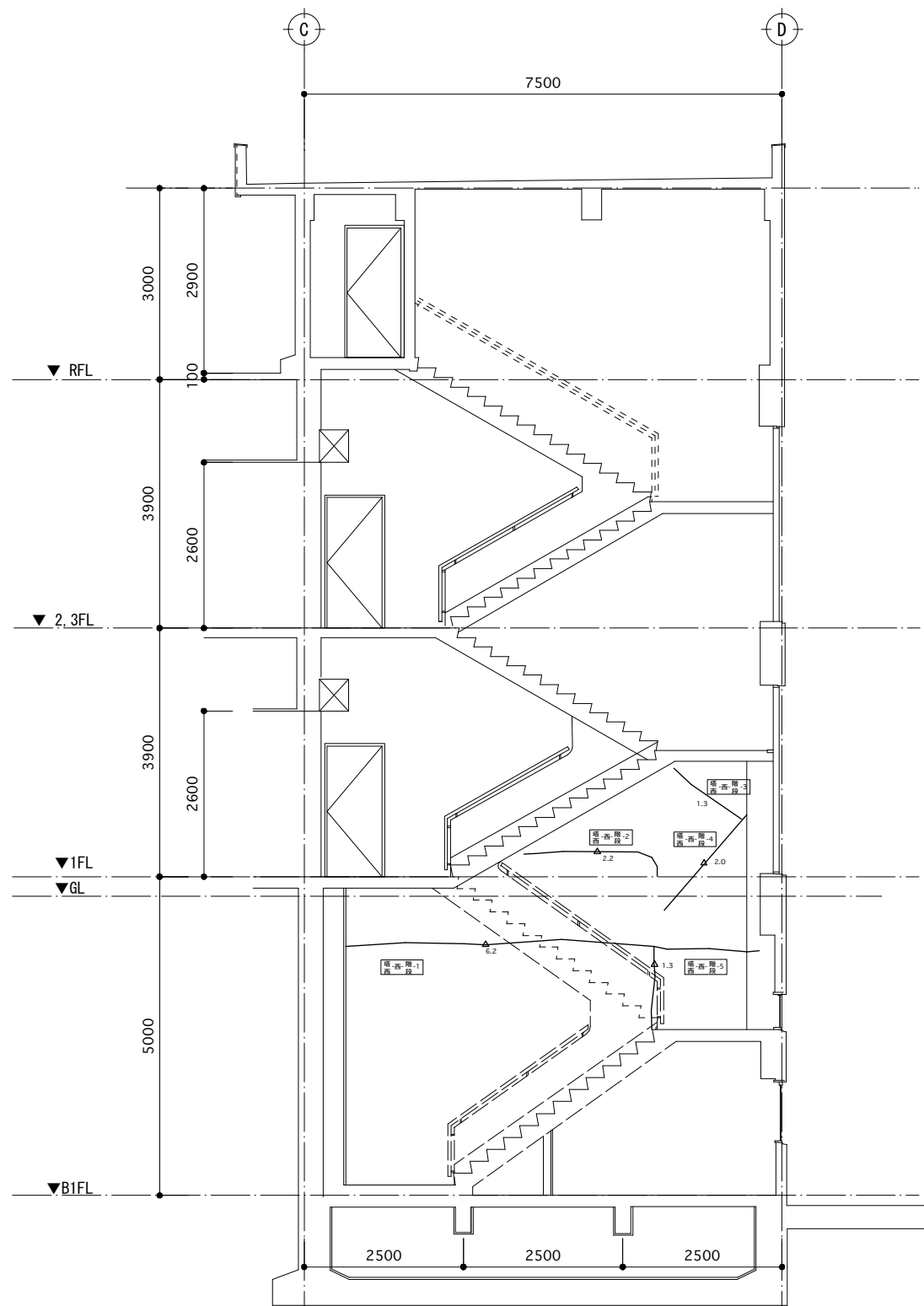


南側立面図

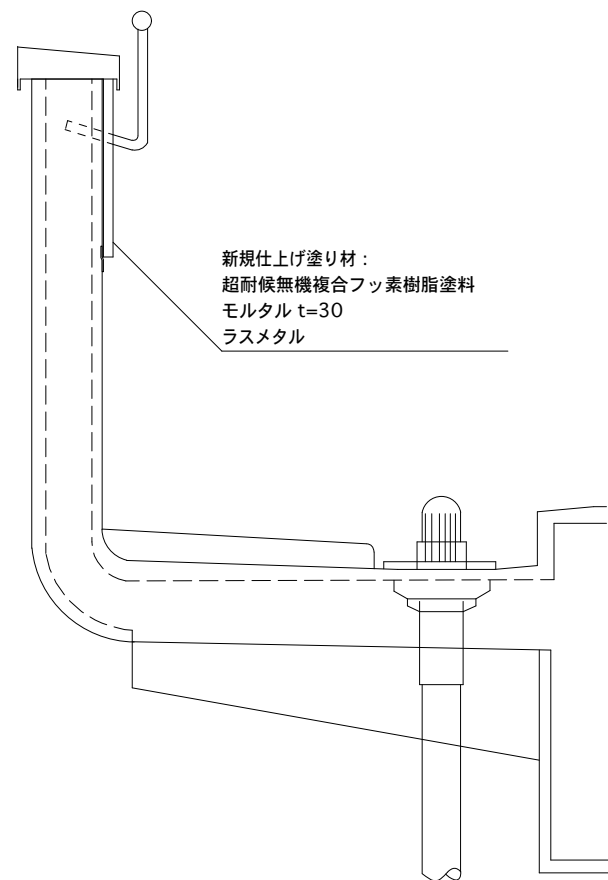


東側立面図

ひび割れ幅	表記	数量
W0.2未満	—▲—	34.65m
W0.2~1.0	—○—	0.40m
W1.0を超える	—●—	0.0m



ひび割れ幅	記号	数量
W0.2未満	—▲—	24.50㎡
W0.2~1.0	—○—	1.30㎡
W1.0を超える	—●—	0㎡



新規仕上げ塗材：
超耐候無機複合フッ素樹脂塗料
モルタル t=30
ラスメタル

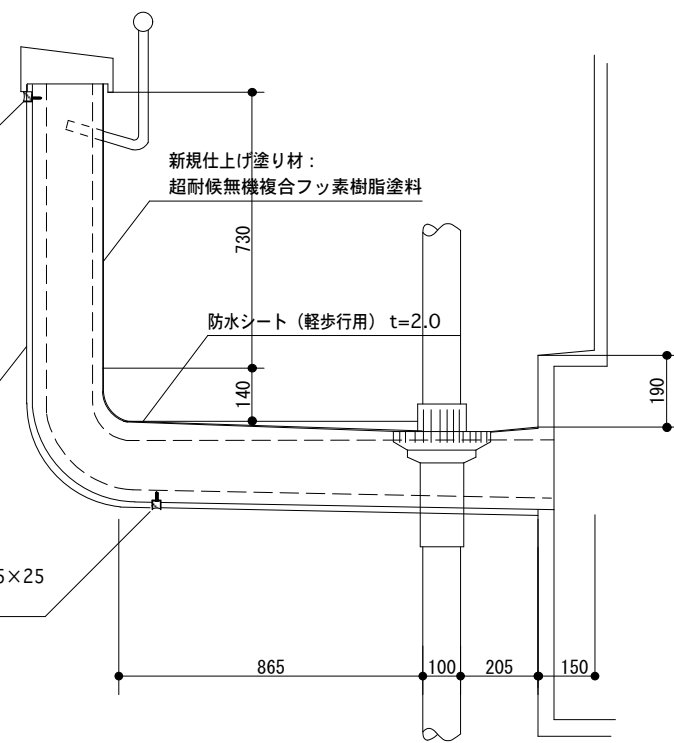
バラベツ内側モルタル仕上げ詳細図

外壁：水切りの設置
不等辺アングル Rなし 2×25×20
ビス留め

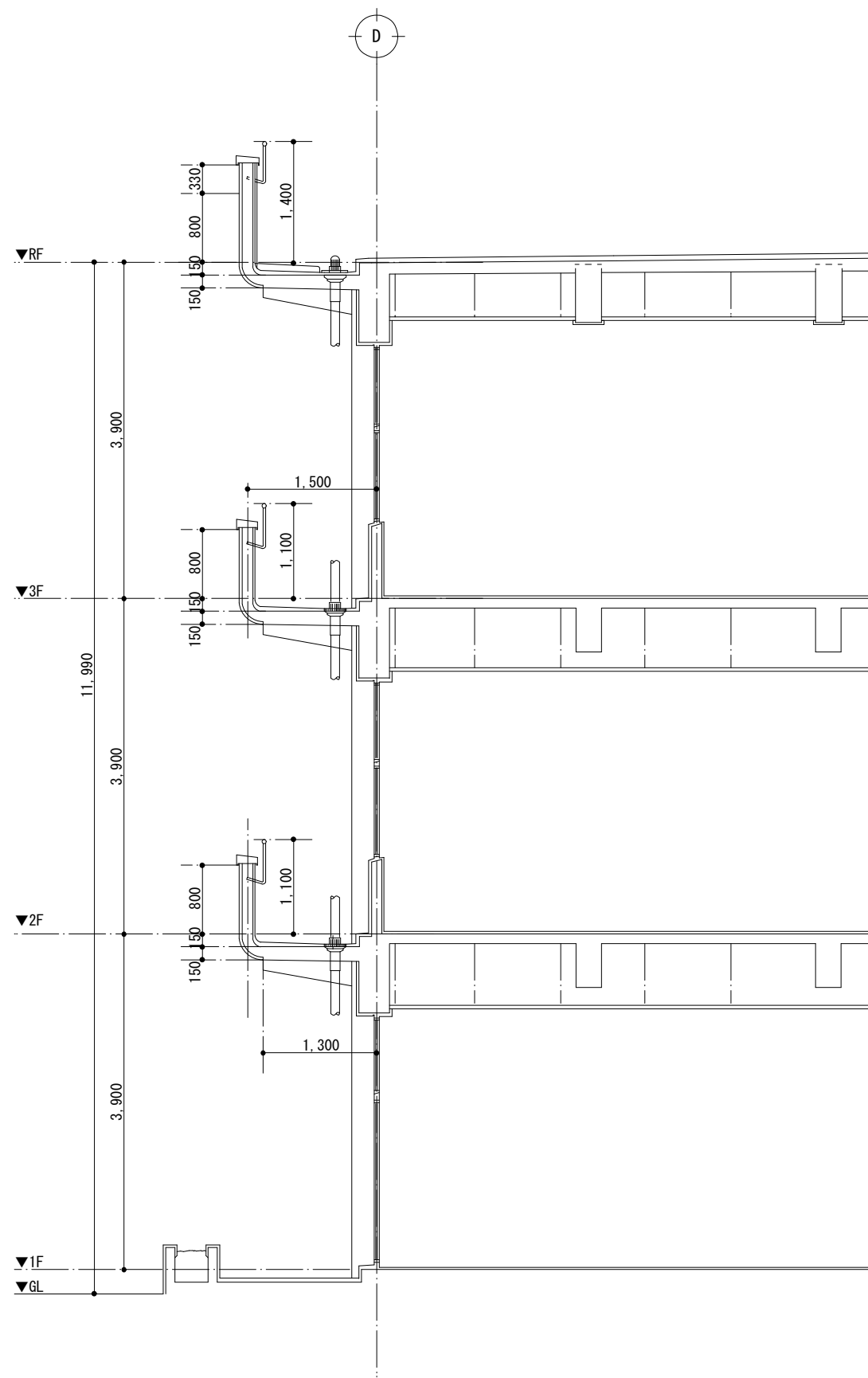
外壁：クラック補修及び浮き補修のうえピンネット工法施工

新規仕上げ塗材：超耐候無機複合フッ素樹脂塗料
中塗り（二回目）ボンドカーボンピンネット中塗り 1材
ボンドCPアンカーピン AL670
ボンドVMネット
中塗り（一回目）ボンドカーボンピンネット中塗り 1材
プライマー ボンドエフレックスF1

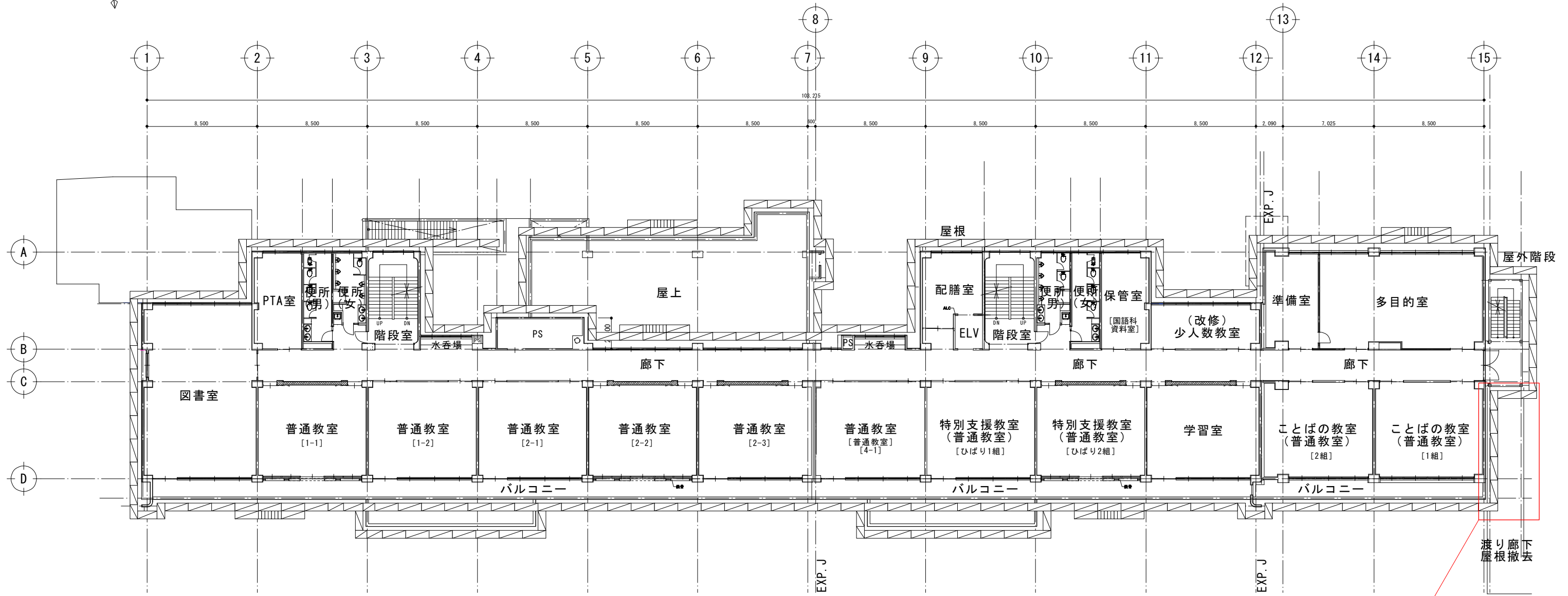
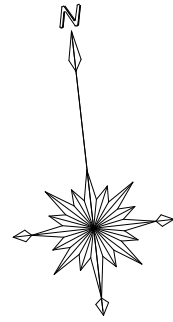
軒天井：水切りの設置
チャンネル Rなし 2×25×25
ビス留め



2F、3Fバルコニー部分ピンネット工法詳細図

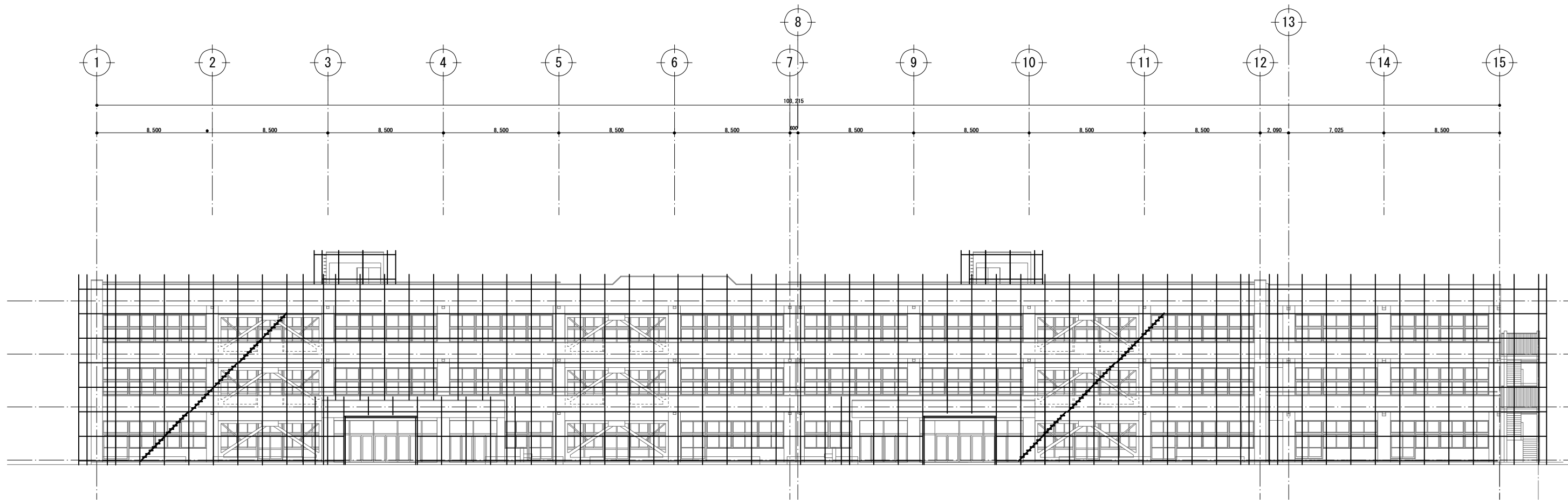


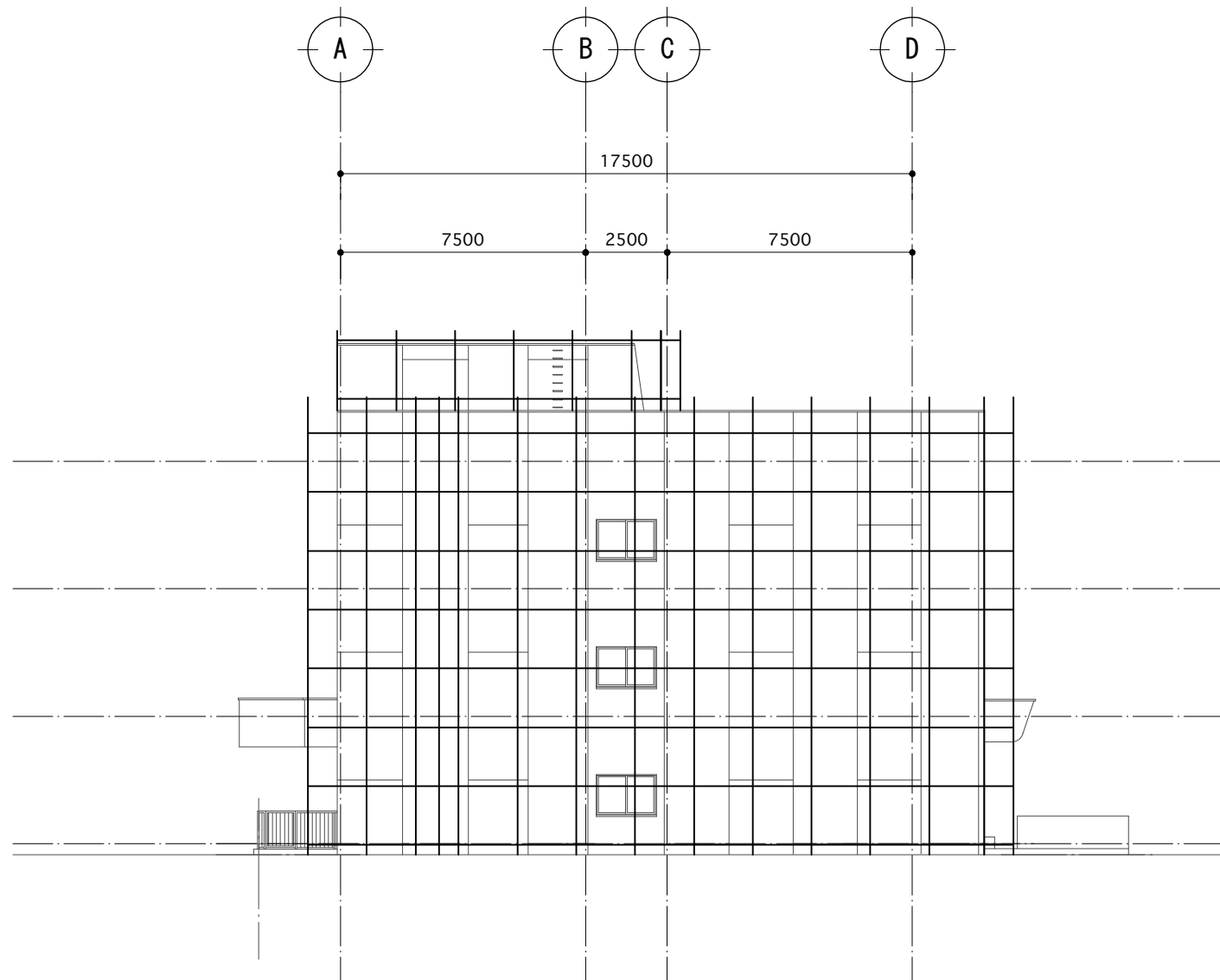
断面図



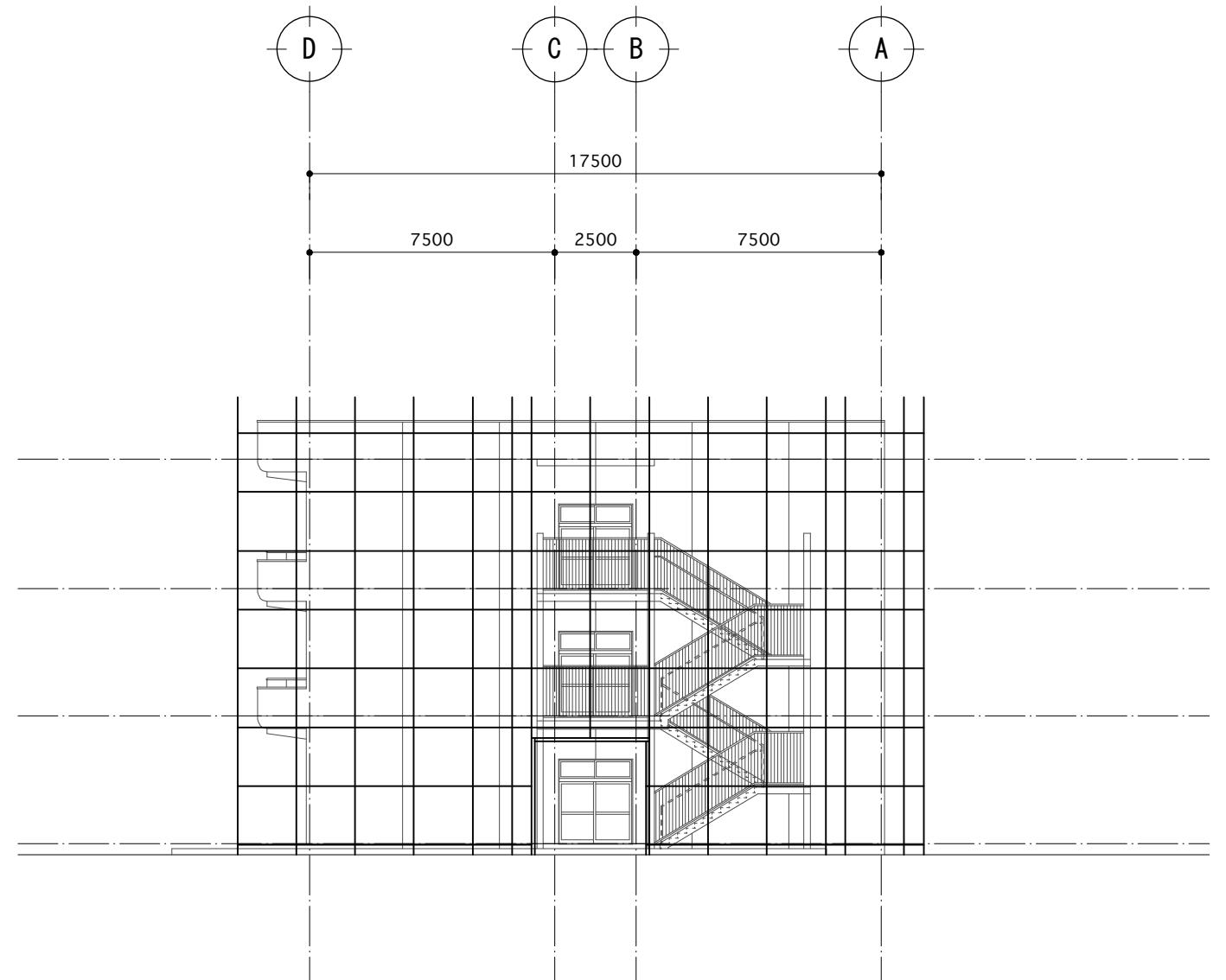
2階平面図

渡り廊下部下屋の折半屋根を一時撤去後、外部足場を組む。
ただし、渡り廊下屋根構造体を残しての工事を想定しているため、
足場をかける際は留意すること。

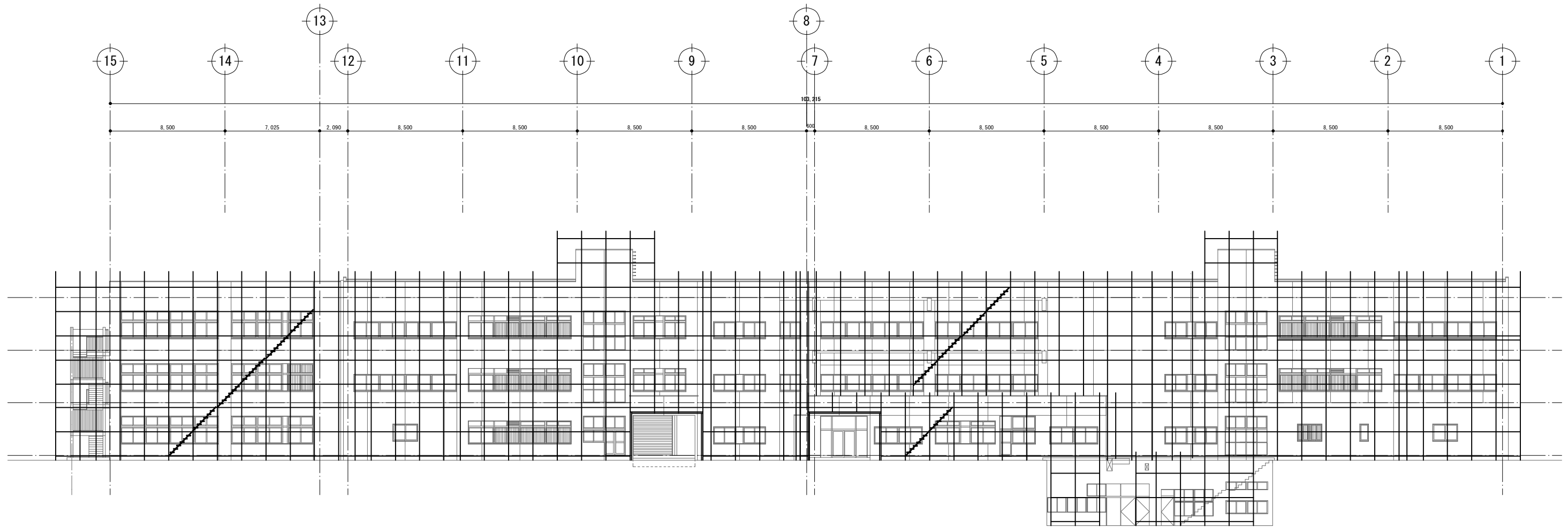




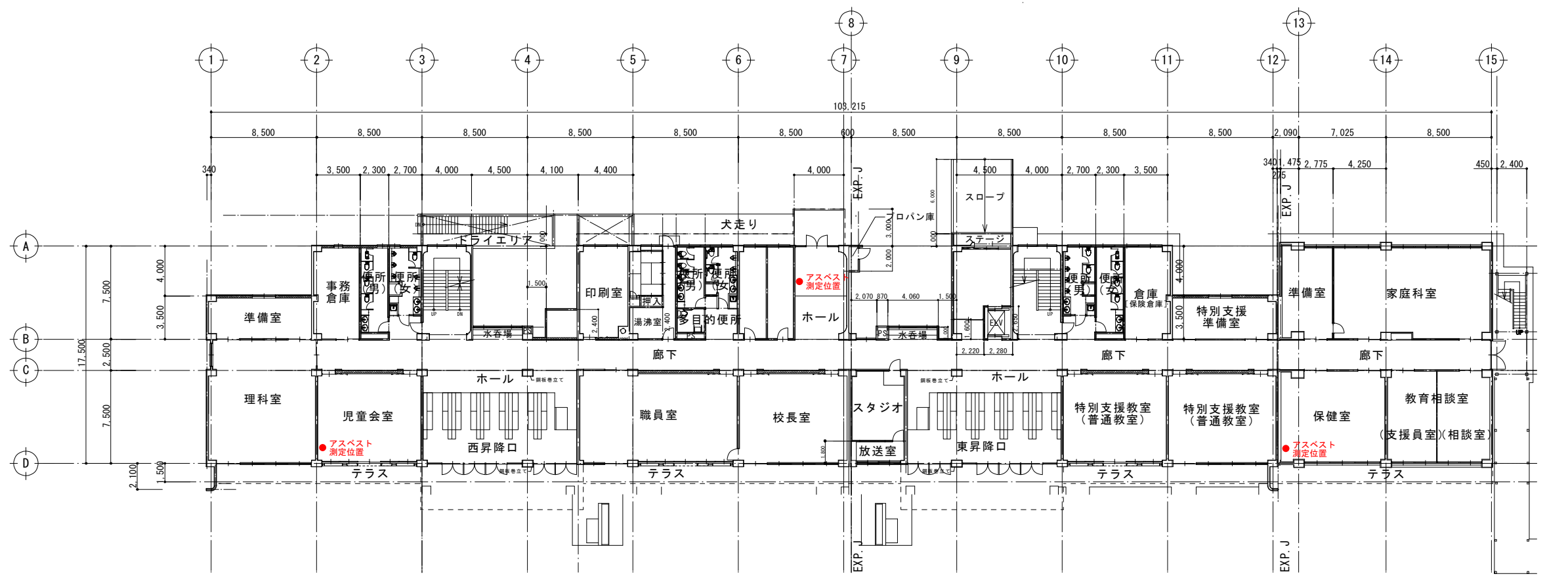
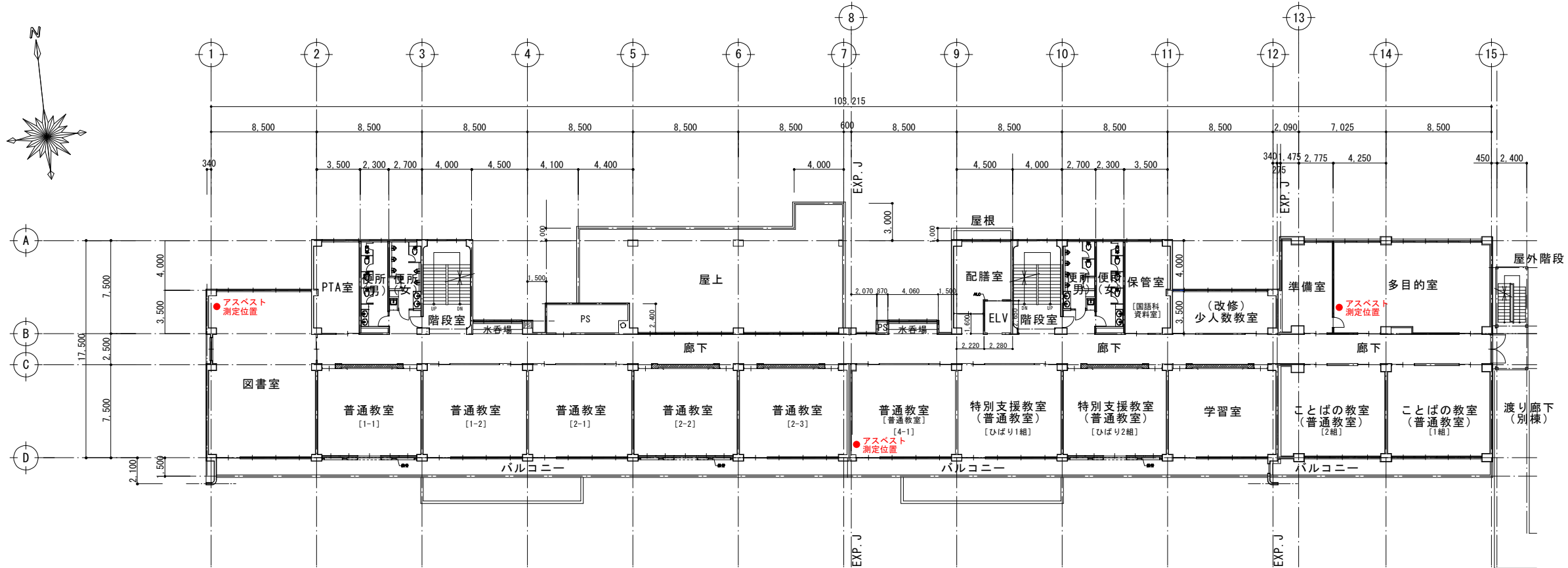
西側立面図

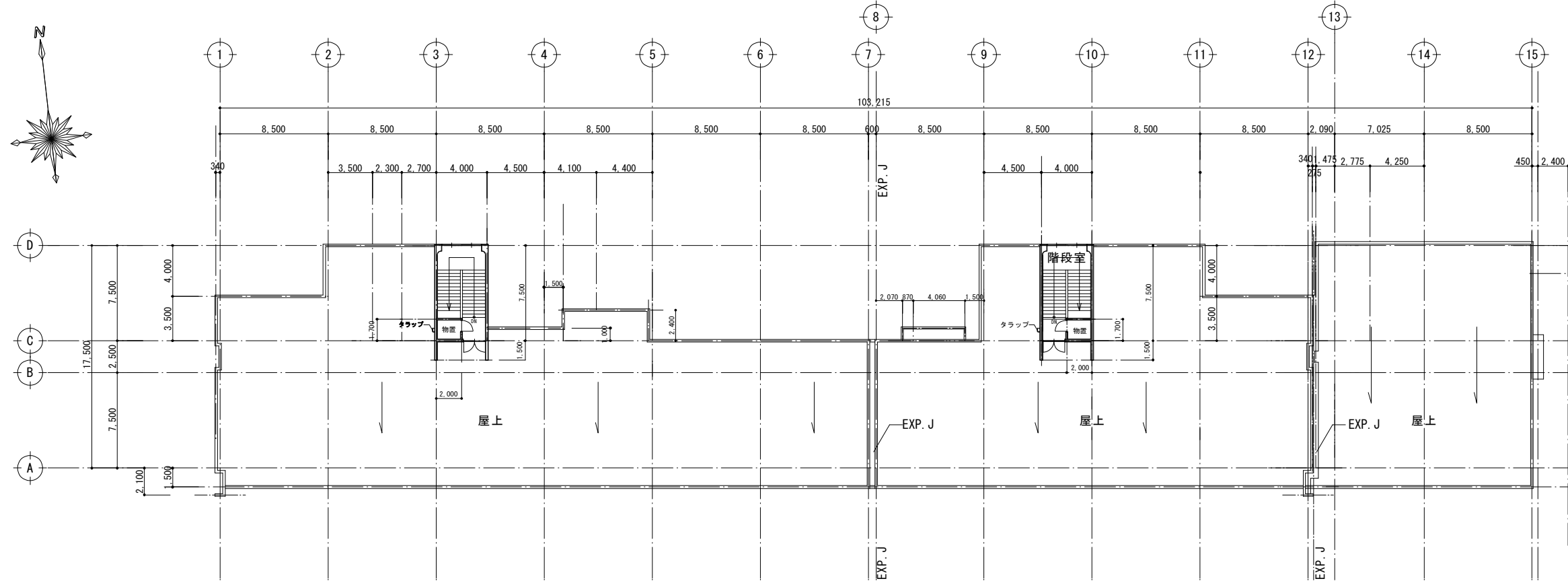


東側立面図

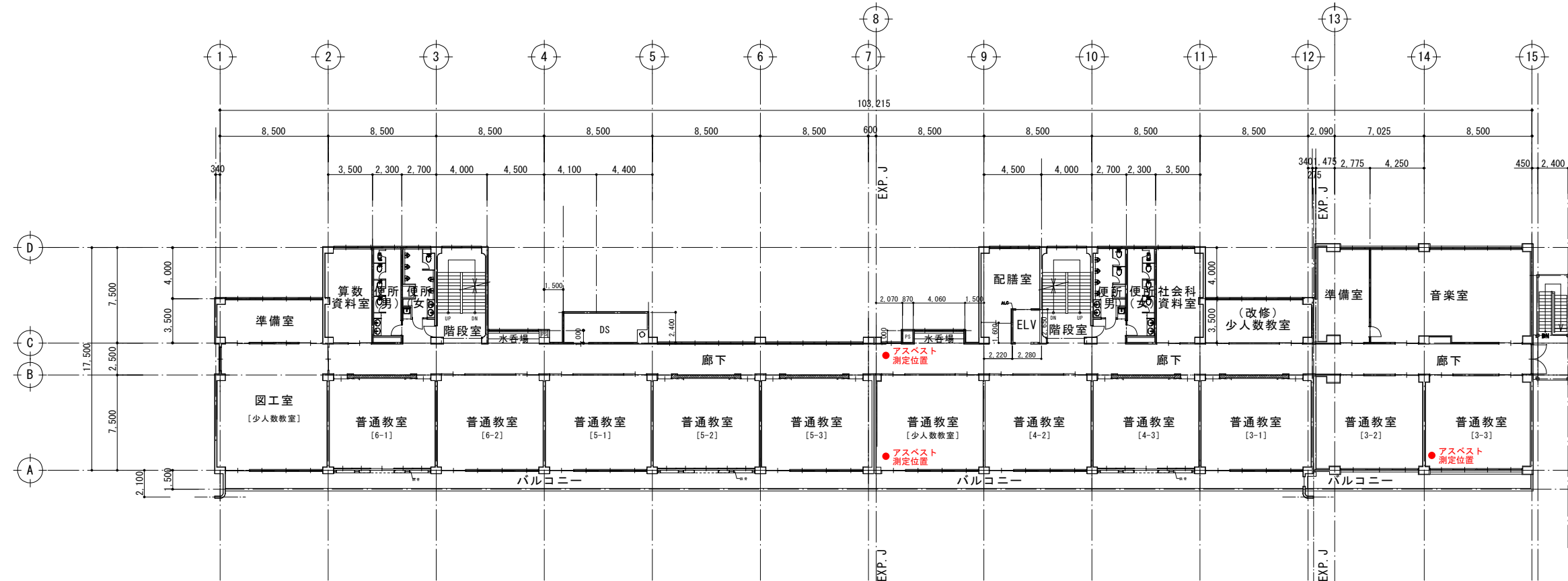


北面立面图



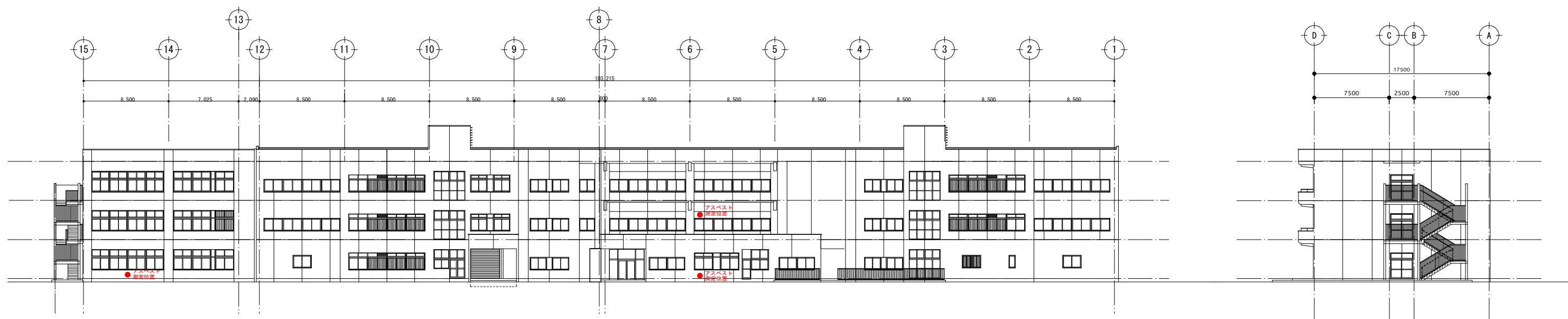
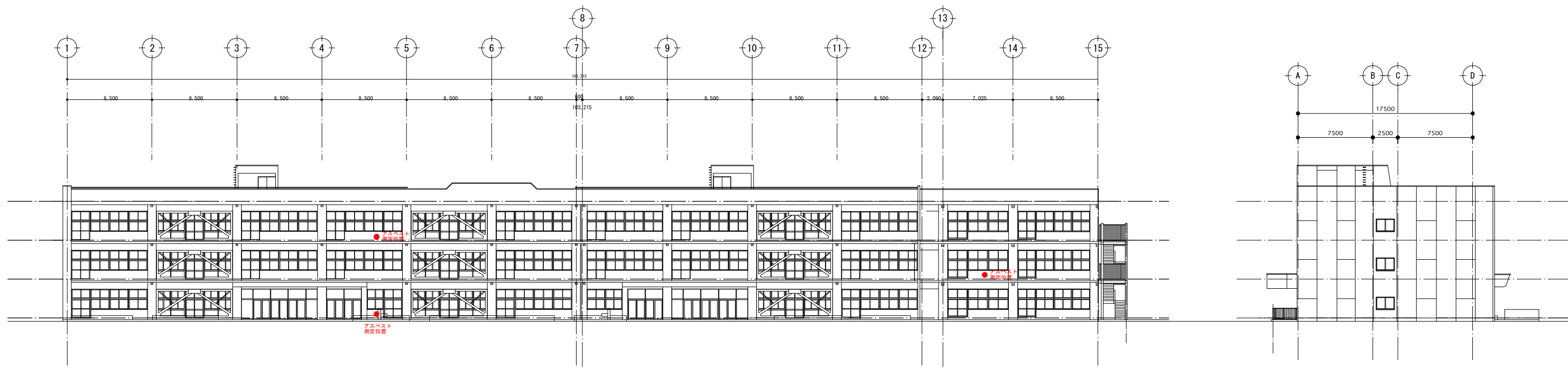


屋上平面図



3階平面図

● アスベスト 測定位置



● アスベスト 測定位置



宮城県富谷市富谷狸屋敷85

敷地位置図 1 : 5000

所在地	宮城県富谷市富谷狸屋敷85
敷地面積	18,018.86 m ²
都市計画区域	都市計画区域 市街化区域内
用途地域	第一種住居地域
その他の地域指定	—
建築面積	1796.54 m ²
延床面積	4,746 m ²

外部仕上表

部位	室名・場所	記号	仕上げ	下地	断熱材	備考
外壁（ピンネット施工部分）	北面 南面バルコニー		無機複合フッ素樹脂塗装	中塗り塗布②	-	
				アンカーピン		
				ネット貼り付け		
				中塗り塗布①		
			プライマー			
外壁（ピンネット未施工部分）	東面・西面 南面躯体 塔屋（東西）		無機複合フッ素樹脂塗装	コンクリート	-	
バルコニー床面	南面バルコニー		シート防水（軽量歩行）	-	-	

内部仕上表

部位	室名・場所	記号	仕上げ	下地	断熱材	備考
壁面	西側階段室		EP塗装	コンクリート	-	